

2019 年度以降の入学生

教養基礎領域

自然・人間・社会	
生命科学	2
教育原理	4
教育心理学	6
教育制度論	8
物理学	10
化学	12
統計学の基礎	14
医療法学	16
基礎講座	18
基礎演習	20
国際・地域	
英語Ⅲ (看護英語)	22

専門基礎領域

社会と環境	
保健統計学	24
公衆衛生学	26
保健医療行政論	28
社会福祉概論	30
家族関係論	32
養護概説	34
こころと発達	
生涯発達心理学	36
臨床心理学	38
カウンセリング	40
体の仕組みと働き	
解剖学Ⅰ	42
解剖学Ⅱ	44
生理学Ⅰ	46
生理学Ⅱ	48
生化学	50
代謝・栄養	52
疾病の成り立ちと回復	
微生物・感染	56
病理・病態	58
健康障害論Ⅰ	60
健康障害論Ⅱ	62
薬理・薬剤	64
臨床栄養	66

看護専門領域

基礎看護学	
看護学原論Ⅰ	66
看護学原論Ⅱ	68
基礎看護技術Ⅰ	70
基礎看護技術Ⅱ	72
基礎看護技術Ⅲ	74
基礎看護技術Ⅳ	76
基礎看護技術Ⅴ	78
成人看護学	
成人看護学概論	80
成人看護援助論Ⅰ	82

老年看護学

老年看護学概論	84
老年看護援助論Ⅰ	86
母性看護学	
母性看護学概論	88
母性看護援助論Ⅰ	90
小児看護学	
小児看護学概論	92
小児看護援助論Ⅰ	94
精神看護学	
精神看護学概論	96
精神看護援助論Ⅰ	98
在宅看護学	
在宅看護学概論	100

看護の統合

地域包括ケア看護論	102
国際看護論	104
国際看護研修	106
臨地実習	
地域看護学実習	108
基礎看護学実習Ⅰ	110
基礎看護学実習Ⅱ	112
老年看護学実習Ⅰ	114
公衆衛生学	
公衆衛生看護学概論	116
公衆衛生看護技術論	118
公衆衛生看護技術論演習	120

教職に関する科目

教職概論	122
学校保健	124
特別支援教育概論	126
教育課程・方法論	128
教育相談の理論と方法	130
学校体験活動	132

2018 年度以前の入学生

教養基礎領域

総合科目	
キャリアデザイン	134

専門基礎領域

社会と環境	
疫学	136
こころと発達	
臨床心理学	138

看護専門領域

成人看護学

成人看護援助論Ⅱ	140
成人看護援助論Ⅲ	142
成人看護援助論演習	144
急性期看護学実習	146
慢性看護学実習	148

老年看護学

老年看護援助論演習	150
老年看護学実習Ⅱ	152

母性看護学

母性看護援助論演習	154
母性看護学実習	156

小児看護学

小児看護援助論Ⅱ	158
小児看護学実習	160

精神看護学

精神看護援助論Ⅱ	162
精神看護学実習	164

在宅看護学

在宅看護学概論	166
在宅看護援助論	168
在宅看護学実習	170

看護の総合

看護倫理	172
看護管理論	174
災害看護論	176
高度実践看護論	178
看護研究Ⅰ	180
看護研究Ⅱ	182
統合演習	184
統合実習	186
国際看護実習	188

公衆衛生看護学

公衆衛生看護活動展開論演習	190
公衆衛生看護技術論	192
公衆衛生看護技術論演習	194
公衆衛生看護総合演習	296
公衆衛生看護管理論	298
公衆衛生看護学実習	200

教職に関する科目

養護概説	202
教育制度論	204
道徳及び特別活動の指導法	206
生徒指導の理論と方法	208
教育相談の理論と方法	210
養護実習事前事後指導	212
養護実習Ⅰ	214
養護実習Ⅱ	216
教職実践演習 (養護教諭)	218

科目名	生命科学	
科目責任者	熊澤 武志	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester	
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	生命科学は、生命の営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問である。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とする。	
到達目標	1. 生体のリズムについて説明できる。 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べることができる。 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：生体リズム 第 2 回：細胞と細胞周期 第 3 回：遺伝子の発現とその制御 第 4 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療 第 5 回：フリーラジカルとストレス 第 6 回：がんの生物学 第 7 回：血液型の科学 第 8 回：中間のまとめとテスト 第 9 回：薬物依存 第 10 回：放射線の生物への影響 第 11 回：幹細胞と再生医療 第 12 回：DNA 鑑定と個人識別 第 13 回：出生前診断 第 14 回：生命科学の倫理 第 15 回：生命と死・まとめ	<担当教員名> 熊澤 武志 熊澤 武志 黒崎 久仁彦 熊澤 武志 長谷川 智華 熊澤 武志

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリアクションペーパーの作成などに取り組んでもらいます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	中間テスト (40%)、定期試験 (40%)、平常点 (20%) を総合的に評価します。平常点には小テスト、リアクションペーパー、レポート、授業への取り組みなどが含まれます。
課題に対する フィード バック	小テストは採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、2~7 回目の授業で前回の授業範囲の中から簡単な小テストを実施しますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了~18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	教育原理
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>教員免許状の取得を目指す学生が、教員として現場で教育活動に従事する際に、最低限必要と思われる「教育の原理」の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>「教育はどういう営みか」という基本的な問いに始まり、日本と諸外国の教育の思想と歴史を理解し、現代における教育の役割と意義について考える。</p>
到達目標	<p>1. 教育とは何か、その意義と目的について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. わが国と欧米諸国の学校教育の歴史を理解し、古代、中世、近代、現代におけるその特徴を明できるようにする。</p>
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：教育とは何か</p> <p>第 2 回：形成と教育</p> <p>第 3 回：遺伝の重要性と限界</p> <p>第 4 回：自然環境と社会環境</p> <p>第 5 回：教育の社会的機能</p> <p>第 6 回：教育とは何かについてのまとめ</p> <p>第 7 回：教育の歴史：公教育制度または国民教育制度とは</p> <p>第 8 回：近代公教育成立以前：中世の学校</p> <p>第 9 回：こどもの発見</p> <p>第 10 回：フランス革命と公教育制度</p> <p>第 11 回：産業革命と近代学校の誕生</p> <p>第 12 回：新教育運動・福祉国家と公教育制度</p> <p>第 13 回：日本における公教育制度の成立と展開：戦前日本の公教育体制の確立</p> <p>第 14 回：戦後日本の教育改革の理念と展開</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、ミニッツ・ペーパー、復習テスト
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業内評価点 (60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%) + 最終テスト (40%) *毎回の授業の最後には、小テストを実施して平常点として評価します。
課題に対する フィード バック	・テストの解答例の提示、テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント、
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
参考図書	授業中に適時提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して次の授業に臨んでください。2 回～15 回 ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。2～15 回 ・毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	中学校・高等学校教諭、浜松市公立学校の学校運営協議会委員などを経験しています。

科目名	教育心理学	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。	
到達目標	1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団（対人関係）、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：教育心理学を学ぶことの意義 第 2 回：動機づけ・やる気を高める 1（内発的／外発的動機づけ） 第 3 回：動機づけ・やる気を高める 2（原因帰属、学習性無力感） 第 4 回：動機づけ・やる気を高める 2（自己効力、目標設定） 第 5 回：記憶について（短期記憶、長期記憶、忘却） 第 6 回：学習理論について 1（古典的／道具的条件づけ） 第 7 回：学習理論について 2（観察学習、代理強化） 第 8 回：学習の形態・教授方法について 第 9 回：教育評価（児童生徒をどう評価するのか） 第 10 回：児童生徒－教師関係（ピグマリオン効果） 第 11 回：学級という集団（集団規範、集団圧力、凝集性） 第 12 回：学校における適応と不適応 1（総論） 第 13 回：学校における適応と不適応 2（いじめ） 第 14 回：学校における適応と不適応 3（不登校） 第 15 回：学校における養護教諭の役割	<担当教員名> 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 津田聡子

アクティブ ラーニング	授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。
授業内の ICT 活用	クリッカーを使って授業内での理解度確認などを行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験70%, 授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー、WebClass での事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、WebClass での事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。また、WebClass での事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。WebClass での事後課題は5~13回目の間に5回程度出す予定。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし。

科目名	教育制度論
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	教育を「公的に制度化され、組織化されてきたもの」ととらえ、日本の教育制度はどのような原則と理論的枠組みで組織されているのか、社会においてどのような機能を果たしているかを理解する。教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みを理解し、その下で運営される学校経営の組織と人員配置について理解を深める。最後に、現在の教育制度改革の論議を取り上げ、今後の教育制度の創造へのあり方を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているか説明できるようにする。 2 教育制度を運営する教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みと学校経営について理解を深め、説明できるようにする。 3 今日の公教育制度の問題点と教育制度改革について理解し、説明できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：公教育・私教育とは何か？</p> <p>第 2 回：公教育の制度的原理</p> <p>第 3 回：日本の教育制度：我が国の学校教育体系と教育制度の類型</p> <p>第 4 回：日本の教育制度の歴史</p> <p>第 5 回：諸外国の教育制度</p> <p>第 6 回：教育行政の組織と活動 1：教育行政とは</p> <p>第 7 回：教育行政の組織と活動 2：文部科学省について</p> <p>第 8 回：教育行政の原則と活動 3：教育委員会の仕組み</p> <p>第 9 回：教育行政の組織と活動：教育委員会の組織と活動</p> <p>第 10 回：教育行政の組織と活動：教育委員会による教員採用</p> <p>第 11 回：学校経営：学校経営の組織と人員配置</p> <p>第 12 回：教育改革：学校選択と学校参加</p> <p>第 13 回：教育改革：学校と地域の協働・チーム学校の取り組み</p> <p>第 14 回：教育改革：コミュニティースクールのレポート作成</p> <p>第 15 回：学校の危機管理・安全対策</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを使って行います。
評価方法	小テスト 40% 提出レポート 20%、定期テスト 20% ・毎回の授業終了時に小テストを行う、5 点満点で 13 回実施、40 点分に換算する。論述式のテストで評価を行う。
課題に対する フィード バック	・テストの解答例の提示、テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント、
指定図書	・授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	・授業中に適時提示します。
事前・ 事後学修	・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して次の授業に臨んでください。(2 回～15 回目) ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。(2～15 回目) ・毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm ・浜松市教育委員会 HP https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kyoiku/kyoiku/inkai/index.html
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	・中学校・高等学校教諭、浜松市公立学校の学校運営協議会委員などを経験しています。

科目名	物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「お年寄りにはなぜ杖をつくのかわか？」この質問に明快な回答ができるだろうか。杖をつかないと転倒することは感覚的に理解できるが、誰もが納得できるよう論理的に説明するのは難しい。物理学は自然界における現象や性質を理解することを目的とする学問分野であり、自然現象の「なぜ？」の幾つかを解決する。本授業では、物理学の一部の内容を対象に基礎的な概念を習得することを目指す。なお、高等学校「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生にも配慮する。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言葉で分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス、物理学とは何か、物理量とその表し方 第2回：変位・速度・加速度、等速直線運動、等加速度直線運動 第3回：力の合成と分解、ニュートンの第1法則（慣性の法則） 第4回：ニュートンの第2法則（運動の法則） 第5回：ニュートンの第3法則（作用・反作用の法則） 第6回：重力、垂直抗力 第7回：摩擦力 第8回：問題演習（1） 第9回：運動方程式 第10回：仕事、エネルギー（位置エネルギー、運動エネルギー、食物エネルギー） 第11回：重心、力のモーメント 第12回：重心の合成、問題演習（2） 第13回：圧力、浮力 第14回：波動、音 第15回：総まとめ</p>

アクティブラーニング	ビデオ閲覧と学習管理システムを用いた確認用の小テストを事前課題とする反転授業を実施する。授業においてはグループによる問題演習を行う。
授業内のICT活用	パソコンを使用するので、毎時間持参すること。
評価方法	小テスト 30%, リアクションペーパー 10%, 定期試験 60%として評価する。
課題に対するフィードバック	学習管理システムを用いた小テストを行い、解答後即座に正解・解説と採点結果を返す。また、授業毎のリアクションペーパーを学習管理システムにより提出してもらい、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	中野正博『看護・医療技術者のためのたのしい物理』, 日本理工出版会
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校「物理基礎」「物理」教科書 ・演習用の問題プリントを適宜配布する
事前・事後学修	事前学修として、指定されたビデオ教材を閲覧し小テストを行うこと。事後学修として、授業中に指定する演習問題を解き理解を深めること。目安時間 40 分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3517 研究室</p> <p>時間：木曜日 9 時～12 時</p> <p>上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	なし

科目名	化学
科目責任者	有信 哲哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生命現象を分子レベルで理解するための基盤となる有機立体化学・反応有機化学の基本を学び、生体分子の機能を分子レベルで理解できることを学ぶ。また、今後も発展する看護学・医学・生命科学に対して生涯に渡って自律的に学び続けるための学力的な基盤をつくる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子から分子がどのようにつくられるかを説明できる。 2. 有機化合物の立体構造を表記できる。 3. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。 4. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：物質の構造 第2回：電子配置 第3回：周期表，電気陰性度，分子間相互作用 第4回：極性と分子の形，VSEPR 則，結合角，骨格構造式 第5回：官能基，炭化水素① アルカン 第6回：炭化水素② シクロアルカンと立体配座 第7回：炭化水素③ 不飽和炭化水素 第8回：付加反応 第9回：アルコール，エーテル，アルデヒド，ケトン 第10回：カルボン酸とエステル，油脂 第11回：芳香族化合物 第12回：油脂 第13回：単糖類 第14回：二糖類，多糖類 第15回：アミノ酸，タンパク質</p>

アクティブラーニング	その他（分子模型を用いたアクティブラーニング） 基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、学生自身が分子模型を組み立てることで分子の構造や安定性について、学生自ら考えてもらう。
授業内のICT活用	特になし
評価方法	原則筆記試験100%
課題に対するフィードバック	講義中に行う確認テストに関しては、詳細な解説を行う。
指定図書	橋爪健著作 橋爪のゼロから劇的！にわかる 無機・有機化学の授業（旺文社） 橋爪健著作 基礎からのジャンプアップノート 無機・有機化学（旺文社） HGS 分子構造模型 A型セット 有機化学入門用（丸善出版） ISBN：978-4-621-30126-5
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習では、授業計画の該当項目について、教科書を読むこと（40分）。 事後学習では、講義ノート、教科書等を読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	統計学の基礎
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護学を学ぶ過程では、医療に関するさまざまなデータを扱うことになる。それらのデータを処理するためには数学や統計学の基本的な知識・理論が必要となる。この科目では、看護学の学修に必要な数学・統計学の基礎となる知識や計算力、思考力の修得を目的とする。単に計算方法を暗記するのではなく、考える過程や理論を修得することに重点を置く。
到達目標	1. 看護計算や統計学の基礎となる数学の基礎知識を理解できる。 2. 問題を論理的に理解し、計算式を立て、これを解くことができる。 3. データの特徴をとらえ、図表や指標を用いて示すことができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス、基礎知識の確認 第 2 回：単位の換算 第 3 回：割合の計算 第 4 回：比の計算 第 5 回：濃度の計算 第 6 回：速さと時間と量の関係 第 7 回：圧力の計算 第 8 回：演習問題と解説 (1) 第 9 回：統計学とは、データの分類 第 10 回：データの特徴を図表で示す 第 11 回：データの特徴を数値で示す 第 12 回：2 つのデータの間を関係を図表で示す 第 13 回：データの分布と確率 第 14 回：確率に基づくデータの分析 第 15 回：演習問題と解説 (2)、まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学習管理システム(WebClass)を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向授業を実施します。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	演習問題の解説やリアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、学習管理システム(WebClass)への提示などによって行います。
指定図書	なし 毎回、講義用プリントを配布します。
参考図書	必要に応じて随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する学習管理システム上の資料に目を通しておくこと（10分）。 事後学修：配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（30分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時学習管理システム（WebClass）に掲載します。 事前・事後学修に活用してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階） 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	医療法学	
科目責任者	熊澤 武志	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	<p>社会の中で人と人が物事を円滑に遂行するためには法という一定のルールを守る必要がある。医療従事者もその責務を果たす上で法を遵守することは重要である。何故なら医療従事者が法に違反することは、社会における医療への信用・信頼を失墜させる要因になりかねないからである。本科目では医療従事者自身および医療従事者を取り巻く法を学び、種々の事例を踏まえ、将来医療従事者として働くために必要な基本的な法的知識を身につけることを目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の基本的原理と裁判のしくみについて説明できる。 2. 医療従事者の民事責任、刑事責任、行政処分について理解できる。 3. 犯罪被害者や犯罪者に対する医療について理解できる。 4. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できる。 5. 医療従事者の裁判事例から医療事故の問題点を述べることができる。 6. 医療従事者を取り巻く法的知識について関心を高めることができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ</p> <p>第 2 回：医療従事者と民事責任</p> <p>第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分</p> <p>第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療</p> <p>第 5 回：医療安全</p> <p>第 6 回：医療関連死</p> <p>第 7 回：医事紛争</p> <p>第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>熊澤 武志</p> <p>長谷川 智華</p> <p>長谷川 智華</p> <p>長谷川 智華</p> <p>佐久間 由美</p> <p>長谷川 弘太郎</p> <p>武市 尚子</p> <p>熊澤 武志</p>

アクティブラーニング	授業ではリアクションペーパーの作成のほか、学生同士のディスカッションも取り入れながら進めます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	平常点（50％）とレポート（50％）を総合的に評価します。平常点にはリアクションペーパーや授業への取り組みなどが含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは使いません。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、事前学修40分程度、事後学修40分程度を費やします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は看護師、医師、弁護士、法医鑑定の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎講座
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、人と接する態度・礼節などを理解することは、大学初年次生に求められるスチューデント・スキルである。本科目では、初年次に身につけるべき学修習慣のほか、協調性やコミュニケーション技術を修得し、大学で学ぶための人間関係を構築できる基礎力を身につけることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な学習方法を理解し、学修習慣を身につける。 2. 学修ポートフォリオの意義と作成方法を理解する。 3. 基礎的なコミュニケーション技術を習得し、自らの意見の伝達ができる。 4. 多様な物の見方や異なる価値観を理解しようとする態度を身につける。 5. 人と接する態度・礼節などの一般常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動ができる。 6. 学生間の人間関係を構築できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション 熊澤・榎原・安田・式守・津田・隆・小出・乾・氏原・小池・清水・早川・松元・室加・山本・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回から8回の授業の内容と課題を理解する。 ・ WebClass の使い方を学ぶ。 ・ 大学で学修することの意義を学ぶ。 <p>第2回：他者紹介 安田・熊澤・式守・津田・隆・小出・乾・松元・小池・早川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生間でインタビューを行い、その内容をまとめ、他者紹介を行う。 ・ グループ内で感想を語り合い、他者紹介を振り返る。 <p>第3回：インタビューガイドの作成 式守・小出・乾・松元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者紹介で学んだことを整理する。 ・ インタビュー内容をまとめる方法を理解する。 ・ インタビュー対象者に対するインタビューガイドを作成する。 <p>第4回：ポートフォリオ、ルーブリックとは 津田・熊澤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポートフォリオの目的、作成法、活用法、評価基準を理解する。 ・ ルーブリックによる評価法を理解する。 <p>第5回：資料を探す・学びを記録する 津田・熊澤・隆・安田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の利用方法を学ぶ。 ・ e ポートフォリオの使い方を学ぶ。 <p>第6回：グループディスカッションとまとめ 熊澤・安田・式守・隆・小出・氏原・小池・早川・松元・室加・山本・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のインタビューレポートをグループで報告する。 ・ 「コミュニケーションとは」について、グループディスカッションを行う。 ・ 質疑応答や意見交換を積極的に行い、理解を深める。 ・ 結果をまとめる。 <p>第7・8回：先輩の姿を知る 津田・小出・乾・松元・小池</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師、保健師、助産師、養護教諭の各先輩からコミュニケーションをテーマにした講話を聞く。 ・ 専門職に必要なコミュニケーションについて考え、グループディスカッションする。 ・ 先輩と質疑応答・意見交換を積極的に行い、理解を深める。

アクティブラーニング	演習科目です。グループ学修、ロールプレイング等を行います。
授業内のICT活用	WebClass を活用し、リアクションペーパー、レポート、eポートフォリオ等を作成します。
評価方法	リアクションペーパー (20%)、インタビューレポート (30%)、グループディスカッションとまとめ (20%)、eポートフォリオ (30%) を総合的に評価します。なお、インタビューレポートとeポートフォリオは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーはWebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後にWebClass 上で対応します。
指定図書	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康 著、講談社現代新書、2018 (基礎演習の指定図書と同じ)
参考図書	なし
事前・事後学修	<授業時間外での学修内容と学修時間の目安> 事前学修：毎時間提示される課題を準備する (40分程度)。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する (40分程度)。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者 (熊澤) の研究室は1716です。 事前にメール (takeshi-ku@seirei.ac.jp) で連絡してください。
実務経験に関する記述	なし

科目名	基礎演習
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのため の技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するた めに欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得 し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。
到達目標	1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回 ガイダンス/大学で看護を学ぶこと 隆・長峰・室加・山本・清水・氏原・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要説明 ・看護教員による講話 <p>第 2 回 レポートとは/レポート作成の基本事項 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートとは何か、レポートの形式や書き方の基本事項について <p>第 3 回 レポートのルール/引用文献・参考文献 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する <p>第 4 回 文章を要約する 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる <p>第 5 回 見聞きした内容を記録する 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張の根拠となる情報を正確にメモできる <p>第 6 回 レポートの組み立て方 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて <p>第 7 回 伝わりやすい文章の書き方 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成の仕方の基本を理解する <p>第 8 回 プレゼンテーションについて 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表の方法、注意点など <p>第 9 回 学生相互のレポート添削 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したレポートを学生間で相互評価しフィードバックを得る <p>第 10 回 グループワークオリエンテーション 隆・早川・有村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 名程度のグループに分かれ、自ら設定したテーマに沿った資料を収集し、発表する。 <p>第 11・12・13 回 グループワーク 隆・早川・有村・他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについての情報収集・ディスカッション ・グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り <p>第 14・15 回 グループ発表・まとめ 隆・長峰・室加・山本・清水・氏原・早川 有村・熊澤・津田・安田・式守・小出・乾・松元・小池</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表 ・ルーブリックを活用した他者評価、教員からのフィードバック ・授業内容の振り返り

アクティブ ラーニング	演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパー、レポート、グループワークの進捗・成果報告、e-ポートフォリオ等を作成します。 グループワークでは、PC を活用して情報収集や資料作成を行います。
評価方法	リアクションペーパー (20%)、レポート (30%)、グループ発表資料と発表内容 (40%)、e-ポートフォリオ (20%) を総合的に評価します。 なお、レポート・グループ発表は、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは WebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に WebClass 上で対応します。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。
指定図書	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書
参考図書	『看護学生のための よくわかる大学での学び方』前原澄子・遠藤俊子、金芳堂
事前・ 事後学修	事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む (25 分程度)。 事後学修：授業の学びをまとめ、ポートフォリオに記録する (15 分程度)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者 (看護学部：隆) の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	英語Ⅲ（看護英語）
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「グローバル看護」の概念を中心に、看護職者に求められる多言語・多文化への対応力を養う。本科目を通して対象者の多様性を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れる。前半は講義と視聴覚教材で「看護英語」の世界に親しみ、語彙力、およびロールプレイ等ができる基礎的な対話力を養う。後半は外国人保健医療の課題についてグループワークで学修し、英語でプレゼンテーションを行う。
到達目標	①看護の専門用語、ケアに関する語彙を英語で 300 語以上覚える。 ②外国人患者を病院内で案内ができる。バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 ③地域在住の外国人保健医療について考える機会を持ち、地域で展開する「グローバル看護」についてグループワークを通して理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名> パターソン・ドナルド、高瀬奈美、土江綾</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位</p> <p>第 2 回：Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする</p> <p>第 3 回：Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する</p> <p>第 4 回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする</p> <p>第 5 回：Taking Vital Signs バイタルサインを確認する</p> <p>第 6 回：発表会</p> <p>第 7 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 8 回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする</p> <p>第 9 回：Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする</p> <p>第 10 回：Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する</p> <p>第 11 回：Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする</p> <p>第 12 回：Coping with Emergencies 緊急時に対処する</p> <p>第 13 回：グループ発表会</p> <p>第 14 回：グループ発表会</p> <p>第 15 回：最終テスト、まとめ</p>

アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は地域在住の外国人保健医療に関する課題を取り上げ、問題解決型プロジェクトをグループで行い、発表する。
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点(事前学習、授業態度)10%、レポート10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表20%、最終テスト20%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価(プレゼンテーション)
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder (作者) (Cengage センゲージ)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ(発音記号を含む)、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習(パラレルリーディング、シャドーイング等)を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安:事前学修30分~1時間、事後学修30分~1時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	保健統計学
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	根拠に基づく看護の実践において、さまざまなデータを正しく理解し適切に活用するための統計学の知識は必要不可欠である。この科目では、看護専門職者に求められる統計学について、基礎的な理論と分析手法を系統的に学修することを目的とする。単なる暗記ではなく、論理的に考えて結論を導き出す過程に重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示することができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。 5. クロス表を作成し、検定ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く</p> <p>第 3 回： 分布の代表値</p> <p>第 4 回： 分布の散布度</p> <p>第 5 回： 確率分布・正規分布</p> <p>第 6 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 7 回： 割合に関する分布</p> <p>第 8 回： 統計的仮説検定</p> <p>第 9 回： 2 グループの母平均値の差の検定</p> <p>第 10 回： 1 変数についての解析 まとめ</p> <p>第 11 回： 相関図と相関係数</p> <p>第 12 回： 相関係数の検定と推定</p> <p>第 13 回： クロス集計とクロス表の検定</p> <p>第 14 回： 関連係数、2x2 のクロス表について</p> <p>第 15 回： 2 変数についての解析 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学習管理システム(WebClass)を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向授業を実施します。
評価方法	小テスト 20%、定期試験 80%
課題に対する フィード バック	小テストや演習問題の解説、リアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、学習管理システム(WebClass)への提示などによって行います。
指定図書	『ナースのための統計学 第2版』高木廣文、医学書院
参考図書	必要に応じて随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15分）。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（25分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時学習管理システム（WebClass）に掲載します。 事前・事後学修に活用してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階） 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 公衆衛生の概念 第2回 疾病予防、健康増進、公衆衛生活動 第3回 人口統計① (人口静態統計、平均余命) 第4回 人口統計② (人口動態統計) 第5回 健康指標 第6回 生活習慣病の予防① (総論、健康づくり) 第7回 生活習慣病の予防② (栄養、運動、休養、その他) 第8回 感染症とその対策① 感染症予防法 第9回 感染症とその対策② 予防接種、その他 第10回 食品衛生 食中毒、食品汚染 第11回 産業保健 第12回 生活環境① 居住環境、室内汚染 第13回 生活環境② 上下水道、廃棄物 第14回 生活環境③ 騒音、振動、大気汚染 第15回 環境保健 地球環境問題 (地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、その他)</p>

アクティブラーニング	問題演習を取り入れた授業を行います。
授業内のICT活用	資料の提示
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対するフィードバック	演習問題の提示と解説を行います。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2020 南江堂 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会
参考図書	医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 2018
事前・事後学修	事前学修は不要です。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。提示した課題の内容を中心として各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は 30 分～60 分です。
オープンエデュケーションの活用	
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	保健医療行政論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。
到達目標	わが国における保健医療福祉行政および保健医療福祉サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療福祉行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握する。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 イントロダクション、保健医療福祉行政の概念 第2回 保健医療福祉行政の仕組み①(行政組織、地方自治体) 第3回 保健医療福祉行政の仕組み②(財政基盤、医療費) 第4回 社会保障制度① 社会保障の概要 第5回 社会保障制度② 医療保険制度、国民健康保険 第6回 社会保障制度③ 被用者保険 第7回 社会保障制度④ 年金保険制度、国民年金 第8回 社会保障制度⑤ 厚生年金、その他 第9回 社会保障制度⑥ 介護保険制度、介護認定 第10回 社会保障制度⑦ 介護サービス 第11回 社会保障制度⑧ 雇用保険、労働者災害補償保険 第12回 社会福祉制度① 生活保護 第13回 社会福祉制度② 障害者福祉 第14回 社会福祉制度③ 児童家庭福祉 第15回 社会福祉制度④ 高齢者福祉</p>

アクティブラーニング	問題演習を取り入れた授業を行います。
授業内のICT活用	資料の提示
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対するフィードバック	演習問題の提示と解説を行います。
指定図書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉 医学書院
参考図書	保健医療福祉行政論 メジカルフレンド社 国民の福祉と介護の動向 2020/2021 厚生統計協会 保険と年金の動向 2020/2021 厚生統計協会 国民衛生の動向 2020/2021 厚生統計協会
事前・事後学修	事前学修は不要です。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。提示した課題の内容を中心として各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は 30 分～60 分です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	社会福祉概論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>野田由佳里</p> <p>第1回：現代社会における社会福祉：基礎概念 事前課題1：社会福祉の意味・社会福祉法第3条・第4条を調べる</p> <p>第2回：福祉サービス：社会福祉の仕組み 事前課題2：「日常生活」の意味を調べる</p> <p>第3回：社会福祉と「日常生活」の意味を考える 事前課題3：生活の営みを考える</p> <p>第4回：「日常生活を営む」ことの支援の意味を考える 事前課題4：憲法第25条を調べる</p> <p>第5回：憲法第25条「最低限度の生活」と社会福祉の歩み：社会保障・公的扶助 事前課題5：ホームレスの定義を調べる</p> <p>第6回：日本の住宅問題を社会福祉から考える 事前課題6：日常生活と社会生活の違いを調べる</p> <p>第7回：「日常生活」と「社会福祉」を障害者福祉の歩みから考える 事前課題7：ケアマネジャーの役割を調べる</p> <p>第8回：個別支援とケアマネジメントの登場：社会福祉の援助と方法 事前課題8：病院の歴史を調べる</p> <p>第9回：医療と社会福祉 事前課題9：「地域包括ケアシステム」の意味を調べる</p> <p>第10回：医療機関の役割の変化と地域包括ケアシステム 事前課題10：協働の意味を調べる</p> <p>第11回：医療と介護・福祉の協働 事前課題11：利用者支援の仕組みを調べる</p> <p>第12回：利用者支援 事前課題12：社会福祉士・介護福祉士の意味を調べる</p> <p>第13回：社会福祉職の役割と実際 事前課題13：社会福祉の課題を調べる</p> <p>第14回：少子高齢社会・人口減少社会と社会福祉の今後：社会福祉の課題</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 ・ 毎回の授業で Webclass を活用します。
評価方法	事前課題・事後課題レポート 15 回を含むミニレポート 3 回 (90%)・発言係 (10%)
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書	川上昌子「社会福祉原論読本」学文社 山辺朗子「ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開」ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので 25 分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを 15 分以上読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、40 分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (yukari-n@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	家族関係論
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	現代の家族に起きている変化と、変化を生んだ要因について社会的に学び、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を人類学的、社会的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回： 家族とは？ (1) / 世界の多様な家族 佐藤弘明 第2回： 家族とは？ (2) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第3回： 家族とは？ (3) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第4回： 家族とは？ (4) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第5回： 夫と妻 (1) / 少子化を通してみる夫と妻 佐藤弘明 第6回： 夫と妻 (2) / 少子化を通してみる夫と妻 佐藤弘明 第7回： 親と子 / 少子化を通してみる親と子 佐藤弘明 第8回： 祖父母と孫 / 少子化を通してみる祖父母と孫 佐藤弘明 第9回： 家族とは何か (心理学の立場から) 柴田俊一 第10回： システムとしての家族 柴田俊一 第11回： 児童虐待と家族 柴田俊一 第12回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達 柴田俊一 第13回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一 第14回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族 柴田俊一 第15回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	
評価方法	(佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、受講態度を加点要素とする。 (柴田) レポート100%で評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも30分はかけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

アクティブラーニング	第3回はグループワークを行う。 第4回は演習、第5・6回はグループワークとプレゼンテーション、第10-11回はシミュレーション教育を行う。 第12回は環境衛生検査の演習を行う
授業内のICT活用	プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 学校保健管理ソフト演習では、ICT機器を利用して理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	課題提出物 30%、筆記試験 70%
課題に対するフィードバック	レポート及びリアクションペーパーはコメントを添えて返却する。
指定図書	1. 三木とみ子編 『新訂 養護概説』(ぎょうせい)
参考図書	1. 津島ひろ江：「学校における養護活動の展開」ふくろう出版 2. 学校保健安全実務研究会編：「新訂版 学校保健実務必携」第一法規 3. 児童生徒の健康相談マニュアル 平成27年改訂（日本学校保健会）
事前・事後学修	1コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。 ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（2～13回目）。 ・授業前に、Webclass内の事前課題に取り組むこと（2～12回目） ・授業後に、Webclass内の小テストを実施すること（6回目、12回目） ・レポート「養護教諭の教育活動に必要な能力と能力形成に向けた自身の課題」についてレポートを作成すること ・指示された「ほけんだより」を作成すること
オープンエデュケーションの活用	文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/
オフィスアワー	科目責任者 津田 聡子 (1619 研究室:satoko-t@seirei.ac.jp) 事前に予約を入れてください。
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第2回：胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第3回：乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第4回：幼児期前半の発達1（第1次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第5回：幼児期前半の発達2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第6回：幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第7回：児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第8回：思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第9回：青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第10回：初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第11回：中年期の発達1（中年期危機）</p> <p>第12回：中年期の発達2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第13回：高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第14回：発達障害の理解と支援1（学習障害、注意欠如多動性障害）</p> <p>第15回：発達障害の理解と支援2（自閉スペクトラム症）</p>

アクティブ ラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内の ICT 活用	クリッカーを使って授業内での理解度確認などを行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験70%, 授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー、WebClass での事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、WebClass での事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。また、WebClass での事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。WebClass での事後課題は5~13回目の間に7回程度出す予定。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし。

科目名	臨床心理学
科目責任者	松瀬 留美子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は心の問題を抱えるクライアントの理解と心理的援助の方法について研究・実践する学問である。本講では、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について学び、精神医学的な知見も取り入れ、発達障害や人格病理、精神障害について基礎的な知識と心理的支援の在り方を理解する。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、映像資料や絵本を用いて心の世界と支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理臨床的なアセスメントについて理解する。 2. 学校におけるいじめ、不登校の現状の理解と心理支援、児童虐待の発生メカニズムと対応、発達障害の支援について理解する。 3. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生きる力と臨床心理学—臨床心理学の目的と方法 スクールカウンセラーと養護教諭の関係、チーム学校の考え方</p> <p>第2回：心理療法の概観 精神分析、クライアント中心療法、芸術療法、行動療法、内観療法、森田療法、</p> <p>第3回：心理検査法と自己理解 投影法、質問紙法</p> <p>第4回：児童期の情緒的問題と心理支援</p> <p>第5回：発達障害①自閉スペクトラム症の診断基準と児童青年期の状態像</p> <p>第6回：発達障害②注意欠如多動症の状態像、発達障害生徒の学校における事例の検討</p> <p>第7回：不登校の理解と学校における支援</p> <p>第8回：いじめ問題①中学校生徒の事例呈示</p> <p>第9回：いじめ問題②いじめの構造と学校における支援</p> <p>第10回：虐待と学校臨床</p> <p>第11回：思春期に起りやすい課題—摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第12回：同一性の課題—性的少数者の理解と学校での対応</p> <p>第13回：神経症的問題と精神障害—対人恐怖、うつ病、統合失調症</p> <p>第14回：ひきこもり—心理と現状、支援の在り方</p> <p>第15回：青年期の事例検討と心理臨床</p>

アクティブラーニング	適応に困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な面接の知識は、事例検討とグループディスカッションにより、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業内課題 40%、中間期レポート 30%、期末レポート 30%、 計 100%
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。期末レポートは解答のポイントと採点基準を明示する。
指定図書	なし 各自で読みやすい「臨床心理学」関連の入門書を選択して読むこと
参考図書	『こころと関わる臨床心理』 第3版 (2015) DSM5 準拠 ナカニシヤ出版 川瀬正裕他編 『絵本に学ぶ臨床心理学序説』 第2版 (2013) ナカニシヤ出版 松瀬喜治編
事前・事後学修	事前に提示した課題を調べ、配布した資料を 25 分程度読んで、理解を深めておく。同時に、15 分程度の復習をする。
オープンエデュケーションの活用	衛星放送 BS 放送テレビ 放送大学 「心理学」「精神医学」関連の講義 東大テレビ https://today.tv/ 「心」「精神医学」関連の講座
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」「学校心理士」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	カウンセリング
科目責任者	白井 博美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	日常生活における相談が個人の考えや経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライアント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. カウンセリングのプロセスを理解する。 4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。 5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。 6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。 <p>[養護教諭課程履修者]</p>
授業計画	<p>第1回： カウンセリングとは何か</p> <p>第2回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第3回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第4回： クライアント中心療法</p> <p>第5回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第6回： カウンセリングの流れ</p> <p>第7回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第8回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第9回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第10回： 自己理解を深める演習</p> <p>第11回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第12回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第13回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第14回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第15回： 自己表現について学ぶ演習</p>

アクティブ ラーニング	
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 70%、小テスト 30%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	川瀬正裕他著『これからの心の援助 役に立つカウンセリングの基礎と技法』ナカニシヤ出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の後に、テキストの該当箇所に目を通すこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。 4. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>顧 寿智</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）</p> <p>第 2 回：組織学総論（細胞、組織）</p> <p>第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道、）</p> <p>第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸）</p> <p>第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）</p> <p>第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔）</p> <p>第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管、刺激伝道系）</p> <p>第 8 回：脈管系（血管の構造、循環路、リンパ系）</p> <p>第 9 回：まとめ、中間テスト、実習見学の準備</p> <p>第 10 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</p> <p>第 11 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 12 回：運動器系（基本構造、骨の連結、全身の骨、主な骨格筋）</p> <p>第 13 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 14 回：内臓系、運動器系</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験 (70%)、レポート (10点)、中間テスト (10%)、小テスト (10%) を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そして看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。 2. 内分泌器系、感覚器系の構造と機能を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>顧 寿智</p> <p>第 1 回：前期のまとめ、神経組織 第 2 回：神経系（神経系の構成、脊髄） 第 3 回：神経系（脳幹） 第 4 回：神経系（小脳、間脳、大脳） 第 5 回：神経系（大脳） 第 6 回：神経系（脳室と脳脊髄膜） 第 7 回：神経系（脊髄神経）解剖実験 第 8 回：まとめ、中間テスト 第 9 回：神経系（脊髄神経、脳神経） 第 10 回：神経系（脳神経、伝導路）、 第 11 回：神経系（自律神経系） 第 12 回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎） 第 13 回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚） 第 14 回：神経系、内分泌器系、感覚器系 第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・ タブレットアプリ (Visible Body など) ・ DVD などの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験 (70%)、中間テスト (20%)、小テスト (10%) を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生理学 I
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 体温の調節機構について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1 第 2 回：栄養の消化と吸収-2 第 3 回：栄養の消化と吸収-3 第 4 回：栄養の消化と吸収-4 第 5 回：呼吸の生理学-1 第 6 回：呼吸の生理学-2 第 7 回：呼吸の生理学-3 第 8 回：心臓・循環の生理学-1 第 9 回：心臓・循環の生理学-2 第 10 回：心臓・循環の生理学-3 第 11 回：血液と体液-1 第 12 回：血液と体液-2 第 13 回：尿の生成とその排泄-1 第 14 回：尿の生成とその排泄-2 第 15 回：体温とその調節・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 (60%)、小テスト (30%)、授業への取り組み (10%) を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫 著、第10版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体防御システムについて説明できる。 2. ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 3. 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 4. 神経系の機能について説明できる。 5. 感覚系の機能について説明できる。 6. 筋系の機能および筋収縮について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生体の防御機構 第 2 回：内分泌系の機能と調節－1 第 3 回：内分泌系の機能と調節－2 第 4 回：内分泌系の機能と調節－3 第 5 回：生殖と発生－1 第 6 回：生殖と発生－2 第 7 回：成長と老化 第 8 回：神経機能の基礎 第 9 回：自律神経系 第 10 回：脊髄と脳－1 第 11 回：脊髄と脳－2 第 12 回：脳の高次機能 第 13 回：感覚の生理学－1 第 14 回：感覚の生理学－2 第 15 回：筋肉の機能・まとめ</p>

アクティブラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫著、第10版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社
事前・事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（1716研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	生化学
科目責任者	高林 ふみ代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、生命科学現象の理解のための基礎として細胞の微細構造、生命体の構成成分とその役割について解説し、次に、それらの構成成分の代謝や遺伝情報代謝について解説する。そして、それらの知識を用いて糖尿病やガンなど代表的疾患の成立を生物化学的に理解できるよう促す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する成分について、構造と機能を理解する。 2. 生体を構成する成分の代謝とそれらの相互関係を理解する。 3. 生体を構成する成分の代謝の維持が生理機能の維持と関連していることを理解する。 4. 生体を構成する成分の代謝の不調が疾患の原因となることを理解する。
授業計画	<p>第 1 回：生体を構成する水と電解質について (pH、酸塩基平衡を含む)</p> <p>第 2 回：糖質の構造と機能について</p> <p>第 3 回：タンパク質の構造と機能について</p> <p>第 4 回：酵素 (ビタミンと補酵素を含む) の構造と機能について</p> <p>第 5 回：脂質の構造と機能について</p> <p>第 6 回：生体内刺激伝達の方法について (ホルモン・生理活性物質と受容体)</p> <p>第 7 回：細胞内刺激伝達の方法について</p> <p>第 8 回：生体内成分の代謝の全体像と相互関連について</p> <p>第 9 回：糖質代謝と糖尿病について</p> <p>第 10 回：脂肪酸、ステロイドの代謝と脂質異常症について</p> <p>第 11 回：タンパク質、アミノ酸代謝について</p> <p>第 12 回：ポルフィリン代謝と黄疸について</p> <p>第 13 回：プリン、ピリミジン、ヌクレオチドの代謝と高尿酸血症について</p> <p>第 14 回：遺伝情報代謝とがん、老化について (1)</p> <p>第 15 回：遺伝情報代謝とがん、老化について (2) と全体のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 90%、リアクションペーパー10%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー中の講義内容に関する質問については、次回講義中に説明する。
指定図書	系統看護学講座 専門基礎分野「生化学・人体の構造と機能(2)」 医学書院
参考図書	授業中に随時提示
事前・ 事後学修	少なくとも 40 分間は、講義を聴きながら空欄を埋めて完成させたの授業プリント（授業のたびに配布する）を再読し、教科書と照らし合わせて理解するよう努力する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	代謝・栄養
科目責任者	高林 ふみ代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、各栄養素の消化、吸収から代謝、老廃物の排泄にいたる一連の流れを概説し、マイクロ視点の全体像を理解できるよう概説する。次に、人の一生や疾患などの現象と栄養との関連について理解を促し、最終的に生体に現れる事象とマイクロ視点の栄養素の働きを関連して理解できるよう促す。
到達目標	1. 各栄養素の消化吸収・代謝の基礎を理解する。 2. ライフステージと栄養の必要性を理解する。 3. 生活習慣病の原因や治療と栄養の関連を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：栄養学を学ぶことの意義</p> <p>第 2 回：食品の栄養素</p> <p>第 3 回：栄養素の種類と働き(1)：糖質、脂質、タンパク質</p> <p>第 4 回：栄養素の種類と働き(2)：ビタミン、ミネラル、食物繊維、水</p> <p>第 5 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(1)：消化と吸収</p> <p>第 6 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(2)：吸収された栄養素の運搬と代謝</p> <p>第 7 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(3)：吸収された栄養素の代謝と老廃物の排泄</p> <p>第 8 回：エネルギー代謝：体内のエネルギー収支</p> <p>第 9 回：栄養状態の評価と判定</p> <p>第 10 回：ライフステージと栄養(1)：成長期における栄養</p> <p>第 11 回：ライフステージと栄養(2)：成人期における栄養</p> <p>第 12 回：ライフステージと栄養(3)：高齢期における栄養</p> <p>第 13 回：治療的栄養補給(1)</p> <p>第 14 回：治療的栄養補給(2)</p> <p>第 15 回：生活習慣病と食生活改善</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 90%、リアクションペーパー10%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー中の講義内容に関する質問については、次回講義中に説明する。
指定図書	系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学・人体の構造と機能(3)」 医学書院
参考図書	授業中に随時提示
事前・ 事後学修	少なくとも 40 分間は、授業プリント（授業のたびに配布する）を再読し、教科書と照らし合わせて理解するよう努力する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	微生物・感染
科目責任者	松尾 哲道
単位数他	1単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類、感染と感染症の成り立ち、宿主と病原体の相互関係、日和見感染、菌交代症</p> <p>第2回：院内感染、滅菌と消毒、免疫学総論</p> <p>第3回：液性免疫と細胞性免疫、免疫担当細胞、Bリンパ球とTリンパ球、Tリンパ球の種類、主要組織適合性抗原 (MHC)</p> <p>第4回：抗原侵入から抗体再生まで (プリント、ビデオ)、抗原、抗体、補体、免疫グロブリンの種類、リンホカイン</p> <p>第5回：免疫グロブリンの基本構造、抗原抗体反応、自己免疫疾患、細菌学総論</p> <p>第6回：ブドウ球菌、MRSA (メチリン耐性黄色ブドウ球菌)</p> <p>第7回：レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌、淋菌、髄膜炎菌、緑膿菌、セパシア、アシネトバクター、レジオネラ菌、コクシエラ、ブルセラ菌、野兔病菌、百日咳菌</p> <p>第8回：大腸菌、赤痢菌、サルモネラ、ペスト菌、セラチア、コレラ菌、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、軟性下痢菌、カンピロバクター、ヘリコバクター、炭疽菌、リステリア</p> <p>第9回：ジフテリア菌、結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌、放線菌、破傷風菌</p> <p>第10回：ボツリヌス菌、ガス壊疽菌群、ウエルシュ菌、ディフィシル菌、梅毒トレポネーマ、ボレリア、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス学総論</p> <p>第11回：単純ヘルペスウイルス1型、2型、水痘-帯状疱疹ウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、Bウイルス、アデノウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヒトパルボウイルス、インフルエンザウイルス</p> <p>第12回：ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RSウイルス、狂犬病ウイルス、マールブルグウイルス、エボラウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス70、ライノウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス</p> <p>第13回：黄熱ウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルス、SARSウイルス、MERSコロナウイルス、ノロウイルス、ハンタウイルス、ラッサウイルス</p> <p>第14回：レトロウイルス総論、ヒトTリンパ球性ウイルス1、ヒト免疫不全ウイルス</p> <p>第15回：肝炎ウイルス (A型、B型、C型、D型、E型)</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（免疫学、細菌学、ウイルス学）100%（定期試験）
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋 洋一／吉田 眞一／永 淵 正法著、医学書院
参考図書	病原体との共存を考える会著、松尾哲道監修「(図解) 感染恐怖マニュアル」文藝春秋
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	病理・病態
科目責任者	安見 和彦
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p>
到達目標	様々な疾患についての病理・病態を理解する。
授業計画	<p>第1回：病理学とは何か？ 細胞障害と細胞増殖＜第1, 2章参照＞ 安見和彦 第2回：組織細胞の修復と再生（再生、化生、創傷治癒、異物の処理について） ＜第3章参照＞ 安見和彦 第3回：循環障害1（循環障害って何？ 心臓の循環障害）＜第4, 12章参照＞ 新井義文 第4回：循環障害2（高血圧症と動脈硬化症、脳の循環障害） ＜第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照＞ 新井義文 第5回：炎症1（炎症とは？ 急性炎症と慢性炎症）＜第5章参照＞ 安見和彦 第6回：炎症2（様々な臓器における炎症） ＜第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照＞ 安見和彦 第7回：腫瘍1（腫瘍の形態、癌の発育と転移、良性腫瘍と悪性腫瘍、腫瘍の分化度） ＜第8章参照＞ 安見和彦 第8回：腫瘍2（細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について） ＜第2, 8章参照＞ 岩下雄二 第9回：老化と再生（老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について） ＜第2, 3章参照＞ 岩下雄二 第10回：腫瘍3（癌の疫学、摘出された様々な腫瘍）＜第8章参照＞ 安見和彦 第11回：骨（骨の吸収と形成、骨折の治癒、筋肉の萎縮と炎症、骨・軟部腫瘍） ＜第19章参照＞ 安見和彦 第12回：遺伝と先天異常（遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について） ＜第9章参照＞ 岩下雄二 第13回：代謝異常1（タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際） ＜第10章参照＞ 安見和彦 第14回：代謝障害2（タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム） ＜第10章参照＞ 岩下雄二 第15回：病理組織細胞診断（病理組織診断、細胞診断、病理解剖の実際） ＜第23章参照＞ 新井義文</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（100%）にて評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	笹野公伸、安井弥、岡田保典編「シンプル病理学」南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	健康障害論 I
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。「健康障害論 I」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論 I」では、①循環器系、②呼吸器系、③腎・泌尿器系、④消化器系の代表的な疾患、および⑤手術療法における麻酔法についても学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<p>1. 呼吸器系の疾患 (橋本 大 4 回) 呼吸器系の代表的な疾患と治療・予防および看護について講義する。 1) 基礎知識 (構造と生理・症状と病態生理・検査と治療・処置) 肺の構造と生理機能について復習しておいて下さい。 咳や痰など重要な呼吸器症状について教科書を予習しておいてください。 2) 疾患の理解 I 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心に) 3) 疾患の理解 II 気道疾患 (喘息、COPD を中心に)、間質性肺疾患 4) 疾患の理解 III 肺がん—終末期患者の看護を含めて</p> <p>2. 循環器系の疾患 (岡俊明 3 回) 1) 循環器系の解剖、生理、血液循環のしくみ。 ①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割 2) 血圧の異常 (高血圧)、心不全と病態の検査・治療 ①高血圧の病態 ②心不全の病態 ③心不全の症状 ④心不全に対する検査・治療 3) 心臓弁膜症、不整脈 ①僧帽弁膜症 ②大動脈弁膜症 ③心電図の読み方 ④不整脈 4) 虚血性心疾患、先天性心疾患 ①狭心症と急性心筋梗塞 ②心臓カテーテル検査・カテーテル治療 ③先天性心疾患</p> <p>3. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 3 回) 科目概要: 臨床の場において、腎泌尿器系疾患を理解し、患者への適切な看護を提供するために、基礎知識を習得することを目的とする。 目標 1. 生体活動における腎泌尿器系の重要性を説明できる。 2. 腎泌尿器の働きが損なわれた場合、生じる障害の内容と程度を説明できる。 3. 主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法、予後、看護の要点を説明できる。 授業内容: ・看護を学ぶにあたって (テキスト第 1 章) 腎泌尿器系の構造と機能 (第 2 章) / 症状と病態生理 (第 3 章) ・腎泌尿器疾患の検査と治療 (第 4 章) ・腎泌尿器疾患の理解 (第 5 章) 腎泌尿器疾患の看護 (第 6 章)</p> <p>4. 消化器系の疾患 (細田佳佐 3 回) 消化器系の疾患と治療の最新の動向をふまえ、疾患の原因、予防、治療、疫学を学ぶ。 1) 消化器系総論 【消化器系の解剖と働き】 2) 上部・下部消化管の疾患と治療 3) 肝胆膵 (肝臓を中心に) の疾患と治療</p> <p>5. 手術と麻酔 (小久保荘太郎 2 回) 【生命維持における酸素運搬の重要性とその測定法】 a) 酸素欠乏は瞬時に危機的→呼吸、循環そして局所へ b) 酸素運搬状況とバイタルサイン 呼吸数、血圧、脈拍、皮膚の色、体温そして意識状況 c) バイタルサインの測り方 (vital: vita=命の意味のラテン語) と意味 【痛覚と麻酔】 a) 痛覚の意味と科学的基礎 b) 痛覚の除去方法 【麻酔方法と臨床応用】 a) 侵襲的医療 (手術、検査など) には麻酔が必要 b) 麻酔法の分類とその臨床応用 (1) 局所麻酔 (2) 区域麻酔 (伝達麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔) (3) 全身麻酔 c) 麻酔の注意点と合併症 d) 麻酔中の観察ポイント</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	(橋本) 浅野浩一郎他「系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器」医学書院 (岡) 吉田俊子他「系統看護学講座 成人看護学3 循環器」医学書院 (細田) 松田明子他「系統看護学講座 成人看護学5 消化器」医学書院 (三崎) 大東貴志他「系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器」医学書院 (小久保) 矢永勝彦他「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	・各单元において、1年次に履修した生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱは、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 ・授業後は、指定図書の各章のまとめ、課題について学習しておくこと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	健康障害論Ⅱ
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「健康障害論Ⅱ」は「健康障害論Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論Ⅱ」では、①内分泌・代謝系、②骨・筋・運動器系、③脳・神経系、④アレルギー・免疫・膠原病、⑤乳腺、⑥女性生殖器、⑦血液・造血器、の代表的な疾患を取り上げて学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患に対する治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<p>代表的な疾患と治療・予防</p> <ol style="list-style-type: none"> 内分泌・代謝系 (柏原裕美子 2 回) 総論：内分泌臓器／内分泌・代謝の機能と障害／診断と治療 各論：代表的内分泌疾患とその治療 ：糖尿病の最新の治療 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 (森論史 5 回) 目標：運動器の病態生理を理解し、疾患に特有な症状、診断、治療について説明できる 1) 運動器総論・構造と機能 2) 運動器の病態生理 3) 運動器疾患 外傷の診断と治療 (総論) 4) 外傷 診断と治療 (各論) 5) 下肢関節 診断と治療 (各論) 6) 上肢関節 診断と治療 (各論) 7) 脊椎 診断と治療 (各論) 8) 代謝性骨疾患 診断と治療 (各論) 脳・神経系の疾患 (大橋寿彦 3 回) 目標：神経疾患の理解を深めるとともに、障害を持つ方々と共に生きる姿勢を身につける 1) 神経内科総論、脳血管障害 2) 神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) 3) その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髄、代謝性など) 4) 末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患 アレルギー・免疫／膠原病／感染症 (宮本 俊明 2 回) ①免疫反応、アレルギーの仕組み ②自己免疫疾患とその機序 ③主な膠原病疾患とその治療 乳腺疾患 (吉田 雅行 1 回) ①乳腺の構造・機能と疾患 ②乳がんの検査・診断・治療 ③今日の乳がんの最新の動向 女性生殖器疾患 (安達 博 1 回) ①女性生殖器の疾患 ②女性生殖器疾患の検査・診断・治療 ③今日の女性生殖器疾患の最新の動向 血液・造血器疾患 (西尾 里美 2 回) ・血液・造血器疾患の機能と障害 ・血液・造血器疾患の診断と治療 ・代表的な血液・造血器疾患の治療と看護

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	(柏原) 黒江ゆり子他「系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝」医学書院 (森) 織田弘美他「系統看護学講座 成人看護学10 運動器」医学書院 (大橋) 井手隆文他「系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経」医学書院 (吉田・安達) 末岡浩他「系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器」医学書院 (西尾) 飯野京子他「系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器」医学書院 (宮本) 岩田健太郎他「系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症」医学書院
参考図書	(森) 松野丈夫他「標準整形外科」医学書院
事前・ 事後学修	・各单元において、1年次に履修した生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱは、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 ・授業後は、指定図書の各章のまとめ、課題について学習しておくこと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」「専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	川村 和美
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>薬理・薬剤では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用などを学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や場面例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの援助時に、医薬品に興味を持てるように、授業を進めたいと思います。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、取っ付きにくいと思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく楽しく解説しますので、頑張ってください。</p>
到達目標	1. 主要な薬剤の作用機序と代表的な副作用を理解する。
授業計画	<p>臨床で薬に触れたときにどんな薬なのかわかる、それぞれの薬に興味を持てるように、下記のスケジュールで楽しく授業を行います。</p> <p>1 回、2 回：第 1 章 薬を知ろう 3 回：第 2 章 循環器内科で主に使われる薬 4 回：第 3 章 代謝・内分泌内科で使われる薬 5 回：第 4 章 消化器内科で使われる薬 6 回：第 5 章 呼吸器内科・アレルギー科で使われる薬 7 回：第 6 章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科で使われる薬 8 回：第 7 章 感覚器科で使われる薬 9 回：第 8 章 整形外科で使われる薬 10 回：第 9 章 精神科・心療内科で使われる薬 11 回：第 10 章 神経内科で使われる薬 12 回、13 回：第 11 章 感染症科で使われる薬 14 回：第 12 章 腫瘍内科・緩和医療科で使われる薬 15 回：第 13 章 救命救急科・麻酔科で使われる薬</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	授業内で理解度の確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 90%、学習態度 10% (WebClass の学習履歴で確認)
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし 来年、発刊を予定しているテキスト (薬事日報) に従って授業を行います。
参考図書	治療薬マニュアル (医学書院) などの医薬品集
事前・ 事後学修	WebClass にアップロードした試験対策問題を実施すると復習と国家試験対策になります。 講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、WebClass 上にカラーでアップロードするので、必要に応じて活用してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	授業開始前に準備できれば、URL を伝えます。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業後に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。

科目名	臨床栄養
科目責任者	渡瀬 優子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>臨床栄養管理では、病態を知り栄養状態を把握し、治療効果を高めるための栄養補給が必須である。その為には、栄養素の働き、エネルギー代謝、疾患の成り立ち、栄養補給方法や食事療法の特徴を理解することが重要となる。</p> <p>臨床における栄養マネジメントは多種多様であり、個々人に適した栄養を考え、患者様の最も望む栄養マネジメントを模索し、オーダーメイドの栄養を提供することが求められている。チーム医療の臨床栄養サポートチーム (NST) が確立され、看護師の担う役割は大変大きい。本科目では分子栄養学と栄養マネジメントを実践するための知識を習得し、質の高いサポートが出来るスキルを身につけることを目的とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分子栄養学・病態栄養を学び、疾病予防・治療・アフターケアについて理解する 2. 栄養マネジメントを学び、NST について理解する 3. 調理実習・食事介助等を体験し、患者様やご家族の立場を理解する
授業計画	<p>第 1 回：基礎栄養学、食品学</p> <p>第 2 回：栄養マネジメント、NST</p> <p>第 3 回：栄養療法の基礎</p> <p>第 4 回：静脈栄養法と経腸栄養法</p> <p>第 5 回：病態栄養①</p> <p>第 6 回：病態栄養②</p> <p>第 7 回：実習：特殊食品と栄養補助食品の試食、えんげ食の調理</p> <p>第 8 回：実習：特殊食品と栄養補助食品の試食、えんげ食の調理、まとめ</p>

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度 20%、小テスト 40%、レポート 40%
課題に対するフィードバック	なし
指定図書	日本静脈経腸栄養学会編集 『日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック』南光堂
参考図書	なし
事前・事後学修	「解剖学・生理学・生化学」について事前学習を行い、授業後は当日学習した内容をテキスト・当日配布した資料にて事後学習を行っていく。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護学原論 I		
科目責任者	鶴田 恵子		
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター		
DP 番号と科目領域	DP2 専門		
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。		
科目概要	「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探究し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護の対象となる個人・家族・地域について学修する。看護実践の基盤である看護技術および倫理・法律などの諸側面から看護実践の基礎を学修し、看護実践をするための重要な思考方法について学修する。看護の専門性への道程を理解し、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培う。これ以後に展開される看護学全体の学びを動機づけを図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・看護学の独自性を理解する。 2. 看護の歴史的変遷を理解する。 3. 看護の対象とはいかなる人々をいうのかを理解する。 4. 看護技術の特性を理解する。 5. 看護における倫理の重要性を理解する。 6. 看護と法の関係を理解する。 7. 医療安全の重要性を理解する。 8. 看護実践をするための重要な思考方法を理解する。 9. 看護職が専門職であることを理解する。 10. 看護学生の責務を述べることができる。 		
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: left; vertical-align: top;"> <授業内容・テーマ等> 第 1 回： 看護の本質 第 2 回： 看護の基本となるもの 第 3 回： 看護の歴史 第 4 回： 変化している看護、地域基盤の看護と看護の継続性 第 5 回： 統合体としての人間、生活者としての人間 第 6 回： 健康とウェルネス、家族とその機能 第 7 回： 看護実践における技術 第 8 回： 看護実践と倫理 第 9 回： 看護と法 第 10 回： 医療安全 (柴田めぐみ) 第 11 回： 看護実践とクリティカルシンキング 第 12 回： 看護実践と看護理論 第 13 回： 専門性への道程、看護の専門職性、専門領域の確立と展望 第 14 回： 看護における実践・研究・理論、看護実践と研究 看護・看護学の展望と課題 第 15 回： フォーラム「看護学生の責務とは何か」 </td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;"> <担当教員名> <柴田めぐみ> <柴田めぐみ> <樫原理恵> <樫原理恵> <樫原理恵> </td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 看護の本質 第 2 回： 看護の基本となるもの 第 3 回： 看護の歴史 第 4 回： 変化している看護、地域基盤の看護と看護の継続性 第 5 回： 統合体としての人間、生活者としての人間 第 6 回： 健康とウェルネス、家族とその機能 第 7 回： 看護実践における技術 第 8 回： 看護実践と倫理 第 9 回： 看護と法 第 10 回： 医療安全 (柴田めぐみ) 第 11 回： 看護実践とクリティカルシンキング 第 12 回： 看護実践と看護理論 第 13 回： 専門性への道程、看護の専門職性、専門領域の確立と展望 第 14 回： 看護における実践・研究・理論、看護実践と研究 看護・看護学の展望と課題 第 15 回： フォーラム「看護学生の責務とは何か」	<担当教員名> <柴田めぐみ> <柴田めぐみ> <樫原理恵> <樫原理恵> <樫原理恵>
<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 看護の本質 第 2 回： 看護の基本となるもの 第 3 回： 看護の歴史 第 4 回： 変化している看護、地域基盤の看護と看護の継続性 第 5 回： 統合体としての人間、生活者としての人間 第 6 回： 健康とウェルネス、家族とその機能 第 7 回： 看護実践における技術 第 8 回： 看護実践と倫理 第 9 回： 看護と法 第 10 回： 医療安全 (柴田めぐみ) 第 11 回： 看護実践とクリティカルシンキング 第 12 回： 看護実践と看護理論 第 13 回： 専門性への道程、看護の専門職性、専門領域の確立と展望 第 14 回： 看護における実践・研究・理論、看護実践と研究 看護・看護学の展望と課題 第 15 回： フォーラム「看護学生の責務とは何か」	<担当教員名> <柴田めぐみ> <柴田めぐみ> <樫原理恵> <樫原理恵> <樫原理恵>		

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	授業への取り組み30%、課題レポート20%、定期試験50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 看護学テキストNICE 看護学原論(改定第2版)、南江堂、2019 2. ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます 小玉香津子訳、看護の基本となるもの 新装版、日本看護協会出版会、2018. 3. 平林勝政、小西知世、和泉澤千絵編、ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2019.
参考図書	なし
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00 から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・助産師・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	授業への取り組み50、課題レポート50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 看護学テキストNICE 看護学原論(改定第2版)、南江堂、2019 2. 平林勝政、小西知世、和泉澤千絵編、ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2019.
参考図書	なし
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00 から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・助産師・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術 I
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人間の基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本的な技術としてコミュニケーション、ボディメカニクス、感染予防の技術、環境調整の技術について学び修得する。また、看護専門職に必要な態度について学び修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴について理解する 2. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解する 3. 看護に共通する技術を修得する 4. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得する 5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価する 6. 能動的な学修態度を身に着ける
授業計画	<p>担当教員：檜原理恵、佐久間佐織、柴田めぐみ、早川ゆかり、演習については下記に記す</p> <p>第 1 回 科目ガイダンス：看護技術とは、コミュニケーションの意義と構成要素（檜原）</p> <p>第 2 回 コミュニケーションの意義と構成要素（檜原）</p> <p>第 3 回 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>第 4 回 感染予防に必要な技術（講義：早川）</p> <p>第 5・6 回 感染予防に必要な技術（演習：**）</p> <p>第 7・8 回 環境調整に必要な技術（講義：佐久間）</p> <p>第 9・10 回 環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換（演習：**）</p> <p>第 11 回 効果的なコミュニケーション技術（講義：檜原）</p> <p>第 12・13 回 効果的なコミュニケーション技術（演習：**）</p> <p>第 14 回 技術の確認（演習：**）</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p> <p>**：檜原理恵、炭谷正太郎、佐久間佐織、柴田めぐみ、早川ゆかり、〇〇〇〇、〇〇〇〇</p>

アクティブラーニング	<p>*講義は、事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>*演習は、事前課題をもとに実践します。また、事後課題に取り組み、演習を振り返ります。</p>
授業内のICT活用	講義では、webClass を使用して、ミニテストを実施します。
評価方法	定期試験 60%、技術の確認 25% 課題提出物 5%、ミニテスト、10%
課題に対するフィードバック	<p>*事前課題について授業中に解説します。</p> <p>*リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他 (2019). 系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>任和子他 (2017). 系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>三上れつ/小松万喜子 (2017) 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第 2 版、南江堂</p>
参考図書	詳細は授業で提示します。
事前・事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>*单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読み学修してください。ミニテストは第 2、3、4、7、11 回の講義で実施します。</p> <p>【事後学修】</p> <p>*授業内容、テキストの振り返りをします。コミュニケーションの記録を課題提出物とします。</p>
オープンエデュケーションの活用	*テキスト、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴
オフィスアワー	<p>榎原理恵 : 1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp</p> <p>時間はオリエンテーション時にお知らせします。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術Ⅱ
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	2単位 (60時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を修得する。また、対象に合った看護実践を行うために必要となるフィジカルアセスメントの基礎知識、技能を学び、修得する。演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。本科目では「全身の観察」と対象に合わせた「活動・休息」「身体の清潔」を援助する技術に焦点をあて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる。 2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 3. フィジカルアセスメントを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる。 4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	<p><担当教員名>佐久間佐織、榎原理恵、炭谷正太郎、早川ゆかり、柴田めぐみ、〇〇〇〇</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：科目ガイダンス 佐久間佐織</p> <p>第2回：フィジカルアセスメントの基本手技 佐久間佐織</p> <p>第3回：全身の観察、問診 佐久間佐織</p> <p>第4回：バイタルサインの観察① 佐久間佐織</p> <p>第5回：バイタルサインの観察② 佐久間佐織</p> <p>第6回：体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①【演習】 佐久間佐織</p> <p>第7回：体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②【演習】 佐久間佐織</p> <p>第8回：血圧測定 【演習】 佐久間佐織</p> <p>第9回：感覚器系（視覚・聴覚）のフィジカルアセスメント【講義・演習】 佐久間佐織</p> <p>第10回：外皮系のフィジカルアセスメント 佐久間佐織</p> <p>第11回：筋・骨格系のフィジカルアセスメント 佐久間佐織</p> <p>第12回：神経系のフィジカルアセスメント 佐久間佐織</p> <p>第13回：筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント①【演習】 佐久間佐織</p> <p>第14回：筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント②【演習】 佐久間佐織</p> <p>第15回：活動と休息の基本的な知識、援助の実際① 佐久間佐織</p> <p>第16回：活動と休息の基本的な知識、援助の実際② 佐久間佐織</p> <p>第17回：体位変換 【演習】 佐久間佐織</p> <p>第18回：体位保持 【演習】 佐久間佐織</p> <p>第19回：車いす移乗・移送 【演習】 佐久間佐織</p> <p>第20回：ストレッチャー移乗・移送【演習】 佐久間佐織</p> <p>第21回：清潔・衣生活の基本的な知識、援助の実際① 早川ゆかり</p> <p>第22回：清潔・衣生活の基本的な知識、援助の実際② 早川ゆかり</p> <p>第23回：寝衣交換 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第24回：足浴 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第25回：洗髪① 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第26回：洗髪② 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第27回：清拭・寝衣交換① 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第28回：清拭・寝衣交換② 【演習】 早川ゆかり</p> <p>第29回：フィジカルアセスメントを活用した看護援助の計画・実施 【演習】 佐久間佐織</p> <p>第30回：フィジカルアセスメントを活用した看護援助の計画・実施、まとめ【演習】 佐久間佐織</p>

アクティブ ラーニング	<p>※事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>※講義のはじめに事前課題に関するミニテストを実施します。</p> <p>※講義・演習でグループディスカッションを行います。</p> <p>※演習はロールプレイングを中心に実施します。</p>
授業内の ICT 活用	<p>※事前・事後学修はWebClass を使用します。</p> <p>※ミニテストはWebClass を使用します。</p>
評価方法	定期試験 50%、技術の確認 20% 課題提出物 25% 授業への参加態度 5%
課題に対する フィード バック	<p>※課題に関するミニテストについては、授業で解説をします。</p> <p>※リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClass で回答します。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他 (2015). 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>任和子他 (2017). 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>三上れつ・小松万喜子編集 (2017). 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント (改訂第2版) 臨床実践能力を高める, 南江堂.</p> <p>ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)</p>
参考図書	<p>坂井建雄他 (2017). 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院.</p> <p>医学情報科学研究所 (2018). 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>医学情報科学研究所 (2019). フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア.</p> <p>山内豊明 (2011). フィジカルアセスメントガイドブック—目と手と耳でここまでわかる, 医学書院</p> <p>※その他、授業内で随時紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>※单元ごとに課題 (WebClass) を掲示します。テキストの該当箇所を読み課題に取り組みます。</p> <p>※テキスト、ナーシングスキルの動画を視聴する</p> <p>※演習ノートの作成</p> <p>【事後学修】</p> <p>※授業内容、テキストの振り返り</p> <p>※技術項目はセルフトレーニングが必要です。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※授業や事前・事後学修でテキスト、e-learning 教材 (ナーシングスキル)、インターネット上の動画を使用します。
オフィス アワー	<p>1 号館 6 階 1618 研究室、随時</p> <p>不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術Ⅲ
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。また、看護実践を適切に行うために必要となるフィジカルアセスメントの基礎知識・技能を学び修得する。さらに、看護者と対象者の両者を体験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を学び修得する。本科目では対象に合わせた「食事」「排泄」を援助する技術に焦点をあて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる。 2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 3. フィジカルアセスメントを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる。 4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、櫻原理恵、炭谷正太郎、早川ゆかり、柴田めぐみ、〇〇〇〇、 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：科目ガイダンス 食事に関する基本的な知識 佐久間佐織 第2回：消化系（口腔～腹部・消化器）のフィジカルアセスメント 佐久間佐織 第3回：摂食・嚥下のフィジカルアセスメント 摂食・嚥下ケア、栄養のアセスメント 佐久間佐織 第4回：食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア、経管栄養法） 佐久間佐織 第5回：腹部のフィジカルアセスメント① 【演習】 佐久間佐織 第6回：腹部のフィジカルアセスメント② 【演習】 佐久間佐織 第7回：嚥下障害をもつ対象への食事介助、口腔ケア【演習】 佐久間佐織 第8回：排泄の援助の基本的な知識（排泄行動・排泄のメカニズムなど） 佐久間佐織 第9回：排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸） 佐久間佐織 第10回：便器・尿器を用いた床上排泄 【演習】 早川ゆかり 第11回：陰部洗浄 【演習】 早川ゆかり 第12回：おむつ交換① 【演習】 早川ゆかり 第13回：おむつ交換② 【演習】 早川ゆかり 第14回：フィジカルアセスメントを活用した看護援助の計画・実施 佐久間佐織 第15回：フィジカルアセスメントを活用した看護援助の計画・実施、まとめ 佐久間佐織</p>

アクティブ ラーニング	<p>※事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>※講義のはじめに事前課題に関するミニテストを実施します。</p> <p>※講義・演習でグループディスカッションを行います。</p> <p>※演習はロールプレイングを中心に実施します。</p>
授業内の ICT 活用	<p>※事前・事後学修はWebClass を使用します。</p> <p>※ミニテストはWebClass を使用します。</p>
評価方法	定期試験 50%、課題・ミニテスト 40%、授業への参加態度 10%
課題に対する フィード バック	<p>※事前課題およびミニテストについては、授業内またはWebClass で解説をします。</p> <p>※リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClass で回答します。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他 (2015). 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>任和子他 (2017). 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>三上れつ・小松万喜子編集 (2017). 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント (改訂第2版) 臨床実践能力を高める, 南江堂.</p> <p>ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)</p>
参考図書	<p>坂井建雄他 (2017). 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院.</p> <p>医学情報科学研究所 (2018). 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>医学情報科学研究所 (2019). フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア.</p> <p>山内豊明 (2011). フィジカルアセスメントガイドブック—目と手と耳でここまでわかる, 医学書院</p> <p>※その他、授業内で随時紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>※单元ごとに課題 (WebClass) を掲示します。テキストの該当箇所を読み課題に取り組みます。</p> <p>※テキスト、ナーシングスキルの動画を視聴する</p> <p>※演習ノートの作成</p> <p>【事後学修】</p> <p>※授業内容、テキストの振り返り</p> <p>※技術項目はセルフトレーニングが必要です。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※授業や事前・事後学修でテキスト、e-learning 教材 (ナーシングスキル)、インターネット上の動画を使用します。
オフィス アワー	<p>1 号館 6 階 1618 研究室、随時</p> <p>不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術Ⅳ
科目責任者	樫原 理恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	クリティカルシンキング (批判的思考) の態度を基盤とし、看護実践の基本となる問題解決法の基本的な考え方と、看護の視点からの人間の見方とともに看護実践の展開過程 (情報収集ならびにアセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価) の方法について学ぶ。さらに、グループでの事例学習を通して看護過程を展開するために必要な論理的な思考や判断力、問題解決思考を修得することを目指す。本科目では、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスと意義を理解する 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的判断、背景となる理論について理解する 3. 看護過程のアセスメント、期待される成果、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価といった各段階についてその基本的な考え方と実際を学ぶ 4. 模擬事例で展開した看護過程を学習教材に看護過程展開の一連のプロセスを追体験し、基本的な看護問題解決思考を高める
授業計画	<p>担当教員：樫原理恵、佐久間佐織、炭谷正太郎、柴田めぐみ、早川ゆかり、有村優範</p> <p>第1回：科目ガイダンス、看護過程とは 第2回：看護過程を展開する際に基盤となる考え方、理論 第3回：看護過程の各段階 アセスメント 第4回：看護過程の各段階 成果と問題の明確化 第5回：看護過程の各段階 計画立案 第6回：看護過程の各段階 実施と評価 第7回：在宅療養生活支援に基づいた看護過程の展開 第8・9回：事例で考える看護過程 情報の分類と分析 (グループワーク) 第10・11回：事例で考える看護過程 期待される成果と看護問題の抽出 (グループワーク) 第12・13回：事例で考える看護過程 看護計画の立案と評価の視点 (グループワーク) 第14・15回：事例で考える看護過程 発表 (グループワーク)、まとめ</p> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	<p>*講義は、事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>*演習は、事前課題をもとにグループワークで行います。</p>
授業内の ICT 活用	グループワークの成果発表は ppt を作成して発表します。
評価方法	ミニテスト 30%、グループワークの参加度 20%、課題提出物 40%
課題に対する フィード バック	<p>*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。</p> <p>*リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他 (2019). 系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>任和子他 (2017). 系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>三上れつ/小松万喜子 (2017) 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第 2 版、南江堂</p>
参考図書	詳細は授業で提示します。
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>*单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第 2~6 回には授業中にミニテストを実施します。</p> <p>【事後学修】</p> <p>*授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	*テキスト、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴
オフィス アワー	<p>榎原理恵 : 1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp</p> <p>時間はオリエンテーション時にお知らせします。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術V
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2単位 (60時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	診療に伴う援助を安全・安楽かつ効果的に実施する上で必要な看護技術の原理・原則を学習し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。本科目では、検査・検体の採取、与薬に関する専門的知識と技術について学習する。また、呼吸・循環に関するフィジカルアセスメントと援助を実施する上で必要な専門的知識と技術について学修する。さらに、学修した知識と技術に基づいて根拠を追及し、看護の対象にあわせた援助のあり方を考え、議論できる態度を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる。 2. 診療および救急時に必要な援助に関する基本技術を修得できる。 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 4. フィジカルイグザミネーションを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる。 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	<p>担当教員：檜原理恵、炭谷正太郎、佐久間佐織、柴田めぐみ、早川ゆかり</p> <p>第1回：授業ガイダンス、感染防止の技術 第2回：感染防止の技術の実際－無菌操作 第3・4回：検査・検体採取の援助－検査・検体採取の援助に必要な基礎知識 第5・6・7回：検査・検体採取の援助の実際－静脈血採血 第8回：与薬の技術－経口与薬、吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬に必要な基礎知識 第9回：与薬の技術－点滴静脈内注射に必要な基礎知識 第10・11回：与薬の技術の実際－点滴静脈内注射 第12回：与薬の技術－筋肉注射に必要な基礎知識 第13・14回：与薬の技術の実際－筋肉注射 第15・16回：排尿困難への援助－導尿法に必要な基礎知識 第17・18回：排尿困難への援助の実際－導尿法 第19回：静脈血採血の練習 第20回：静脈血採血の技術確認 第21・22回：呼吸・循環のフィジカルアセスメント 第23・24回：呼吸・循環のフィジカルアセスメントの実際 第25・26回：安楽な呼吸への援助－吸引・酸素吸入に必要な基礎知識 第27・28回：安楽な呼吸への援助の実際－吸引・酸素吸入 第29回：救命・救急時の援助－意識レベルのアセスメント、心肺蘇生法 第30回：医療安全に必要な基礎知識（誤薬、チューブ類の抜去、患者誤認、転倒転落、薬剤・放射線暴露）</p>

アクティブ ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	講義では、WebClass を使用してミニテストを行います。
評価方法	定期試験 50%、課題提出物 20%、ミニテスト 10%、技術確認 20%、計 100% 技術確認はルーブリックを用いて評価する。
課題に対する フィード バック	リアクションシートへの回答を次の講義・演習内にて行います。 演習の最後に担当教員から講評します。
指定図書	三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第 2 版）臨床実践能力を高める、南江堂、2017。 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2015。 任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2017。
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	受講前には 1 時限あたり 20 分程度、関連知識の予習を必ず行って下さい。また、学修した知識は次回の受講に活用できるよう 1 時限あたり 20 分程度、事後学修して下さい。 講義の前にテキストの該当箇所を読み学修して下さい。ミニテストは第 3、8、12、15、21、25 回で実施します。 演習前に配布資料を基に事前課題に取り組んでください。演習は第 2、5、11、13、17、23、27 回で実施します。 看護技術の修得には繰り返し実施することが必要です。学修計画を立て、セルフトレーニングをしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11 時～13 時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人看護学概論	
科目責任者	大石 ふみ子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。	
到達目標	1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の人々の心身の反応と健康や健康障害に対する看護の特徴について概念を用いて説明できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：導入／成人とは／成長・発達段階から見た成人の特徴 大石ふみ子 第 2 回：成人を取り巻く社会環境と成人の生活 豊島由樹子 第 3 回：成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策(1) 保健統計からみた成人の健康の動向 豊島由樹子 第 4 回：成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策(2) 成人各期に特徴的な健康問題、成人を対象とした保健・医療・福祉 豊島由樹子 <健康障害をもつ成人に関わる際の基本的な視点> 第 5 回：健康生活を支える人間関係の構築 本田 彰子 第 6 回：患者・家族の意思決定を支える 本田 彰子 第 7 回：健康の危機状態への適応 ストレスとコーピング 大石ふみ子 第 8 回：健康の危機状態への適応 危機理論 大石ふみ子 第 9 回：健康行動への行動変容 自己効力、アンドラゴジー、エンパワーメント 本田 彰子 第 10 回：セルフヘルプグループを理解する 大石ふみ子 第 11 回：代替療法を理解する 大石ふみ子 <健康状態に応じた看護> 第 12 回：急性期、周手術期にある患者への看護（ボディイメージ） 大石ふみ子 第 13 回：慢性期：健康生活の継続への支援（セルフケア） 本田 彰子 第 14 回：リハビリテーションを必要とする成人への看護 本田 彰子 第 15 回：終末期を迎える患者と家族への支援（緩和ケア） 大石ふみ子	

アクティブラーニング	授業に先立ち、読んでくる教科書の範囲の指定、そのほかの課題を課します。指定された部分の教科書（または、指定された資料）を読んで、理解できた点、理解が難しい点、疑問点のメモをもって授業に臨んでください。 事業では、事例やビジュアル教材等を活用していきます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験：90% 授業態度等10% 授業過程における提出物不備の場合、減点あり
課題に対するフィードバック	事前課題や授業中の提出物について、講義の中で解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受け、授業中の解説やWebclass上でフィードバックしていきます。 定期試験に関しては、試験結果公表後に個別に質問を受け付けます。
指定図書	黒江ゆり子編 成人看護学①『成人看護学概論／成人保健』メジカルフレンド社、(最新版) 2020年1月時点：第6版
参考図書	講義の過程で随時紹介します
事前・事後学修	既習の生涯発達心理学や解剖学、生理学、代謝栄養等の授業内容を復習し、よく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約20分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約25分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣としてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	月曜Ⅱ時限目を基本的なオフィスアワーとしますが、いつでも相談にのりますのでメールで連絡してください。 大石ふみ子：1219研究室：fumiko-o@seirei.ac.jp 本田 彰子：1217研究室：akiko-ho@seirei.ac.jp 豊島由樹子：1615研究室：yukiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人看護援助論 I
科目責任者	本田 彰子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	周手術期を含む急性期看護、がん看護、慢性看護を、成人看護学の主要な実践教育の領域と捉え、看護の対象となる人々の、病態や治療の理解を深め、療養上の課題に対する看護支援、及び看護技術について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける人の身体的、心理的变化について理解し、術前、術中、術後の看護の特徴を説明できる。 2. がん、及びがん患者の特徴について理解し、治療や経過に添った看護の特徴を説明できる。 3. 慢性疾患の特徴、及び看護の基盤となる概念について理解し、看護の特徴を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：手術と看護 1：手術侵襲と身体的・心理的反応 藤浪 千種</p> <p>第 2 回：手術と看護 2：術前看護 藤浪 千種</p> <p>第 3 回：手術と看護 3：術中看護 藤浪 千種</p> <p>第 4 回：手術と看護 4-1)：術後看護 術後の回復促進と合併症の予防のための看護 氏原 恵子</p> <p>第 5 回：手術と看護 4-2)：術後看護 リハビリテーションと生活復帰のための看護 氏原 恵子</p> <p>第 6 回：がん看護 1：化学療法 本田 彰子</p> <p>第 7 回：がん看護 2：放射線療法 本田 彰子</p> <p>第 8 回：がん看護 3：がんリハビリテーション 本田 彰子</p> <p>第 9 回：がん看護 4：緩和ケア・ターミナルケア 本田 彰子</p> <p>第 10 回：慢性疾患の看護 1：慢性疾患の特徴 病みの軌跡 本田 彰子</p> <p>第 11 回：慢性疾患の看護 2：基盤となる概念 セルフマネジメント 兼子夏奈子</p> <p>第 12 回：慢性疾患の看護 3：セルフマネジメント能力を高める支援 大山 末美</p> <p>第 13 回：慢性疾患の看護 4：慢性疾患療養支援 療養の場の移行 兼子夏奈子</p> <p>第 14 回：慢性疾患の看護 5：慢性疾患療養支援 糖尿病自己管理 山本 真矢</p> <p>第 15 回：慢性疾患の看護 6：慢性疾患療養支援 高齢者 本田 彰子</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 80%、課題レポートおよび課題提出物 20% ・課題レポートおよび課題提出物は、第9回、第13回の授業時に提示し、評価ルーブリックも併せて提示する。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の解答については、試験後に模範解答を Web Class を活用して提示する。 ・リアクションペーパー等にあげられた質問については Web Class を活用して回答する。
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 矢永勝彦他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（「健康障害論 I」で購入済み） 2. 小松浩子他『別巻 がん看護学』医学書院 3. 鈴木久美他『成人看護学 慢性期看護』南江堂 4. 日本糖尿病学会編『糖尿病治療のてびき』南江堂
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉やよい他『周術期の判断を磨く』医学書院 ・秋山正子他『統合分野 在宅看護論』医学書院 ・その他の図書については、授業の中で適時提示する。
事前・ 事後学修	<p><事前学修> 解剖学・生理学、健康障害論（とくに手術と麻酔、循環器、内分泌・代謝）等で学んだ解剖生理、症状と病態生理、診断・治療等の基礎知識について再確認しておく。Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨む。（約 20 分）</p> <p><事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習する。専門基礎領域科目や基礎看護学で学習した知識が基盤になるので、十分に復習しておく。（約 20 分）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。</p> <p>本田 彰子 1217 研究室：akiko-ho@seirei.ac.jp 藤浪 千種 1208 研究室：chigusa-f@seirei.ac.jp 氏原 恵子 1210 研究室：keiko-u@seirei.ac.jp 大山 末美 1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp 兼子夏奈子 1216 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年看護学概論	
科目責任者	野崎 玲子	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の視点、加齢変化から説明できる 2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる 3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる 4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる 5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ 6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる 	
授業計画	<p>第1回： 老いるということ</p> <p>第2回： 人口の高齢化現象と課題</p> <p>第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向</p> <p>第4回： ライフステージとしての老年期の特徴</p> <p>第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</p> <p>第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</p> <p>第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)</p> <p>第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)</p> <p>第9回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度)</p> <p>第10回： 高齢者虐待・拘束</p> <p>第11回： 家族介護の多様化と家族支援</p> <p>第12回： 介護保険制度とサービス</p> <p>第13回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICFモデルの考えかた)</p> <p>第14回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換</p> <p>第15回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表</p>	<p>齋藤直志</p> <p>齋藤直志</p> <p>齋藤直志</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>齋藤直志</p> <p>齋藤直志</p> <p>野崎玲子</p> <p>齋藤直志</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p>

アクティブ ラーニング	<p>1. 講義では、具体的事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題や実習場での一場面を提示し、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会（または課題）を設定します。</p> <p>2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をグループ毎に発表し意見交換を行います。</p>
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	<p>定期試験 90%</p> <p>課題提出物 10%</p>
課題に対する フィード バック	<p>1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。</p> <p>2. インタビューのレポートに対しては、個々にはコメントを記入して返却します。また発表会での意見交換時にもコメントを述べフィードバックします。</p>
指定図書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 2018</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院 2018</p>
参考図書	<p>「生活機能からみた老年看護過程」第3版 医学書院</p> <p>「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン100」日本看護協会出版会</p> <p>その他適宜紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p><事前学習></p> <p>事前学習の具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。</p> <p>テキストの関連部分を読み、概要を予習してきてください。（約20分）</p> <p><事後学修></p> <p>配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。（約20分）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>野崎玲子：看護学部 研究室：2704 研究室 e-mail: reiko-n@seirei.ac.jp</p> <p>時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、主に実習終了後の16時30分以降になります。</p> <p>※あらかじめメール予約をしてもらえれば確実です。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年看護援助論 I
科目責任者	野崎 玲子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	老年期の健康障害が日常生活に及ぼす影響を知り、家族を含めた老年看護の実践方法について学ぶ。また、健康障害を持つ高齢者の検査・治療や療養を支える具体的な看護援助について学ぶと共に、人生の終焉に向かう高齢者への看護、終末期を看とることの意味とその在り方について学ぶ。
到達目標	1. 老年期にある人の健康・健康障害の段階に適した援助方法を自立支援の視点から理解する。 2. 検査・治療を受けている高齢者の援助に必要な基礎的知識・技術が理解できる。 3. ライフステージの最終段階に迎える死の過程を学び、QOLについて考えることが出来る。
授業計画	<p>第 1 回：日常生活行動自立への援助：高齢者の健康に及ぼす環境の影響と援助 野崎玲子 (加齢に伴う変化や健康障害の現れ方の特徴含む)</p> <p>第 2 回：日常生活行動自立への援助：高齢者とコミュニケーション 野崎 玲子</p> <p>第 3 回：日常生活行動自立への援助：水分・食生活 松元 由香 (脱水・誤嚥を伴う場合の援助を含む)</p> <p>第 4 回：日常生活行動自立への援助：排泄 (失禁・排泄障害を含む) 野崎 玲子</p> <p>第 5 回：日常生活行動自立への援助：清潔と個人衛生 (ドライスキン含む) 野崎 玲子</p> <p>第 6 回：日常生活行動自立への援助：移動と自立への援助 (転倒含む) 野崎 玲子</p> <p>第 7 回：日常生活行動自立への援助：活動と休息 野崎 玲子 (生活のリズム・睡眠障害含む)</p> <p>第 8 回：日常生活行動自立への援助：グループワーク 野崎 玲子 日常生活行動自立に向けての高齢者の課題 (転倒・誤嚥・褥瘡など)</p> <p>第 9 回：日常生活行動自立への援助：グループワーク・発表 野崎 玲子</p> <p>第 10 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：検査・薬物療法 松元 由香</p> <p>第 11 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：手術療法 松元 由香</p> <p>第 12 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：リハビリテーション看護 松元 由香</p> <p>第 13 回：医療施設における高齢者看護 齋藤 直志</p> <p>第 14 回：介護保険施設における高齢者看護 齋藤 直志</p> <p>第 15 回：高齢者の終末期看護 野崎 玲子</p>

アクティブ ラーニング	日常生活行動自立に向けての高齢者の課題（転倒・誤嚥・褥瘡など）について、 グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験 90% 課題提出物 10%（ルーブリックを用いない）
課題に対する フィード バック	グループワークの課題に対するフィードバックは、発表時に助言・指導を行います。 課題レポートに対するフィードバックは、レポートの指導の中で行います。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院
参考図書	「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン 100」日本看護協会出版会 参考書等は、随時紹介します
事前・ 事後学修	<事前学習> 具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。 特に基礎看護学で学んだ 日常生活の援助や老年看護学概論で学んだ高齢者の身体的・心理的・ 社会的特徴などです。 Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨んで下さい。(約 20 分) <事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約 20 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	野崎玲子：看護学部 研究室：2704 研究室 e-mail: reiko-n@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、 主に実習終了後の 16 時 30 分以降になります。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	母性看護学概論
科目責任者	藤本 栄子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	女性の障害を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から、母性看護の対象の特性を理解するための基盤となる概念、および母性看護における倫理を学修する。また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する健康と権利)の観点から、女性と家族の健康問題に積極的関心を持ち、母性看護の役割と今後の課題について理解を深める。さらに、家族計画、性感染症とその予防および看護を中心に、リプロダクティブヘルスケアについて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「母性・父性」「親になること」について理解を深める。 2. 女性の健康における意志決定について理解できる。 3. セクシュアリティについて理解できる。 4. 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 5. 妊娠・分娩・子育てに伴う女性の心理・社会的変化とその援助について理解できる。
授業計画	<p>第1回：母性看護とは 藤本栄子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは？父性とは？ 2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える） 3) 母子相互作用・愛着とは？ <p>第2回：親になるとは？ ー妊婦さんの体験談から学ぶー 藤本栄子</p> <p>第3回：人間の性と生殖 命の誕生と性の分化について考える 藤本栄子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 性分化のメカニズム 2) 人間の性の特徴、人間の性行動、性アイデンティティ 3) 性周期とホルモン <p>第4回：性的傾向と性自認の多様性 日高庸晴</p> <p>第5回：若年層における HIV/STI 感染リスク行動の現状について 日高庸晴</p> <p>第6回：セクシュアリティー発達各期の性の特徴・健康障害及び看護ー 村松美恵</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護（不妊の女性の看護を含む） <p>第7回：セクシュアリティー 家族計画と避妊、避妊法の実際（演習） 村松美恵</p> <p>第8回：「妊娠期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第9回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？ー児からの視点ー 室加千佳</p> <p>第10回：「産む」ってどんなこと？ 神崎江利子</p> <p>第11回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第12回：妊産婦・新生児に関係する法律および施策 神崎江利子</p> <p>第13回：「更年期」ってなに？ 黒野智子</p> <p>第14回：看護者とセクシュアリティ 黒野智子</p> <p>第15回：母性看護学概論のまとめ 藤本栄子 他</p>

アクティブラーニング	<p>① 教室内でのグループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行う。</p> <p>② 「親になるとは？」では、実際に妊婦さんや褥婦さんに来ていただき、インタビューを行う。</p> <p>③ セクシュアリティの演習ではグループ・ワークを行う。</p>
授業内のICT活用	グループ発表をオンライン上で入力し、プロジェクターを用いてスクリーンに表示します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 90%、授業中の課題レポート 10%の総合点で行う。 ・不可の場合には1回の再試験を行う。 ・演習、レポートで評価するが、ループリックは使わない。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最期にリアクションシートで、学生の皆さんの理解度や意見を書いてもらい、次の担当授業の前、あるいはWebClassを使って、疑問点に応える等の対応をする。 ・必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応する。
指定図書	<p>森恵美他編『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』医学書院</p> <p>森恵美他編『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』医学書院</p>
参考図書	<p>村本淳子, 森 明子編『母性看護学概論 第2版』医歯薬出版</p> <p>新道幸恵, 後藤桂子訳『ルヴァ・ルービン母性論 母性の主観的体験』医学書院</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClassまたは授業の最後に、次回授業までの課題を提示する。 ・事後学習は、授業の最後またはWebClassで授業内容を問うミニテストを出題する。 <p>※事前・事後学修は、それぞれ40分程度の時間を要する。</p> <p>※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明する。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>セクシュアリティ演習に向けて、以下の視聴を勧めます。</p> <p>http://iwamuro.jp/archives/category/youtube</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部 1714 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 ・臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前に下記のメールアドレスを利用して確認してください。 <p>藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp) 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei.c.jp)</p>
実務経験に関する記述	本科目は「助産師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	母性看護援助論 I
科目責任者	神崎 江利子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	女性のライフステージにおける妊娠期・分娩期・育児（産褥）期・胎児及び新生児期の母子の生理的な変化とその特徴を生物学的側面と心理社会的側面および日常生活の側面との関連性の中で学修する。また母子とパートナーおよび家族に対しての看護援助（正常からの逸脱の予防を含む）を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「親になること」について心理・社会的側面から理解できる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の女性の意思決定を支える支援について理解できる。 3. 妊婦、産婦、褥婦および胎児、新生児についてイメージできる。 4. 妊娠、分娩、産褥という現象を生理学的に理解できる。 5. 妊娠、分娩、産褥という現象が父親と家族に与える心理・社会的変化について理解できる。 6. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の母子の健康の状態に応じた看護の必要性を認識し、正常からの逸脱を予防する日常生活に着眼した方法について理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 母性看護援助論の対象ってどんな人？ 神崎江利子・黒野智子</p> <p>第 2 回：「妊婦さん」ってどんな人？ 村松美恵</p> <p>第 3 回：妊婦さんと家族とともに考える妊娠期の看護援助 村松美恵</p> <p>第 4 回：バースプラン/「産む」ことと「生まれること」の関係 神崎江利子</p> <p>第 5 回：産婦さんと家族とともに考える分娩第 1 期の看護援助① ロールプレイ 神崎江利子</p> <p>第 6 回：産婦さんと家族とともに考える分娩期の看護援助② 神崎江利子</p> <p>第 7 回：新生児の特徴 室加千佳</p> <p>第 8 回：これまでの振り返り/「褥婦さん」ってどんな人？ 神崎江利子</p> <p>第 9 回：産褥期の観察と母乳育児支援をイメージする（演習） 黒野智子</p> <p>第 10 回：授乳支援（演習） ロールプレイ 神崎江利子</p> <p>第 11 回：赤ちゃんの観察と看護援助（演習） 室加千佳</p> <p>第 12 回：赤ちゃんのお風呂（沐浴）（演習） 村松美恵</p> <p>第 13 回：授乳支援のまとめ/褥婦さんと家族とともに考える赤ちゃんのいる生活 神崎江利子</p> <p>第 14 回：産褥期の看護過程 黒野智子</p> <p>第 15 回：母性看護援助論のまとめ 神崎江利子</p> <p>※講義および課題学修は 1 クラス、演習は 4 クラスに分けて実施予定。</p> <p>※具体的な計画は、第 1 回目の授業で配布する授業進度を参照して下さい。</p> <p>※演習は状況により日程変更する場合があります。講義前に必ず WebClass で確認して下さい。</p> <p>※母性看護学概論で配布した資料や第 1 回目の講義で配布する“母性看護学 学修ノート”“事前学習ワークブック”を使用することがありますので、忘れずに持参してください。</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイや課題学修では、事前学修を元にグループ・ワークやグループ・ディスカッション、全体での発表等をおこないます。演習ではグループワークをおこないます。
授業内の ICT 活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、プロジェクターを用いてスクリーンに表示します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(筆記試験) 80% ・妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護、沐浴、授乳支援課題レポート、事前・事後学修 (WebClass ミニテスト等)、トピックスレポートへの参加度 20% ・不可の場合は1回の再試験をおこないます。 ・課題レポートは、ルーブリックを用いて評価をおこなうものもあります。
課題に対する フィード バック	事前学修に関しては、次回講義で説明します。 学生から質問があれば、次回の講義、またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には面談で対応します。
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。
参考図書	『病気がみえる vol. 10 産科 第3版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第4版』仁志田博司、医学書院 ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後またはWebClass で授業内容を問う回答期限付きミニテストやレポートを出題します。(事前学修は60分程度、事後学修は30～40分程度の時間を要する) WebClass へのミニテストの掲載は決められた期間以外にはいたしませんので、必要があればノートの作成を行ってください。 ・最近、起きた母性に関わるできごとや話題の中で自分が気になった事柄について紹介し、その事柄に対する自分の意見を300～400字にまとめ提出する。 <p>※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護学援助論のお知らせはWebClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、指定図書巻末の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 動画一覧 ナーシング・スキル (日本版) https://www.nursingskills.jp/
オフィス アワー	看護学部 1710 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、黒野 智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 村松 美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、室加 千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児看護学概論
科目責任者	市江 和子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。 3. 小児期における基本的な生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。 4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的な援助を理解する。 5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 市江和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観①(成長・発達の原則、影響要因) 市江和子</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観②(形態的成長・発達) 市江和子</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③(機能的発達) 市江和子</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④(心理社会的発達・発達の評価) 市江和子</p> <p>第6回 基本的な生活習慣の発達とその援助①(新生児、乳児) 宮谷 恵</p> <p>第7回 基本的な生活習慣の発達とその援助②(幼児、全般) 宮谷 恵</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の発達とその援助③(離乳食について) 宮谷 恵</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育(救急法を含む) 宮谷 恵</p> <p>第10回 小児保健の動向① 宮谷 恵 (小児を取り巻く社会環境、小児保健に関する統計)</p> <p>第11回 小児保健の動向②(小児をめぐる法律と施策) 宮谷 恵</p> <p>第12回 予防接種 小出扶美子</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導 小出扶美子</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 市江和子 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望 市江和子</p>

アクティブ ラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、WebClassで返答する。 「基本的な生活習慣の発達とその援助③（離乳食について）」においては、離乳食に関する演習を実施する。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2017 厚生労働統計協会編：『国民衛生の動向』2017/2018、厚生労働統計協会、2017
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	市江和子：金曜日午前（1712研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児看護援助論 I	
科目責任者	小出 扶美子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	小児期の特徴的な疾病に関する病理、病態および治療とさまざまな症状に対する看護の方法を学修する。また、健康障害・入院が子どもと家族に及ぼす影響について学び、健康を障害された子どもとその家族を理解し、子どもの成長・発達段階、健康レベル及び子どもと家族の権利をふまえた看護援助の方法を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害・入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、その影響を最小限とするための看護を理解する。 2. 小児期におこりやすい疾患の病理・病態および治療を理解する。 3. 子どもと家族の権利をふまえた看護援助として、プレパレーションの必要性とその方法を理解し、検査や処置のプレパレーションの内容を考えることができる。 4. 小児期におこりやすい健康障害のさまざまな症状に対する看護の方法を理解する。 5. 健康を障害された子どもの成長・発達段階、健康レベルに応じた看護を理解する。 	
授業計画	<p>第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護</p> <p>第2回： 外来における子どもと家族の看護</p> <p>第3回： 子どもの疾患① (出生前・新生児疾患)</p> <p>第4回： 子どもの疾患② (子どもの代謝性疾患・内分泌疾患)</p> <p>第5回： 子どもの疾患③ (子どもの感染症)</p> <p>第6回： 子どもの疾患④ (子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患)</p> <p>第7回： 子どもの疾患⑤ (子どもの循環器疾患・悪性新生物)</p> <p>第8回： 子どもの疾患⑥ (子どもの消化器疾患・腎疾患)</p> <p>第9回： 子どもの疾患⑦ (子どもの神経疾患)</p> <p>第10回： 子どもとプレパレーション① (入院している子どもにとっての遊びの意義、プレパレーションとは)</p> <p>第11回： 子どもとプレパレーション② (子どもの権利とプレパレーション、プレパレーションの方法と内容)</p> <p>第12回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① (発熱、脱水)</p> <p>第13回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② (呼吸困難、痙攣、発疹、他)</p> <p>第14回： 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>第15回： 慢性期にある子どもと家族の看護</p>	<p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>大木 茂</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>岡田 真人</p> <p>岡田 真人</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>山本 智子</p> <p>山本 智子</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p>

アクティブラーニング	授業ごとにリアクションペーパーをとり、質問や意見に対して、授業時や全体・個別メール、WebClass で回答する。 第 11 回目の講義は、プレパレーションの具体的方法や内容を理解するために実際のプレパレーションの場面の DVD を視聴する。その後、課題として取り上げた検査や処置を受ける子どものプレパレーションを対象となる子どもが理解できる言葉で考え、提出する。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、授業で使用する「自己学習シート」を自己学修する。
評価方法	筆記試験 95%、課題 5%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。 課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	ワークシートの回答は、授業時または WebClass に提示する。 プレパレーションの課題は、提出後評価し、内容に対するコメントをつけたのち、返却する。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』 オーム社 2017 奈良間美保編『系統看護学講座 23 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論』医学書院（e-テキストの方を選択してもよい）
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	講義予定表に記載してある授業テーマと関連する教科書の章を読んでくること。また、看護に関する講義は自己学習のノートを配布するので、講義後に講義内容の要点をノートで復習する。医師による講義は、WebClass にあげた課題を教科書を活用して事後学修する。 1 コマあたりの時間の目安は予習 20 分、復習 20 分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」と「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神看護学概論	
科目責任者	入江 拓	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神疾患を抱えて生きる対象者や家族に看護師として向かうためには、看護過程、疾患や治療に関する知識は必要不可欠ですが、こころの病いととも生きる事が、当事者にとってどのように「体験」されるのか、ということに関する理解がその土台となります。看護師も同じ人間としての弱さや限界を抱える存在であることを認めつつ、対象者を冷静に捉える視座を養うことが大切です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が各自の人間観および、養われつつある看護観を吟味し記述できる。 2. 精神看護の目標と役割について説明できる。 3. 精神の機能と障害について、当事者（個人・家族）の主観的体験という視点からイメージできる。 4. 精神疾患の病態・病理および治療の概観について理解できる。 	
授業計画	<p>第1回：精神看護とは （こころとからだ、正常と異常、人間観）</p> <p>第2回：精神看護の目的と役割 （対象者の主観的体験とは？）</p> <p>第3回：精神看護では何をどのように見るか （どこから何を眺めているのか？）</p> <p>第4回：精神看護に求められるもの （対象者を解ろうとすることを阻むもの。偏見・囚われ・構え）</p> <p>第5回：精神看護における対象者の理解の試み （対象者と取り巻く状況の視覚化）</p> <p>第6回：ライフサイクル各期における心理発達の障害 （危機的状況に焦点をあてて）</p> <p>第7回：精神疾患の成り立ち （精神の機能と障害）</p> <p>第8回：脳故障類型と精神症状</p> <p>第9回：神経症性障害</p> <p>第10回：気分障害</p> <p>第11回：統合失調症</p> <p>第12回：器質性精神障害 （症状性精神障害を含む）</p> <p>第13回：精神科治療 （薬物療法、精神療法、社会資源の利用）</p> <p>第14回：生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 （摂食障害、アルコール関連精神障害、薬物依存）</p> <p>第15回：精神看護の行為を支えるもの （ケアリング・共感・精神看護とは、まとめ）</p>	<p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><今泉寿明></p> <p><入江拓></p> <p><入江拓></p>

アクティブラーニング	当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための演習をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けて課題レポートを作成しWeb Classにて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始めることが必要です。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各単元の理解を深める上で重要です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	演習及び課題レポートの結果については、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	「看護のための精神医学」中井久夫・山口直彦. 医学書院 第2版 (2004) 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」 (改定第4版) 上島国利・立山萬里・三村将. 南江堂 (2017)
参考図書	「精神病というところ」松木邦裕. 新曜社 (2001)
事前・事後学修	事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	入江は看護学部の所属 (3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp) です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神看護援助論 I	
科目責任者	小平 朋江	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神看護学の枠組みや看護援助のための知識を踏まえ、看護過程など臨床で精神疾患を持った対象者に対してどのように治療的に関わっていくか、その援助のあり方を具体的に学びます。精神疾患を抱えながら生きる対象者は、どのような体験をしているのかに関心を持てることが重要です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で必要とされている知識と技術を理解できる。 2. 精神疾患を抱えながら生きる対象者が体験していることと呈する症状・状態を関連させて看護援助について記述できる。 3. 精神看護学で使用する各種の理論とそのアプローチの方法を理解できる。 4. 精神保健福祉および精神医療体制の現状を理解できる。 5. 「入院している場」と「生活している場」とを結び付けてイメージできる。 	
授業計画	<p>第 1 回：精神看護学の概観①精神医療の概念枠組み</p> <p>第 2 回：精神看護学の概観②精神看護学の看護過程</p> <p>第 3 回：精神科臨床の流れ</p> <p>第 4 回：統合失調症をもつ人の体験世界</p> <p>第 5 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（急性期）</p> <p>第 6 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（慢性期）</p> <p>第 7 回：神経症性障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 8 回：パーソナリティ障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 9 回：気分（感情）障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 10 回：摂食障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 11 回：アルコール使用障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 12 回：薬物療法と看護</p> <p>第 13 回：精神科リハビリテーションと地域におけるサポートシステム</p> <p>第 14 回：精神看護における援助的人間関係とは</p> <p>第 15 回：まとめ</p>	<p>入江 拓</p> <p>入江 拓</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>清水隆裕</p> <p>清水隆裕</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p>

アクティブ ラーニング	授業後のリアクションペーパーでは、疾患や障害の特徴を踏まえて自分はどうな関わりや看護援助をしたいか具体的に考え、記述することを通して、学生なりの看護援助を説明する経験を積み重ねていきます。授業の中で活用する「ナラティブ教材」(病いや障害の語りの教材)を参照し、授業進行中の期間にナラティブに関連の資料を本学の図書館などで探してみます。このような資料に触れることで、学生自身の気づきや学びを手がかりに、病いの体験を知ることが大切です。そして、授業の終盤で2~3人の小さなグループで話し合う時間を持ち、当事者視点の病いの体験について考えます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに記述される気づきや学び、疑問を講義でフィードバックして共有しながら、授業を進めていきます。
指定図書	川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は 40 分程度です。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者 小平朋江 (3401 研究室:tomoe-k@seirei.ac.jp) 精神看護学実習で実習病院に出向いている時間帯が多いため、面接予約などは早めにメールで連絡を入れて下さい。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	在宅看護学概論	
科目責任者	酒井 昌子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	在宅看護を必要とする社会的背景のを踏まえ、在宅看護の基本理念や目的、対象や活動の特徴、さらに在宅看護を支える法制度について学びます。また、在宅看護の対象である家族について基本的な理論と支援方法を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護を必要とする背景を理解し在宅看護の目的、特徴を説明できる 2. 在宅看護の対象者の特徴について概説することができる 3. 在宅看護を支える法制度や訪問看護の制度と機能の概要を説明できる 4. 在宅療養支援の基本となるケアマネジメントや連携について理解し説明できる 5. 基本的な家族看護論を学び家族アセスメントの視点を説明することができる 	
授業計画	<p>第1回：在宅看護が必要となる背景 酒井昌子 ・人口構造の動向、・健康に関する動向 ・在宅ケア推進の必要性</p> <p>第2回：在宅看護の目的と特徴 酒井昌子 ・在宅看護の目的と位置づけ、・在宅看護の機能と提供機関 ・在宅看護の基本理念（エンパメント、エンドオブライフ EOL・ヘルスプロモーション）</p> <p>第3回：在宅看護の対象者の特徴 酒井昌子 ・年齢・疾患・障害から対象者の特徴、・在宅療養状態別にみた対象者の特徴 ・対象を理解するためのモデル（ICF）</p> <p>第4回：在宅看護を支える法制度 小池武嗣 ・医療制度、介護保険制度、 ・障害者支援に関する制度、高齢者虐待防止に関する制度</p> <p>第5回：訪問看護の制度と機能 小池武嗣 ・訪問看護に関する制度（医療保険、介護保険、精神科訪問看護、公費負担制度）</p> <p>第6回：在宅療養の支援（1） ケアマネジメントと社会資源 聖隷 CPC 所長 ・ケアマネジメントの必要性 ・ケアマネジメントの定義と目的や展開の特徴</p> <p>第7回：在宅療養の支援（2） 意思決定支援 酒井昌子 ・意思決定支援と論理的課題 ・アドバンスケアプランニング（ACP）</p> <p>第8回：訪問看護ステーションにおける在宅看護の実際 訪問看護 ST 所長</p> <p>第9回：継続看護のための入退院支援 酒井昌子 ・退院支援とは ・退院支援方法 ・チームケアと多職種連携</p> <p>第10回：家族看護論① 家族発達論、家族システム論 山村江美子</p> <p>第11回：家族看護論② 家族ストレス対処論 山村江美子</p> <p>第12回：家族看護論③ 家族アセスメントと家族支援の要点 山村江美子</p> <p>第13回：家族を理解する（1）事例で考える 山村・酒井・小池</p> <p>第14回：家族を理解する（2）事例で考える 山村・酒井・小池</p> <p>第15回：地域包括ケアシステムと看護の役割 酒井昌子 ・地域包括ケアシステムの機能と構成 ・地域包括支援センターの機能 ・まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッションを取り入れていきます。
授業内の ICT 活用	IC 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 70%、レポート 10%、小テスト 10%、課題提出（リアクションペーパー） 10%、 計 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示、小テストの解説、リアクションペーパーのコメントや、講義の進行 に合わせたワークブックの返却によってフィードバックします。
指定図書	河原加代子著者代表（2019）. 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第 6 版、医学書院
参考図書	国民衛生の動向 2019 平成 30 年度看護白書、その他、授業中に随時提示します
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（2～5 回、） ・ 5 回、9 回授業後に WebClass 内の小テストに回答すること ・ レポート課題「在宅療養生活を継続させるために必要な看護は何か、あなたが一番理解した こと」を作成する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動することが多くな るのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。</p> <p>酒井 昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp 小池 武嗣（1214 研究室） takeshi-k@seirei.ac.jp 山村江美子（3412 研究室） emiko-y@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅看護、臨床看護（成人・高齢者）」の実務経験を有する講師が実務の観 点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域包括ケア看護論
科目責任者	豊島 由樹子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアについて、その概念や社会背景、法令・制度および、地域に暮らす人々の視点から地域包括ケアへの参加や看護の役割・課題について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの概念・社会的背景について理解できる。 2. 様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々に対する地域包括ケアに関連する法令や諸制度を理解できる。 3. 地域包括ケアの実例を理解し、地域包括ケアにおいて自らが行えることについて考えを広げることができる。 4. 事例展開を通して、地域に暮らす人々の視点から地域包括ケアへの参加や看護の機能や役割を述べることができる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <p>豊島由樹子、酒井昌子、式守晴子、宮谷 恵、野崎玲子、黒野智子、伊藤純子</p> <p>第1回：地域包括ケアの概念と社会背景 ＜豊島・酒井＞</p> <p>第2回：地域包括ケアを支える理論・用語 ＜酒井＞ (ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、 ケースマネジメント/ケアマネジメント、well-being/リカバリー等)</p> <p>第3回：地域包括ケアに関連する法令および制度① (育児支援・障害児支援) ＜黒野・宮谷＞</p> <p>第4回：地域包括ケアに関連する法令および制度② (精神障害者支援・中途障害者支援) ＜式守・豊島＞</p> <p>第5回：地域包括ケアに関連する法令および制度③ (認知症者支援・依存症者支援) ＜野崎・伊藤＞</p> <p>第6回：地域包括ケアの実際 ① ゲストスピーカー 久保田翠 ・知的障害者自立支援について</p> <p>第7回：地域包括ケアの実際 ② ゲストスピーカー 山田武弘 ・傷病を抱えながらの生活について</p> <p>第8・9回：地域包括ケアにおける事例展開 ①② ＜担当教員全員＞ 地域包括ケアにおける看護の役割・機能を考える ・オリエンテーション ・PBLによる課題解決学習</p> <p>第10・11回：地域包括ケアにおける事例展開 ③④ ＜担当教員全員＞ ・PBLによる課題解決学習</p> <p>第12・13回：地域包括ケアにおける事例展開 ⑤⑥ ＜担当教員全員＞ ・PBLによる課題解決学習</p> <p>第14回：地域包括ケアにおける事例展開についての発表 ＜担当教員全員＞ ・PBLによる課題解決学習 ゲストスピーカー 池本祐子</p> <p>第15回：地域包括ケアにおける看護の機能と役割 ゲストスピーカー 池本祐子 まとめ ＜担当教員全員＞</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッションやPBLによる課題解決学習、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	第3～7回の授業においては、Webclassを用いて、質問や疑問について双方向で授業を行います。またPBLによる課題解決学習では各自ICTを活用して課題について学習します。発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	最終レポート 50%、プレゼンテーション 20%、授業内小レポート 20%、課題提出物(リアクションペーパー) 10%、 PBLによる課題解決学習および最終レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対する フィード バック	毎回の授業で、質問・感想等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問については次回授業で全体に対して回答します。また、質問の回答や追加資料がある場合にはWebclassにアップします。 また発表での意見交換時にもコメントを述べフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡します。
事前・ 事後学修	<p>【2～5回目の授業】 事前学習としては、その日の授業内容(テーマ)における「キーワード」を提示するので、関連知識の復習を必ず行って下さい。1年次の公衆衛生看護学概論、地域保健実習、2年次春 Semesterの老年看護学概論、精神看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論等で学習した内容が役立ちます(1時間あたり20分程度)。 事後学習は、配布資料等を見直してわからなかったことを調べて、学びを定着させて下さい。8回目以降のPBLによる課題解決学習において必要になる内容です(1時間あたり20分程度)。</p> <p>【6～7回目の授業】 事前学習としては、その日の授業内容(テーマ)における「キーワード」を提示するので、関連知識の復習を必ず行って下さい。1～5回目ので学習した内容が役立ちます(1時間あたり10分程度)。 事後学習としては「地域包括ケアの実事例の話題を受けての学びや、地域包括ケアに向けて自分達ができること・続けられること」について、小レポートを作成してください(1時間あたり30分程度)。</p> <p>【8～15回目の授業】 事前学習としては、PBLによる課題解決学習に必要な参考図書や文献・資料を自分で選択し、グループでの自己学習成果の報告にむけた準備を行ってください(1時間あたり20分程度)。 事後学習としては、各自でPBLによる課題解決学習において学んだことをまとめ、次のPBL学習にむけて、自分の意見を発表できるように必要な内容や興味関心に沿った事柄について主体的に学修を行いましょ(1時間あたり20分程度)。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前にe-mailで連絡してください。</p> <p>・科目責任者：豊島由樹子(看護学部) 1615 研究室：yukiko-t@seirei.ac.jp (月曜17:30以降は比較的在室)</p> <p>酒井昌子(看護学部) 3410 研究室：masako-s@seirei.ac.jp 野崎玲子(看護学部) 2704 研究室：reiko-n@seirei.ac.jp 黒野智子(看護学部) 1709 研究室：tomoko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵(看護学部) 1713 研究室：megumi-m@seirei.ac.jp 式守晴子(看護学部) 3411 研究室：haruko-s@seirei.ac.jp 伊藤純子(看護学部) 1607 研究室：junko-it@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師・助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

アクティブ ラーニング	第6回と第7回ではグループワークを行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各授業の事前課題 35%、総合レポート 60%
課題に対する フィード バック	次の授業前に、個々ではなく全体にフィードバックします。
指定図書	大橋一友・岩澤和子編『国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして』 メディカ出版
参考図書	授業時に随時紹介する。
事前・ 事後学修	初回に提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	実習等で不在にすることが多いので、特定の曜日や時間帯を設けておりません。研究室（1212室）に明かりが点いているときには、ノックしてください。その時に応じることができない場合には、次に来ていただく日時をその場で決めます。または、事前にメールでアポイントを取ってください。hdeko-n@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際看護研修
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	アメリカの医療施設における看護実践の見学を通して、国際的な視野で保健医療福祉制度、看護師の役割・実践、他職種の役割について学ぶことを目的としている。事前研修、現地研修（講義・シミュレーション演習・病院での看護師シャドイング・施設見学等）、事後研修で構成され、並行して、課題に個人及びグループで取り組む。
到達目標	1) アメリカにおける保健・医療制度をふまえて、看護職が担う役割と看護実践について、日本との違いや共通点を考える。2) 患者・利用者の治療・ケアに関わる様々な専門職の役割を知る。3) 異文化体験を通して、アメリカの人々の暮らし・社会・多様な価値観などを理解する。4) 日本の文化、価値観、家族のありようなどを見直す。5) 英語によるコミュニケーションを積極的に行う。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>事前研修:</p> <p>第 1 回: オリエンテーション 心構え、研修の進み方、課題について</p> <p>第 2 回: 渡航準備について①参加者の役割など、英語学習について</p> <p>第 3 回: 渡航準備について②アメリカの基本情報など</p> <p>第 4 回: 保健・医療制度、看護基礎教育に関する講義、「質問リスト」の確認</p> <p>第 5 回: 渡航準備について③アメリカ入国認証 ESTA 申請登録など</p> <p>第 6 回: 看護シミュレーション演習と英会話トレーニング</p> <p>第 7 回: 課題発表 (40 分)、渡航準備について④出発前最終確認</p> <p>現地研修:</p> <p>第 8 回～第 14 回</p> <p>保健医療制度の講義、シミュレーション演習、病院施設見学、シャドーウィング等を実施する。</p> <p>事後研修:</p> <p>第 15 回: 看護研修全体の振り返りと報告会準備</p>

アクティブ ラーニング	研修参加にあたっては、日米の保健医療・看護教育制度、文化、社会・歴史的背景、健康問題、看護の現状と課題等に関する基本的な理解と議論を深め、自分なりの視点と課題を明確にしておく。そのために4つの事前課題に、個人及びグループで取り組み成果を発表する。研修後には学びを振り返り、①は現地で得た回答をまとめ、②～④についてはレポートを作成する。全体の振り返りで学びを共有・整理し、報告会の実施によって体験と学修を統合する。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて、事前課題の提出をし理解度の確認を行う。
評価方法	事前研修 35%、現地研修 50%、事後研修 15%
課題に対する フィード バック	事前事後学修の各課題に対し、履修者全員が研修の目的・目標に到達できるまで、各担当者が個別・グループ指導を行う。
指定図書	「看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット ワークブック（基礎編）」アルク
参考図書	随時、紹介する。
事前・ 事後学修	4つの課題を課す。①質問リスト（英文）作成、②日米の医療や看護教育等に関する調べ学修、③研修先（施設）の概要に関する事前学修、④英会話・看護英語のセルフ・トレーニング
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	水曜日の昼休み時間帯とします。実習、出張などで不在にすることもあります。その場合には、メールでご連絡ください。hideko-n@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域看護学実習
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康の維持、増進、回復、健康状態の悪化の予防などとおして、すべての人々の QOL の向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを旨とする地域看護学の考えを基盤とし、地域で生活する多様な健康レベルにある個人や家族の生活、集団における人々の相互作用（互助）、地域の住民組織の活動を把握することを目的とする。さらに、対象者に対して生命の尊厳と隣人愛を基盤とした適切な関係を築くことについて実習を通して学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の健康課題を発見し、その対策の一つであるポピュレーションアプローチについて考察することができる。 2. 地域で生活している人々の生活の理解、生活圏を理解し、住民相互の「互助」を理解しその効果を考察する。 3. 地域の住民組織の活動を把握する。
授業計画	<p><担当教員名> 仲村秀子、伊藤純子、若杉早苗</p> <p>第 1 回：地域看護学実習についてのオリエンテーション 実習 1：健康課題発見・対策を学ぶ実習 目的：地域の健康課題を発見し、その対策であるポピュレーションアプローチについて考察することができる。 方法：地域で行われている健康課題解決のための講演会や講習会、健康祭りなどに参加し、レポートをまとめる。 ①学生は教員が推薦する事業、市町村や県のホームページやチラシなどで各種事業や講演会などの情報を収集する。 ②教員に実習計画書を提出し、助言を受け参加の許可を得る。計画書の内容は、参加日時、事業内容、健康課題の内容と根拠等。 ③参加して実習記録に記載する。実習記録の内容は、参加者の状況観察、ポピュレーションアプローチとしての企画の意図、講演会の内容、期待される効果などを記載し、事業の必要性を考察する。 ④テーマごとにグループを作り、数グループで情報を共有する。 ⑤個人でレポートにまとめ、ポピュレーションアプローチの意義を考察する。 *時期：事業への参加は 2020 年 10 月から 2020 年 12 月下旬までの間 グループでの共有化を行う。</p> <p>実習 2：地域で生活する人々の生活・生活圏の理解、地域の「互助」把握実習 目的：地域で生活している人々の生活の理解、生活圏を理解し、住民相互の「互助」を理解しその効果を考察する。 方法：4 名程度でグループを編成し地域に出る。 ①地域の住民組織やグループ活動に参加し、人々の生活、生活圏についてインタビューを行う。住民組織の活動に参加し、住民相互の様子を観察し互助の意義を考察する。 ②インタビュー内容より、人々の生活圏を地区視診し、生活圏をマップと写真で表現する。 ③テーマごとにグループが集まって活動の共有化を図る。 ④生活や生活圏、互助、住民組織の活動の意義等について個人でレポートにまとめる。 *時期：2 月の実習時期</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習記録 20%、課題レポート 1 (30%)、レポート 2 (30%)、実習に取り組む姿勢や態度 20%
課題に対する フィード バック	実習計画、グループでの共有化、課題レポート内容についてフィードバックを行います。
指定図書	『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』：医学書院
参考図書	随時紹介します
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションで提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	教員は実習に出ていることも多いので、面接は事前にメールで予約をとってください。 仲村秀子 (1212 研究室:hideko-n@seirei.ac.jp) 伊藤純子 (1672 研究室:junko-it@seirei.ac.jp) 若杉早苗 (1220 研究室:sanae-w@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な立場や意見、生活背景を持つ看護の対象者を理解し、対象を理解するために必要な基本的な態度、コミュニケーション能力を身につける。看護の対象となる人々の病院における生活環境の実際を知ると共に、看護の役割について考える。また、看護職に必要な基本的態度を理解し育成する。同時開講する地域看護学実習 I での学びと合わせ、対象理解のための学修を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の病院における療養環境を知る。 2. 看護師が行う看護実践を見学して、看護の役割について考えることができる 3. 看護職に必要な基本的な態度を学ぶことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 炭谷正太郎、檜原理恵、佐久間佐織、柴田めぐみ、早川ゆかり、他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松労災病院、北斗わかば病院 2. 実習期間 2 月 3. 実習展開 学内実習：オリエンテーション、臨地実習：臨地実習、実習のまとめで構成する

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	
評価方法	自己評価に基づく面接 40%、実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 30% 実習記録 10%、課題レポート 20% 実習目標に合わせ、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に、担当教員と面談の時間を持ち、自己の課題と解決方法について フィードバックを行う。
指定図書	茂野香お他：系統看護学講座 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I, 医学書院, 2016. 任和子他：系統看護学講座 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II, 医学書院, 2015. 三上れつ/小松万喜子 (2017) 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第 2 版、南江堂
参考図書	オリエンテーション時に連絡
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、看護学原論 I ・基礎看護技術 I で学修している内容を 事前学修します。また、看護技術を見学・実施するにあたり、基礎看護技術 I の復習が必要で す。加えて同時開講している看護学原論 II ・基礎看護技術 II の該当箇所を事前・事後学修しま す。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル : https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎 : 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	2単位 (90時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	受け持ち患者への看護実践活動を通し、患者の療養生活を理解し、援助のための基本的な看護技術と看護過程の基礎を学修する。また、対象者に必要な療養生活援助のための計画を立案し、看護技術を実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養生活援助における基本的な援助技術を理解し、実践できる。 2. 患者の情報を整理・統合し、療養生活の援助を中心とした援助計画を立案することができる。 3. 看護職に必要な態度を持ち、主体的に行動できる。
授業計画	<p><担当教員名> 基礎看護学領域教員</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 実習期間 4月：実習オリエンテーション、OSCEによる基本的な看護技術の確認 (技術の確認を終了しないものは臨地実習に参加できない) 8～9月：臨地実習 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松医療センター、 浜松労災病院、北斗わかば病院</p> <p>3. 実習展開 学内実習 (OSCEによる技術の確認)、臨地実習、実習のまとめで構成する</p>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	特になし
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、自己評価に基づく振り返り 30%、 実習記録 10%、課題レポート 10% 実習の到達目標に合わせ、項目ごとにルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に担当教員と面談の時間をもち、自己の課題と解決方法についてフ ィードバックを行います。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I，医学書院，2019. 任和子他：系統看護学講座 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II，医学書院，2017. 三上れつ/小松万喜子 (2017) 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第 2 版、南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I・基礎看護技術演習 I で学修してい る内容を復習します。加えて、看護過程の学修では事例を展開するために 1 コマあたり事前 20 分、事後 20 程度、1 年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
オフィス アワー	榎原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年看護学実習 I
科目責任者	齋藤 直志
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	介護保険サービスを利用している高齢者とのコミュニケーションを通して、老年期を生きる人々への理解を深め、高齢者の尊厳や自立について学修する 介護保険サービスを提供する施設での実習を通して、介護保険制度を理解する
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関心を持ち、対象者に合わせたコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる 2. 高齢者が生きてきた時代背景を踏まえ、老年期を生きる人々の生活歴を理解できる 3. 介護保険（デイサービス・デイケア）を利用する高齢者が受けるサービス内容について説明できる
授業計画	<p>担当教員名 齋藤直志 野崎玲子 松元由香 豊島由樹子</p> <p>内容 実習オリエンテーション デイサービス・デイケアでの実習 全体意見交換会（学内）</p> <p>実習施設 指定されたデイサービス デイケア</p> <p>実習期間 令和3年3月の指定された1週間</p> <p>詳細は老年看護学実習 I 実習要項参照</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の到達度 90% (実習要項の実習評価表参照) ・実習に臨む態度 10% (事前学習内容、意見交換会での発言等) ・ルーブリックは用いない
課題に対する フィード バック	提出された実習記録に、担当教員がコメントを記載し、本人へ返却する
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版 鳥羽研二 医学書院 2018 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 第9版 北川公子 医学書院 2018
参考図書	高齢者生活年表 1925-2000 年増補 河島修, 厚美薫, 島村節子 日本エディタースクール出版部 2001
事前・ 事後学修	別記する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	研究室 時間はオリエンテーション時に説明します 連絡先
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護学概論
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活するあらゆる人々の健康について、生活を基盤に捉え、社会的な背景も踏まえ看護の立場から保持・増進し、疾病を予防していく公衆衛生看護の理念を理解する。そして、地域住民の 1 人ひとりの健康状態をよりよい状態にすること、および対象集団全体の健康増進と疾病予防を地域社会の組織化された努力によって実現するための対象、活動の場、展開方法を理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念について、理論を通して学ぶ。 2. 公衆衛生看護の対象、方法論を理解する。 3. 公衆衛生看護の歴史を概観し、活動の特徴、意義を探求する。 4. いろいろな場で活動する公衆衛生看護の実態を把握し、展開方法を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>理念と歴史</p> <p>第 1 回：公衆衛生看護の理念と基本 仲村秀子</p> <p>第 2 回：公衆衛生看護の歴史（日本・外国） 伊藤純子</p> <p>第 3 回：社会の動向と公衆衛生看護活動 仲村秀子</p> <p>対象理解と活動方法、健康課題</p> <p>第 4・5 回：公衆衛生看護の対象の捉え方と場 仲村秀子</p> <p>第 6 回：対象：個人／家族 家庭訪問 若杉早苗</p> <p>第 7 回：対象：地域／小地域、アウトリーチ／協働 若杉早苗</p> <p>第 8 回：対象：住民組織／地域組織、健康課題 伊藤純子</p> <p>活動方法の基本的考え方</p> <p>第 9 回：予防と健康増進 仲村秀子</p> <p>第 10 回：地域づくり ゲストスピーカー</p> <p>第 11 回：事業化、施策化、システム化 川村佐和子</p> <p>活動の実際</p> <p>第 12 回：保健師活動の実際（産業保健） ゲストスピーカー</p> <p>第 13 回：保健師活動の実際（市町村保健師） ゲストスピーカー</p> <p>第 14 回：保健師活動の実際（学校保健） 津田聡子</p> <p>第 15 回 まとめ 仲村秀子</p>

アクティブ ラーニング	授業時間内に、テーマを提示します。数人で討論を行い、その内容を発表してもらいます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前課題：40% 定期試験：60% 課題レポートを評価しますが、評価にルーブリックは使いません。
課題に対する フィード バック	事前学修内容を基に授業を展開し、授業の中で課題のフィードバックを行います。
指定図書	標美奈子（著者代表），標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院。
参考図書	授業中に提示します。
事前・ 事後学修	授業の最後に、次の授業の予習内容を提示します。その事前学修を基に、授業を展開していきます。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてください。日程を調整 します。 仲村秀子：hideko-n@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護技術論
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	臨床場面で用いられる基礎看護技術を基として、生活の場で用いられる公衆衛生看護固有の技術を理解する。また、成人保健の事例を用いて発達課題と健康課題への理解を基盤として、公衆衛生看護活動を行う上で重要な理論を技術とを結び付けて考えることができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基盤となる理論を理解できる。 2. 公衆衛生看護技術を理解できる。 3. 成人期の人々を対象とした健康に関する法規と施策を理解する。 4. 成人事例を基に公衆衛生看護の対象理解及び地域活動への展開が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 仲村秀子、伊藤純子、若杉早苗</p> <p>導入</p> <p>第1回 公衆衛生看護過程の展開</p> <p>第2回 公衆衛生看護の基盤となる理論①</p> <p>第3回 公衆衛生看護の基盤となる理論②</p> <p>第4回 公衆衛生看護技術</p> <p>成人事例の展開</p> <p>第5回 成人期の人々の理解と健康に関する主な法規、施策</p> <p>第6回～9回 個人・家族への支援に必要な基本的知識と技術： 健康相談、家庭訪問、健康診査</p> <p>第10～12回 地区／小地域への支援に必要な基本的知識と技術： 地域診断</p> <p>第13～15回 住民組織／地域組織への支援に必要な基本的知識と技術： 健康教育、組織活動、連携調整、事業化</p>

アクティブ ラーニング	公衆衛生看護技術に関連した内容を取り上げる科目の為、アクティブラーニングの実施は、限定されるが、基本的な面接技術について、授業内で学生同士の演習を行うようにする。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて事前課題で学生の理解度を把握して、授業に生かし双方向の授業を行う。
評価方法	事前・事後学修 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	次の授業の開始時にクラス全体にフィードバックする。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 1年次に購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院
参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 3 循環器 医学書院
事前・ 事後学修	授業前に WebClass 内の事前課題（第 2 回～15 回）に回答すること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	水曜日の昼休み時間帯とします。実習、出張などで不在にすることもあります。その場合には、メールでご連絡ください。hideko-n@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護技術論演習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	多様な対象者の健康問題を予測し、予防的に対処していくための、専門的な知識や技術の習得及び、課題解決の過程(アセスメント・分析・診断・計画・実施・評価)の6つの要素を理解し、理論に基づいた主体的に関与・支援ができる技能を身につける。さらに、公衆衛生看護活動を実践するための保健指導、健康相談、健診等に係る公衆衛生看護技術を習得する。
到達目標	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につける。 1. 多様な対象者のセルフケア能力を高める保健指導計画の立案方法を理解できる。 2. 個人・家族に対する保健指導(個人・家族の健康支援)の展開ができる。 3. 集団に対する基本的な健康教育をおこなう方法を理解すると共に、地域支援(地域の健康課題)へとつながる保健指導の展開ができる。 4. 多様な対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。
授業計画	<担当教員名> 若杉早苗、仲村秀子、伊藤純子 <授業内容・テーマ等> I. 導入 (1 コマ) 第1回: オリエンテーション: 公衆衛生看護の支援技術 (公衆衛生看護技術論事例の振り返り) II. 個人・家族を対象とした支援に必要な技術 (6 コマ) 成人を対象(個人)の生活を捉える視点を意識しながら、顕在的・潜在的健康課題をアセスメントし、個別指導計画を作成する。 第2回: 個別の保健指導技術の展開: 家庭訪問 (講義) 若杉 (家庭訪問対象者の理解、情報の整理、アセスメント、指導計画作成技術) 第3~4回: 個別の保健指導技術の展開 (演習) 教員全員 (成人を対象としたアセスメント・訪問計画の作成) ●担当学生の計画(情報整理、アセスメント、計画内容)を確認し指導をおこなう ●修正部分の確認をおこない、思考を整理する 第5~6回: 個別の保健指導技術の展開: 家庭訪問 教員全員 (成人の相談技術の実践: 学生同士のロールプレイ) ●2コマ続けて演習を開講するA・Bグループに分けてロールプレイ・リフレクション 第7回: 個別の保健指導技術: 家庭訪問の支援評価 (講義+演習) ●ロールプレイをおこなった家庭訪問を再アセスメントし指導の方向性を評価する III. 地域住民・組織を支援する公衆衛生看護技術 (3 コマ) 第8回: 地域診断のテクニック (講義+演習) 教員全員 第9回: 特定健診結果・診療請求書(レセプト)から地域診断するテクニック (講義) ●国保連合会保健師 外部講師 第10回: 地域診断の実践 (演習+講義) 教員全員 IV. 集団を対象とした公衆衛生看護技術 (4 コマ) 母子事例又は成人を対象(個人)とした特定健診結果から地域の共通した健康問題として捉える視点を持ち、集団健康教育の指導計画を作成する。 第11回: 集団の保健指導技術: 健康教育 (講義+演習) 教員全員

	<p>(個人の健康問題はその地域の問題として捉え、解決策(健康教育案)を作成する。教育目標の設定、方法と媒体)</p> <p>第12回: 集団の保健指導技術: 健康教育素案の指導 教員全員 (目的・目標を達成するための方法と媒体、指導案の作成、発表準備) //</p> <p>第13回: 集団の保健指導技術: 健康教育(実践・演習) } //</p> <p>第14回: 集団の保健指導技術: 健康教育(実践・演習) } 連続コマで実施 //</p> <p>●1人15分の教育指導(5~6人グループ)をお互いに講評する</p> <p>●実践した健康教育を自己評価(リフレクション)する</p> <p>V. 公衆衛生看護に必要な技術・まとめ(1コマ)</p> <p>第15回: 公衆衛生看護技術のまとめ(実践の講評+講義) 若杉</p>
アクティブラーニング	演習科目です。集団を対象とした学修は、個人ワーク、プレゼンテーションをします。個人・家族を対象とした学修では、保健師の実践技術をロールプレイにより習得していきます。
授業内のICT活用	健康教育の企画に対し、インターネットを活用して情報を収集し活用する。健康教育の発表にはパワーポイントを使用し、プレゼンテーション能力向上にも活用する。
評価方法	定期試験 50%、演習記録 30%、演習への取り組み態度 20% *演習評価は、ルーブリックを用いない。演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。
課題に対するフィードバック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。講義のコマではリアクション・ペーパーの記載から到達していない課題を確認し、次回の演習でフィードバックしていきます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第5版』(医学書院) 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』: 医学書院: 購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』: 医学書院: 購入済み 『国民衛生の動向』: (厚生労働統計協会編): 購入済み 『国民の福祉と介護の動向』: (厚生労働統計協会編): 購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2018-2019: MEDICMEDIA ※この他必要に応じて随時紹介します
事前・事後学修	公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。 特定健診・特定保健指導、医療保健制度、保険診療の仕組み(診療請求書: レセプト)について (成人看護、国民衛生の動向、公衆衛生がみえる 2018-2019)
オープンエデュケーションの活用	演習に関する事例及び様式をWebclassに掲載し活用する。 保健指導のリソースガイドURL: http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/kanshoku-file/ 東京法規出版映像チャンネルURL : https://www.youtube.com/channel/UCbJ_8X-kZ2fys1kEefCLBFQ
オフィスアワー	研究室: 1号館2階1210研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール(sanae-w@seirei.ac.jp)でアポイントメントをお願いいたします。
実務経験に関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	教職概論
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2単位 (30時間) 選択 1 Semester
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本授業は、今日の日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力を理解することを目的とします。教員の職務内容の全体像について理解を深めると同時に、教員研修の必要性や教員が果たすべき服務上・身分上の義務と身分保障について理解します。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担してチームとして組織的に諸課題に対応する必要性について理解していることを目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。 2. 教員の職務内容の全体像や、教員研修の意義や生涯に渡って学び続けることの必要性を理解し、服務上、身分上の義務を及び身分保障を理解する。 3. 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション・教職課程での学びについて 担当:内崎哲郎</p> <p>第2回：教員になるために（教員免許状の種類） 担当:内崎哲郎</p> <p>第3回：学校教育の役割と社会的意義 担当:内崎哲郎</p> <p>第4回：教員の服務上・身分上の義務 担当:内崎哲郎</p> <p>第5回：教員の身分保障に関する法律 担当:内崎哲郎</p> <p>第6回：教員の研修制度と教員の権利 担当:内崎哲郎</p> <p>第7回：教員の職務内容:教科指導と生徒指導・ 担当: 飯田真也</p> <p>第8回：教員の職務内容：学校運営 担当:内崎哲郎</p> <p>第9回：地域社会との連携とチーム学校運営への対応 担当:内崎哲郎</p> <p>第10回：教育病理：いじめ・不登校・暴力行為などの学校教育の問題 担当:内崎哲郎</p> <p>第11回：教育病理：学校教育の問題への教員の対応:チーム学校への対応 担当:内崎哲郎</p> <p>第12回：教員の職務内容：元養護教諭の講演 担当:大澤富子</p> <p>第13回：教員の力量形成と学び続ける教師像 担当:内崎哲郎</p> <p>第14回：教員の求められる資質と能力 担当:内崎哲郎</p> <p>第15回：まとめ 担当:内崎哲郎</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを使って行います。
評価方法	授業内評価点 (60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%) + 最終テスト (40%) ・毎回の授業の最後には、小テストを実施して評価します。 ・論述式のテストで評価するが、ループリックは用いない。
課題に対する フィード バック	・テストの解答例の提示、テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント、
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
参考図書	授業中に適時提示します。
事前・ 事後学修	・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して次の授業に臨んでください。(2 回～15 回目) ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。(2～15 回目) ・毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	・中学校・高等学校教諭、浜松市教育委員会学校協議会委員、コミュニティースクールアドバイザーなど

科目名	学校保健	
科目責任者	津田 聡子	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester	
DP番号と科目領域	教DP(2)教職	
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。	
科目概要	学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習し、学校保健安全に対する知識、技術と態度を修得する事を通して、実践力の基礎を養う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健安全法の目的・意義を説明できる。 2. 学校における保健管理・保健教育・安全管理等における養護教諭の役割機能を説明できる。 3. 学校保健における教職員が果たす役割機能を説明できる。 4. 組織活動に関わる地域及び社会資源について説明できる。 5. 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識・技術を身につけることができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 養護教諭の職務と専門性 津田聡子</p> <p>第2回：学校保健の目的と変遷、国や文部科学省の役割と関連法律 津田聡子</p> <p>第3回：学校保健の構成職種 津田聡子</p> <p>第4回：保健室経営における校内教職員との連携 (保健室経営案・学校保健計画・学校安全計画) 津田聡子</p> <p>第5回：児童生徒の発達段階に基づいた健康把握・評価と健康実態 津田聡子</p> <p>第6回：健康診断の目的と意義 津田聡子</p> <p>第7回：健康観察の目的と意義、児童生徒の疾病管理（慢性疾患・感染症） 津田聡子</p> <p>第8回：学校救急処置と養護診断 津田聡子</p> <p>第9回：健康相談の進め方、児童生徒の心身の健康問題とその対応 津田聡子</p> <p>第10回：安全で健康的な学校づくり（環境衛生・危機管理） 津田聡子</p> <p>第11回：保健学習・保健指導と養護教諭の役割 津田聡子</p> <p>第12回：養護教諭の活動と実際 ゲストスピーカー 養護教諭： 矢吹淑恵先生</p> <p>第13回：学校保健における他職種との連携① 社会福祉学部 大場義貴 精神保健福祉士の役割と実際</p> <p>第14回：学校保健における他職種との連携② 伊藤純子 行政保健師の役割と実際</p> <p>第15回：組織活動とヘルシースクール 養護教諭に求められている専門性と今日的課題 津田聡子</p>	

アクティブ ラーニング	<p>毎回、短時間のグループワーク、ディスカッションを取り入れる。</p> <p>第6回では健康診断の演習を行う。</p> <p>第10回ではロールプレイングを行う。</p> <p>第11回目では、環境衛生検査の器具を使用する実験を行う。</p>
授業内の ICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	課題提出物 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	<p>レポートはコメントを添えて返却する。</p> <p>リアクションペーパーは全体の場でフィードバックを行う。</p>
指定図書	学校保健ハンドブック第7次改訂（教育養成系大学保健協議会/編）ぎょうせい
参考図書	津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版
事前・ 事後学修	<p>1コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（2～12回目）。 授業前に、Webclass内の事前課題に回答すること（2～12回目） 授業後に、Webclass内的小テストを実施すること（4回目、8回目、12回目） レポート「学校保健における他職種との連携」についてレポートを作成すること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm 学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm 小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm 特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など <p>日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p>
オフィス アワー	<p>科目責任者</p> <p>津田 聡子（1619 研究室:satoko-t@seirei.ac.jp）</p> <p>事前に予約を入れてください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

アクティブ ラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていく。
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います
評価方法	定期試験 (60%)、確認テスト (20%)、課題 (20%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	指定無し
参考図書	よくわかる特別支援教育[第2版] (湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房)
事前・ 事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (30分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育課程・方法論
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2単位(30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	<p>本授業では、学校教育で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本的原理と方法や、学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。</p> <p>さらに、教育方法の基礎的理論を理解し、教育の目的に適した指導技術を身につける。その上で、教材や情報機器を活用して、効果的な授業や適切な教材の作成ができるようにする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の歴史を踏まえ、教育課程の編成の目的及び方法を理解する。 2. 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解する。 3. 教育方法の基礎的理論と実践を理解し、目的に応じた指導技術を理解し、身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：教育課程の意義と役割及び機能 第2回：教育課程の編成の原理と類型 第3回：学習指導要領の性格と基本構造 第4回：学習指導要領の改訂の変遷 第5回：教育課程の歴史：欧米社会と日本 第6回：教育課程の経営：カリキュラム・マネジメント 第7回：教育課程の評価：学校評価ガイドラインと評価事例 第8回：教育方法の理論：教授学の成立とコメニウス 第9回：教育方法の理論：国民国家の教育学と行動科学の教育技術学 第10回：学習指導の技術と授業の実践 第11回：教材と情報機器の活用 第12回：学習指導案の作成と教育評価 第13回：模擬授業の実施と教育評価 第14回：模擬授業の実施と教育評価 第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学生による模擬授業、ロールプレイ、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	
評価方法	授業内評価点 (60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%) + 最終テスト (40%) ・毎回の授業の最後には、小テストを実施して評価します。 ・論述式のテストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	・各種テストの解答例の提示、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	・授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	山崎準二編『教師教育テキストシリーズ9 教育課程 第二版』学文社、2018年。 佐藤学『教育方法学』、岩波書店、2011年、樋口直宏、林尚示、牛尾直行編『実践に活かす教育 課程論・教育方法論』、学事出版、2012年
事前・ 事後学修	・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低3回は熟読して次の授業に臨んで ください。(2回～15回目) ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。(2～15回目) ・毎回の事後学修の目安時間は40分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	・なし

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	教 DP(1) 教職	
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング（傾聴）技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校（保健室登校）、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方（個別及び連携）について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	<p>1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題（不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など）について理解する。</p> <p>1 の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。</p>	
授業計画	<p>第 1 回：学校教育における教育相談の意義</p> <p>第 2 回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 1 ：傾聴技法の基本</p> <p>第 3 回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 2 ：傾聴技法のロールプレイ</p> <p>第 4 回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 3 ：生徒対応のロールプレイ</p> <p>第 5 回：児童生徒への関わり方についての事例検討</p> <p>第 6 回：保護者への関わり方についての事例検討</p> <p>第 7 回：不登校児童生徒の理解と支援</p> <p>第 8 回：保健室登校の理解と支援</p> <p>第 9 回：いじめに関する理解とその対応 1：講義</p> <p>第 10 回：いじめに関する理解とその対応 2：演習</p> <p>第 11 回：児童虐待の理解と支援</p> <p>第 12 回：校内支援体制（チームによる援助）の実際</p> <p>第 13 回：模擬事例検討(グループワーク) 1：不登校の事例</p> <p>第 14 回：模擬事例検討(グループワーク) 2：保健室登校の事例</p> <p>第 15 回：模擬事例検討(グループワーク) 3：心身症の事例</p>	<p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	定期試験 50%, 授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など) 50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、全体場で回答・コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。また、授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	学校体験活動
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (3) 教職
科目の位置付	(1) と (2) を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。
科目概要	学校や教員の仕事について知り、学校教員を目指す上での目的意識を高めるために、実際に学校現場に入って、教育活動の補助や児童生徒との関わりなどの体験活動を行う。中・高等学校及び特別支援学校という異なる校種を体験することで、児童生徒の様子および教員の教育活動の違いも知ることができる。
到達目標	1. 学校現場に入って教育活動の補助等、教職の実際を体験することによって、学校・教員・児童生徒についての理解を深める。 2. 学校での体験活動を通して、自らの学校教員としての適性について考え、教職に進む上での自らの課題や目標を見つける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、津田聡子、</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：学校体験活動に関する事前指導</p> <p>第 2 回～第 3 回：基本的に9月に実施予定 中・高等学校での体験活動（聖隷クリストファー中・高等学校にて）。 ①講話(管理職、養護教諭、生徒指導主任、教育相談主任) ②一日保健室体験(小学校見学も含む)</p> <p>第 4 回～第 6 回：基本的に9月に実施予定 特別支援学校での体験活動（静岡県立西部特別支援学校にて）。 ①講話(学校概要説明、管理職)、学校参観 ②講話(養護教諭、給食補助(食事前準備、食事参観) ③学校祭参観</p> <p>第 7 回：学校体験活動の振り返りと事後指導</p>

アクティブラーニング	学校現場において体験活動を行う。
授業内のICT活用	体験活動の振り返りの発表では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う。
評価方法	体験活動への取り組み状況(各回の報告を含む)70%、最終レポート(体験活動の振り返り)30%
課題に対するフィードバック	各回の体験活動について報告を提出してもらい、それに対するフィードバックを行う。最終レポートは教員がチェック・コメントした後、返却する。
指定図書	特になし。
参考図書	特になし。
事前・事後学修	各回の体験活動ごとに報告を記述して、自分なりの振り返りを行う。少なくとも40分以上は行う。一通り終えた後、体験活動の振り返りについてのレポートを作成すること(最低80分)。
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 津田聡子(看護学部) 1619 研究室 satoko-t@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	キャリアデザイン
科目責任者	市江 和子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身につける。また、キャリアの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連を踏まえ、自身のキャリアデザインを描く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職の多様なキャリアコースを理解できる。 2. 看護専門職に求められる社会人基礎力を理解し、キャリアデザインとの関連を考えることができる。 3. 看護専門職としての自分自身のキャリアデザインを描くことができる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員＞</p> <p>第1回：オリエンテーション、キャリアデザイン・社会人基礎力と何か 市江和子、津田聡子、神崎江利子、兼子夏奈子</p> <p>第2回：社会人基礎力を身につける (1) 看護専門職としてのマナー 神崎江利子</p> <p>第3回：社会人基礎力を身につける (2) チームで働く力 津田聡子</p> <p>第4回：看護専門職の多様なキャリアコース 市江和子</p> <p>第5回：先輩看護専門職者のキャリアデザイン 助産師としてのキャリア形成 ゲストスピーカー 助産師 疋田智尋</p> <p>第6回：先輩看護専門職者のキャリアデザイン 高度実践専門看護師 (CNS) としてのキャリア形成 ゲストスピーカー 急性・重症患者看護専門看護師 桑原美香</p> <p>第7回：「キャリア・キャリアデザイン」を考える (グループワーク) 市江和子、津田聡子、神崎江利子、兼子夏奈子</p> <p>第8回：「キャリア・キャリアデザイン」を考える (グループワークと発表) 市江和子、津田聡子、神崎江利子、兼子夏奈子</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に沿って課題を提示する。 ・授業中やリアクションペーパーの質問や意見については、授業時または WebClass で回答する。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、自己学習をする。
評価方法	<p>本科目の評価は以下の3点で行い、レポートはルーブリックを用いて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート①：社会人基礎力に関するもの 30% ・課題レポート②：自分自身のキャリアデザインについて 30% ・グループ発表と発表資料 20% ・授業への参加態度 20%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題やリアクションカードの質問や意見に対する回答は、授業時または WebClass で行う。 ・課題レポートは内容を確認後に返却する。
指定図書	・「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック-先輩の声-」 本学就職センター作成資料
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学習時間の目安はそれぞれ 20 分（計 40 分）を目安とする。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で提示された課題に取り組み授業に参加する。また、各自授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことも良い。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、わからなかったこと、気になったこと等を調べる。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>自主学习として、以下の視聴を勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会 https://www.nurse.or.jp/ 看護実践情報 看護に関するよくあるご質問 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/faq/index.html ・日本看護系大学協議会 http://www.janpu.or.jp/
オフィス アワー	<p>事前にメールでアポイントを取った後に訪室してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市江和子 (1712 研究室 : kazuko-i@seirei.ac.jp) ・津田聡子 (1619 研究室 : satoko-t@seirei.ac.jp) ・神崎江利子 (1710 研究室 : eriko-k@seirei.ac.jp) ・兼子夏奈子 (1216 研究室 : kanako-s@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・助産師・養護教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	疫学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。
到達目標	人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学的因果論① 疫学的病因論 第4回 疫学的因果論② 因果関係の立証 第5回 疫学指標① 健康指標 第6回 疫学指標② 関連の指標 第7回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第8回 疫学研究法② コホート研究 第9回 疫学研究法③ 症例対照研究 第10回 疫学指標③ 関連の指標 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学調査法 第13回 疫学の応用 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価</p>

アクティブ ラーニング	問題演習を行います。
授業内の ICT 活用	資料の提示
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	演習問題の提示および解説を行います。
指定図書	日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	Rothman J,K 著 矢野栄二他 訳 ロスマンの疫学 科学的思考への誘い 篠原出版新社 2013 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂 丸井英二 疫学/保健統計 第3版 (最新保健学講座6) メヂカルフレンド社
事前・ 事後学修	公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習 (自己学習) してください。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。提示した課題の内容を中心として各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は 30 分~60 分です。事前・事後学修では計算方法を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	臨床心理学
科目責任者	松瀬 留美子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	臨床心理学は心の問題を抱えるクライアントの理解と心理的援助の方法について研究・実践する学問である。本講では、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について学び、精神医学的な知見も取り入れ、発達障害や人格病理、精神障害について基礎的な知識と心理的支援の在り方を理解する。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、映像資料や絵本を用いて心の世界と支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理臨床的なアセスメントについて理解する。 2. 学校におけるいじめ、不登校の現状の理解と心理支援、児童虐待の発生メカニズムと対応、発達障害の支援について理解する。 3. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生きる力と臨床心理学—臨床心理学の目的と方法 スクールカウンセラーと養護教諭の関係、チーム学校の考え方</p> <p>第2回：心理療法の概観 精神分析、クライアント中心療法、芸術療法、行動療法、内観療法、森田療法、</p> <p>第3回：心理検査法と自己理解 投影法、質問紙法</p> <p>第4回：児童期の情緒的問題と心理支援</p> <p>第5回：発達障害①自閉スペクトラム症の診断基準と児童青年期の状態像</p> <p>第6回：発達障害②注意欠如多動症の状態像、発達障害生徒の学校における事例の検討</p> <p>第7回：不登校の理解と学校における支援</p> <p>第8回：いじめ問題①中学校生徒の事例呈示</p> <p>第9回：いじめ問題②いじめの構造と学校における支援</p> <p>第10回：虐待と学校臨床</p> <p>第11回：思春期に起りやすい課題—摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第12回：同一性の課題—性的少数者の理解と学校での対応</p> <p>第13回：神経症的問題と精神障害—対人恐怖、うつ病、統合失調症</p> <p>第14回：ひきこもり—心理と現状、支援の在り方</p> <p>第15回：青年期の事例検討と心理臨床</p>

アクティブラーニング	適応に困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な面接の知識は、事例検討とグループディスカッションにより、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業内課題 40%、中間期レポート 30%、期末レポート 30%、 計 100%
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。期末レポートは解答のポイントと採点基準を明示する。
指定図書	なし 各自で読みやすい「臨床心理学」関連の入門書を選択して読むこと
参考図書	『こころと関わる臨床心理』 第3版 (2015) DSM5 準拠 ナカニシヤ出版 川瀬正裕他編 『絵本に学ぶ臨床心理学序説』 第2版 (2013) ナカニシヤ出版 松瀬喜治編
事前・事後学修	事前に提示した課題を調べ、配布した資料を 25 分程度読んで、理解を深めておく。同時に、15 分程度の復習をする。
オープンエデュケーションの活用	衛星放送 BS 放送テレビ 放送大学 「心理学」「精神医学」関連の講義 東大テレビ https://today.tv/ 「心」「精神医学」関連の講座
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」「学校心理士」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人看護援助論Ⅱ																																
科目責任者	藤浪 千種																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響を理解し、周術期にある対象の予防的な看護や回復を促進する看護を学修する。また、救急医療や集中治療などを受けクリティカルな状態にある対象を理解し、クリティカルケア看護の特徴を学修する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある患者の生命維持、合併症予防に必要な看護が説明できる。 2. 周術期にある患者の回復を促進し合併症を予防する看護が説明できる。 3. 周術期にある患者のセルフマネジメントを支援する看護が説明できる。 4. クリティカルケアとクリティカルケア看護の特徴が説明できる。 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）</td> <td>藤浪千種 乾友紀</td> </tr> <tr> <td>第2回：運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第3回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第4回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第5回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第6回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第7回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第8回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第9回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）</td> <td>乾友紀</td> </tr> <tr> <td>第10回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第11回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第12回：クリティカルケアとクリティカルケア看護</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第13回：クリティカルな状態にある患者の看護</td> <td>藤浪千種 (寺田康祐)</td> </tr> <tr> <td>第14回：手術を受ける患者の看護：事例展開①</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第15回：手術を受ける患者の看護：事例展開②、まとめ</td> <td>藤浪千種</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション、運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）	藤浪千種 乾友紀	第2回：運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）	氏原恵子	第3回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）	藤浪千種	第4回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）	藤浪千種	第5回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）	藤浪千種	第6回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）	氏原恵子	第7回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）	氏原恵子	第8回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）	氏原恵子	第9回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）	乾友紀	第10回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）	氏原恵子	第11回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）	氏原恵子	第12回：クリティカルケアとクリティカルケア看護	藤浪千種	第13回：クリティカルな状態にある患者の看護	藤浪千種 (寺田康祐)	第14回：手術を受ける患者の看護：事例展開①	藤浪千種	第15回：手術を受ける患者の看護：事例展開②、まとめ	藤浪千種
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：オリエンテーション、運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）	藤浪千種 乾友紀																																
第2回：運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）	氏原恵子																																
第3回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）	藤浪千種																																
第4回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）	藤浪千種																																
第5回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）	藤浪千種																																
第6回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）	氏原恵子																																
第7回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）	氏原恵子																																
第8回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）	氏原恵子																																
第9回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）	乾友紀																																
第10回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）	氏原恵子																																
第11回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）	氏原恵子																																
第12回：クリティカルケアとクリティカルケア看護	藤浪千種																																
第13回：クリティカルな状態にある患者の看護	藤浪千種 (寺田康祐)																																
第14回：手術を受ける患者の看護：事例展開①	藤浪千種																																
第15回：手術を受ける患者の看護：事例展開②、まとめ	藤浪千種																																

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。また、Web class を用いて、授業内の質問への対応や学生・教員間の情報共有・意見交換を行います。 ・Web class に第2回～第11回の『事前学修課題』が掲載されます。当該授業の内容は、事前学修課題の理解が前提となっていますので、事前課題に取り組んだうえで授業に参加して下さい。なお、事前学習課題は評価の一部となります。 ※Web class の事前学修課題は、当該授業が終了したら削除されます。 ・第14、15回は課題レポートを作成します。課題レポートは評価の一部となります。 ・授業に関する情報（講義資料等）はWeb class に適時に掲載します。
授業内の ICT 活用	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、定期試験 80%、事前学修課題 10%、課題レポート10%、合計100%で行います。 ・事前学修課題、課題レポートによる評価ではルーブリックは使いません。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する質問・意見には、授業内またはWeb class で回答します。 ・事前学修課題、課題レポートは採点后に返却をします。 ・定期試験後に、担当教員の研究室前で試験の解答を提示します。
指定図書	<p>1. 末岡 浩 他『成人看護学9 女性生殖器』医学書院 <※購入済みテキスト></p> <p>※2. 矢永 勝彦 他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院 ※3. 大東 貴志 他『成人看護学8 腎・泌尿器』医学書院 ※4. 松田 明子 他『成人看護学5 消化器』医学書院 ※5. 浅野 浩一郎 他『成人看護学2 呼吸器』医学書院 ※6. 織田 弘美 他『成人看護学10 運動器』医学書院 ※7. 黒江 ゆり子他『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院 ※8. 鎌倉 やよい他『周術期の臨床判断を磨く』医学書院</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で適時提示します。
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】(約20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業に該当する『事前学修課題』に取り組んだ上で授業に参加してください。 ・成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、健康障害論Ⅰ・Ⅱとの関連が強い科目です。これら授業の内容を再確認しておきましょう。 <p>【事後学修】(約20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の内容を再確認し理解が不十分な点を再学修してください。 ・各自の課題や興味関心に沿った学修も主体的に行いましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の中で説明される看護の基本的知識の復習には、ナーシングスキル等を活用して下さい (https://www.nursingskills.jp/, エルゼビアジャパン)。
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者(藤浪・氏原・乾)に質問や相談等がある際は、事前にG-mail でアポイントをとってください。 ○藤浪千種 chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) ○氏原恵子 keiko-u@seirei.ac.jp (1210 研究室) ○乾友紀 yuki-i@seirei.ac.jp (1218 研究室)
実務経験に 関する記述	<p>本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	成人看護援助論Ⅲ
科目責任者	大山 末美
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	慢性疾患を有する人と家族のセルフマネジメントを支援するための基盤となる理論・概念を活用した基本的な看護援助について学修する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患の治療により起こる日常生活上の変化について理解できる。 慢性疾患を有する人と家族へのセルフマネジメントを促進する援助と教育的支援の基本的な考え方と方法について理解できる。 慢性疾患を有する人に関わる専門職とチーム医療の重要性について理解できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <p>第 1 回：慢性疾患を有する人と家族の身体、心理、社会的特徴、看護の役割 大山末美</p> <p>第 2 回：慢性疾患を有する人と家族への支援に関する専門看護師の看護実践 宗像倫子 (ゲストスピーカー)</p> <p>第 3 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 脳卒中でリハビリテーションを必要とする人への 自己効力感を高める認定看護師の看護実践 鈴木千佳代 (ゲストスピーカー)</p> <p>第 4 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 内分泌機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 大山末美</p> <p>第 5 回・第 6 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 循環器障害、腎障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 兼子夏奈子</p> <p>第 7 回：＜進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 難病を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 本田彰子 (河野貴大)</p> <p>第 8 回：＜ターミナル期に至る慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 苦痛緩和、鎮静が必要な患者と家族への支援の実際 大山末美</p> <p>第 9 回：慢性疾患を有する人への心理的ケアの基本 大山末美</p> <p>第 10 回：近年の看護外来の実際 兼子夏奈子</p> <p>第 11 回：セルフマネジメント支援のための患者教育 大山末美</p> <p>第 12 回：協働学修 (アクティブラーニング) 慢性看護学教員</p> <p>第 13 回：協働学修 (アクティブラーニング) 慢性看護学教員</p> <p>第 14 回：プレゼンテーション) 慢性看護学教員</p> <p>第 15 回 課題レポートディスカッション) 慢性看護学教員</p> <p style="text-align: center;">*レポートテーマを3年生で共有し、実習への導入として活用する。</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、小グループでのディスカッション、協働学修および学修成果のプレゼンテーションを取り入れて行います。
授業内の ICT 活用	・学生同士が WEB 上でグループディスカッションおよびプロジェクターを利用したプレゼンテーションを行います。
評価方法	評価方法と割合は、定期試験 70 %，協働学修ピアレビュー15%，課題レポート 10%，リアクションペーパー5%の合計 100%となります。 協働学修，レポートはルーブリックを用いて評価を行います。
課題に対する フィード バック	定期試験の回答は、試験後に解答例を提示します。 リアクションペーパーへの回答は WEB CLASS を活用しフィードバックします。
指定図書	鈴木久美他：成人看護学 慢性期看護 南江堂（3年次に購入）
参考図書	健康障害論 I・IIでの使用テキスト（購入済み） 『成人看護学 2 呼吸器』『成人看護学 3 循環器』『成人看護学 4 血液・造血器』『成人看護学 4 内分泌・代謝』『成人看護学 5 消化器』『成人看護学 7 脳・神経』『成人看護学 8 腎・泌尿器』医学書院
事前・ 事後学修	・本講義で理解が必要な学修内容を授業前・後に WEBCLASS に提示しますので、回答または提出して下さい。1 講義につき事前事後学習 40 分以上必要です（1-11 回）。 ・12-13 回目および 14 回目のグループ学習には各自が決められた役割を果たし効果的に学修するために 60-100 分の学修時間が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により不在の可能性もあるため、事前に単元担当教員に E-mail でご連絡ください。 ・大山末美：看護学部 1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp ・本田彰子：看護学部 1217 研究室：akiko-h@seirei.ac.jp ・兼子夏奈子：看護学部 1216 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp （河野貴大：看護学部 1608 研究室：takahiro-k@seirei.ac.jp）
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人看護援助論演習
科目責任者	乾 友紀
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	専門基礎領域、看護専門領域における既習学修内容を活かし、看護過程演習を通して、健康障害をもつ成人に関する様々な情報を整理し、情報の解釈・分析・統合により看護診断を導き、看護問題の優先度を考えた看護計画の立案を学修する。また、看護技術演習を通して、健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるために必要な看護援助を安全に実施する方法を学修する。
到達目標	1. アセスメントに基づいて看護診断を導き、優先度を判断した看護計画を立案できる。 2. 成人看護学に必要な看護技術を医療安全の観点から理解し、実施できる。 3. 救命処置が必要な対象に対する基本的技術 (BLS) を理解し、実施できる。
授業計画	<p>《紙上事例を用いた看護過程演習》</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、看護過程とは、アセスメントとは 乾友紀</p> <p>第 2 回：看護問題の明確化 乾友紀</p> <p>第 3-4 回：協働学修によるアセスメント (関連図の作成と仮問題の確定) 成人看護学領域教員</p> <p>第 5-6 回：協働学修によるアセスメント (重点アセスメントの作成と看護問題の確定) 成人看護学領域教員</p> <p>第 7 回：看護計画の立案と評価 乾友紀</p> <p>第 8-9 回：協働学修による看護計画の立案 成人看護学領域教員</p> <p>《看護技術演習》</p> <p>第 10 回：ME 機器における基礎と管理 兼子夏奈子 (河野貴大)</p> <p>第 11 回：BLS 一次救命法と ACLS 二次救命法 村松武明 (聖隷三方原病院)</p> <p>第 12-13 回：看護技術演習 (ME 機器管理) 兼子夏奈子・氏原恵子 (河野貴大)</p> <p>第 14-15 回：看護技術演習 (BLS 一次救命法) 浜松市北消防署・乾友紀 (寺田康祐)</p> <p>※協働学修、看護技術演習はグループ別に進行するため、具体的なスケジュールは配布資料を確認して下さい。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 第1～9回の紙上事例を用いた看護過程演習は、IBL (Inquiry-Based Learning)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。 本授業における協働学修は各自に与えられた課題を十分に学修したうえで参加する必要があります。自分の役割に責任を持って参加してください。
授業内の ICT活用	協働学修では ICT 機器を利用して授業の発表や意見交換を行う双方向型授業を実施します。スマートフォンまたはタブレット端末を持参してください(お持ちでない場合は、乾まで連絡をしてください)。
評価方法	<p>協働学修への参加 15%、ミニテスト 15%、看護過程演習レポート 60%、看護技術演習レポート 10%、計 100%</p> <p>※看護過程演習はルーブリックを用いて評価します。</p> <p>※原則的に全出席とします。遅刻・欠席の場合は講義開始前に乾まで連絡してください。</p>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程レポートは、協働学修担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント等によりフィードバックを行います。 授業へ寄せられた質問は講義で解説を行うほか、適宜 Webclass やメールを用いて回答します。
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 加藤光實他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器, 医学書院 (購入済) 矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 (購入済) 鎌倉やよい, 深田順子：周術期の臨床判断を磨く, 医学書院 三上れつ：第2版実践に役立つ看護過程と看護診断, ヌヴェルヒカリ
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 (購入済) 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ヌヴェルヒカリ 奈良信雄他：系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院
事前・ 事後学修	<p>臨地看護学実習に向けて非常に重要な科目です。これまでに学修してきた知識、技術が基盤となります。第1～9回の紙上事例を用いた看護過程演習では、事前学修課題を提示します。事例を理解するための知識の学修(4～5時間程度)や2年生で学修した看護過程の復習(2～3時間程度)を、講義の進捗に合わせて計画的に取り組んでください。その他必要な事前課題は適宜アナウンスします。</p> <p>※事前学修、課された課題が不十分な場合は、協働学修・演習に参加できないことがあります。</p> <p>※事後学修として、成人看護学実習で必要な看護技術について成人看護実習室で自主練習に取り組むとともに、返却された課題レポートのコメントを確認し、自己の課題を明確にしたうえで秋semesterからの実習に臨みましょう。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	看護技術演習では、Nursing Skills https://www.nursingskills.jp/ 等を活用してください。
オフィス アワー	<p>実習で不在にしている場合が多いため、メールで事前に予約を入れてください。グループワーク担当教員への連絡方法については、講義の中でお知らせします。</p> <p>科目責任者：乾友紀 (1218 研究室)、メールアドレス：yuki-i@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	急性期看護学実習
科目責任者	氏原 恵子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	急性期（周術期）にある人とその家族の全体像を理解し、必要な看護実践を行うための知識・技術・態度を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある患者とその家族に関心を寄せ、適切な援助関係を築くことができる。 2. 周術期にある患者とその家族の特徴を理解し、看護過程を展開できる。 3. 周術期にある患者とその家族に対し、根拠に基づいた看護を実践できる。 4. 看護学生として責任ある態度で実習できる。(健康管理、礼儀、報告・連絡・相談、約束を守る)
授業計画	<p><担当教員名> 大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、氏原恵子、(寺田康祐) ほか</p> <p>実習期間：3週間 実習施設：聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の成人外科系病棟、手術室など 実習方法：手術を受ける患者を受け持ち患者と家族に対する術前、手術中（手術室）、術後の看護を実践する。</p> <p>詳細は『急性期看護学実習要項』『臨地看護学実習の手引き』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	・ルーブリックで評価します。 看護実践：70点　実習記録：10点　取り組み・参加態度・出欠席：10点 事前学修課題（ワークブック）：10点
課題に対するフィードバック	実習前学修、日々の計画、実践、記録、週毎の自己評価、自己学習、実習への取り組みに対し、話し合いやカンファレンスでのコメント、記録へのコメント等で個人およびグループに対して成果や課題等をフィードバックしていきます。
指定図書	林直子他「成人看護学概論」南江堂、矢永勝彦他『臨床外科看護総論』医学書院 「成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護援助論演習」で使用した教科書（「成人看護学2～10」「臨床検査」医学書院など）
参考図書	・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2016。 ・任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2015。 *その他：実習病棟ごとに随時提示します。
事前・事後学修	周術期患者の看護には、解剖学、生理学、健康障害論をはじめ成人看護学の授業で学んだすべての内容を活用する必要があります。1年次からの学修の振り返りと事前学習ワークブックで知識の確認をするとともに、患者ケアに必要な看護技術を再確認しておいてください。周術期患者の状態変化は非常に早いので事前準備の内容が実習成果に大きく影響します。 日々の実習では、経過記録と振り返り・まとめ、自身の課題の確認<約60分>、知識、技術の再確認、看護過程の展開、翌日の行動計画立案<約120分>など少なくとも毎日の3時間の自己学修を習慣にしてください。
オープンエデュケーションの活用	ナーシングスキルの動画を活用してください。 https://www.nursingskills.jp/ エルゼビアジャパン
オフィスアワー	実習や会議などで不在の場合があるので、メールで連絡して下さい。 科目責任者：氏原恵子 1210研究室 keiko-u@seirei.ac.jp 各実習担当者への連絡方法は、初日のオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	慢性看護学実習
科目責任者	大山 末美
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	慢性疾患を有する対象と家族を総合的に理解し、病をもって生活することに対する看護実践に必要な知識・技術・態度を演習、実習を行うことで学びます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患が患者と家族の生活に与える影響を、身体的、心理的、及び社会的側面から総合的に捉えることができる。 2. 慢性疾患の特徴を理解し、長期的視点で必要な看護を理解できる。 3. 病をもって生活する患者と家族の療養上の問題を抽出し、看護過程を展開できる。 4. 病をもって生活する患者と家族が、自立した生活を送るための支援を理解し、看護を実践できる。 5. 慢性疾患看護の看護実践を通して、病をもって生活することに対する看護者としての考えを深める。
授業計画	<p><担当教員名> : 本田彰子 (河野貴大), 兼子夏奈子, 大山末美 他</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習施設】 聖隷浜松病院, 聖隷三方原病院の成人内科系病棟</p> <p>【実習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を達成するために、本科目では、演習→実習→演習を行い学修します。 ・病棟実習では、慢性疾患を有する患者を受け持ち、患者・家族に対する看護を実践します。 <p>・実習における注意点、実習施設の所在地は「臨地看護実習の手引き」を、学修進度、詳細な実習方法、事前学修に関しては「慢性看護学実習要項」を熟読してください。</p> <p>・具体的な学修方法・内容・進度などは実習初日の学内オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。 (授業に関する情報は、WEB CLASS の慢性看護学実習に掲載しています)
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックで評価します。 対象理解：20%，看護問題の抽出と実践（倫理観含む）70%，レポート10% <ul style="list-style-type: none"> ・実習中盤，最終日にルーブリックを用いて学生個人と教員で形成的評価，総括的評価を面談を通して行います。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修課題については，9月の実習オリエンテーション（全体）時に提示します。 ・実習中の記録は担当教員が毎日確認し，看護実践場面，カンファレンス等も含めて，個人・グループに対して成果や課題をフィードバックします。 ・演習に関しては，メンバーとディスカッションすることで学びの共有を行うとともに，教員からフィードバックを行います。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 慢性期看護 南江堂（成人看護援助論Ⅲで購入済） ・成人看護学1 成人看護学総論，成人看護学2～8 医学書院 （「成人看護学概論，成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，成人看護援助論演習」「健康障害論」で購入済み）
参考図書	実習で学ぶ内容に応じて提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前学修課題を実習・演習前に取り組み，既習の知識を整理する。看護技術については安全で安楽な援助（フィジカルアセスメント含む）が提供できると確信できるまでセルフトレーニングを実施してください。 ・実習中の事前・事後学修は，その日の看護の振り返り，翌日のケアに対する目的，安全性・根拠に基づいた計画，指導者・教員から提示された学修，ケアを提供するためのアセスメントなどを行うため，180分/日程度の学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシングスキルを活用し安全で安楽な看護技術が実施できるようにセルフトレーニングを行ってください。
オフィス アワー	科目責任者：大山末美（看護学部）1213 研究室： suemi-o@seirei.ac.jp 各実習担当教員への連絡方法は，実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年看護援助論演習																															
科目責任者	松元 由香																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																															
DP 番号と科目領域	DP4 専門																															
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。																															
科目概要	老年期に多くみられる疾患と、高齢者の療養生活支援のための情報分析と具体的方法について学修する。事例を用いた生活機能の視点からの看護過程展開を通し老年看護を学修する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多くみられる疾患に関する基本的知識が理解できる。 2. 老年期に多くみられる疾患を抱える高齢者・家族を対象とした療養生活支援が理解できる。 3. 事例を用い看護過程を展開し、老年期の看護を表現できる。 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回：糖尿病</td> <td>日置先生</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：前立腺肥大、皮膚疾患</td> <td>日置先生</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：心疾患、肺炎、呼吸不全</td> <td>日置先生</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：認知症、脳血管疾患</td> <td>日置先生</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：骨折（骨粗鬆症を含む）</td> <td>日置先生</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：脳血管疾患：脳血管疾患の看護</td> <td>松元由香</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：呼吸器疾患：高齢者肺炎の看護</td> <td>松元由香</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：循環器疾患：心不全の看護</td> <td>松元由香</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：運動器疾患：骨折の看護（大腿骨頸部骨折を中心に）</td> <td>松元由香</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護</td> <td>野崎玲子</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：認知症の看護</td> <td>野崎玲子</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：認知症の看護</td> <td>野崎玲子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：事例演習（情報の解釈・分析）</td> <td>齋藤・野崎・松元</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：事例演習（課題の明確化と計画立案）</td> <td>齋藤・野崎・松元</td> </tr> </table>		第 1 回：糖尿病	日置先生	第 2 回：前立腺肥大、皮膚疾患	日置先生	第 3 回：心疾患、肺炎、呼吸不全	日置先生	第 4 回：認知症、脳血管疾患	日置先生	第 5 回：骨折（骨粗鬆症を含む）	日置先生	第 6 回：脳血管疾患：脳血管疾患の看護	松元由香	第 7 回：呼吸器疾患：高齢者肺炎の看護	松元由香	第 8 回：循環器疾患：心不全の看護	松元由香	第 9 回：運動器疾患：骨折の看護（大腿骨頸部骨折を中心に）	松元由香	第 10 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護	野崎玲子	第 11 回：認知症の看護	野崎玲子	第 12 回：認知症の看護	野崎玲子	第 13 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）	齋藤直志	第 14 回：事例演習（情報の解釈・分析）	齋藤・野崎・松元	第 15 回：事例演習（課題の明確化と計画立案）	齋藤・野崎・松元
第 1 回：糖尿病	日置先生																															
第 2 回：前立腺肥大、皮膚疾患	日置先生																															
第 3 回：心疾患、肺炎、呼吸不全	日置先生																															
第 4 回：認知症、脳血管疾患	日置先生																															
第 5 回：骨折（骨粗鬆症を含む）	日置先生																															
第 6 回：脳血管疾患：脳血管疾患の看護	松元由香																															
第 7 回：呼吸器疾患：高齢者肺炎の看護	松元由香																															
第 8 回：循環器疾患：心不全の看護	松元由香																															
第 9 回：運動器疾患：骨折の看護（大腿骨頸部骨折を中心に）	松元由香																															
第 10 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護	野崎玲子																															
第 11 回：認知症の看護	野崎玲子																															
第 12 回：認知症の看護	野崎玲子																															
第 13 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）	齋藤直志																															
第 14 回：事例演習（情報の解釈・分析）	齋藤・野崎・松元																															
第 15 回：事例演習（課題の明確化と計画立案）	齋藤・野崎・松元																															

アクティブ ラーニング	第13～15回の授業では、提示事例をもとに具体的生活場面を想像しながら、学生主体のディスカッションにより老年看護過程を展開します。
授業内の ICT活用	特になし
評価方法	提出物（看護過程）10%、定期試験結果90% 提出物（看護過程）の評価にルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	第6回以降の授業では事前課題を提示します。授業内でフィードバックしますが、その他に教員のオフィスアワーの時間を活用し研究室で皆さんの質問に応じます。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2018 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018
参考図書	「生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第3版」医学書院 2016 その他適宜紹介します。
事前・ 事後学修	第6～12回の授業の事前学習は授業担当教員が原則授業開始1週間前に提示します。 第13回授業内で、第14・15回の事前・事後学習について説明します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	オフィスアワーは初回授業で提示します 連絡先 松元由香 メールアドレス：yuka-m@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年看護学実習Ⅱ
科目責任者	野崎 玲子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	高齢者施設で生活する高齢者の援助の実践を通して、高齢者看護に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関心を持ち、適切なコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる。 2. 老化による身体的・心理的変化及び社会的役割の変化を理解することができる。 3. 疾病や障害を持ちつつ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。 4. 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。 5. 入居者を1名担当し、個別性の考慮・自立を目指した高齢者の生活支援を計画することができ、根拠に基づく適切な技術の実践及び評価ができる。 6. 高齢者と家族を
授業計画	<p>【担当教員名】 野崎玲子 齋藤直志 松元由香</p> <p>【実習期間】 臨地実習3週間 (実習前学内演習含む)</p> <p>【実習施設】 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護付き有料老人ホーム</p> <p>【実習方法】 実習初日 : 学内でのオリエンテーション 実習2日目: 演習 (高齢者疑似体験) 実習3日目: 施設内オリエンテーション・受け持ち対象者の決定・情報収集 実習4日目以降 高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開し、実践し評価する。 Shadow Nursing: 実習第2週目・半日。(午前または午後 施設で異なる)</p> <p>日程は祭日などで変更することがあります</p> <p>【記録・課題レポート】 実習前の事前学習レポート 実習前の学内演習レポート 実習中の看護実践・記録 (看護過程・日々の学びと振り返り) 実習後のレポート (老年看護学実習を通しての学びと課題)</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し 全体で意見交換を行います
授業内の ICT 活用	高齢者の疾患の特徴や看護について又はカンファレンスのテーマに関する必要な知識について、インターネットを利用して調べます。
評価方法	1. 目標達成度 90% 老年看護学実習Ⅱの実習評価参照（実習記録・実習態度含む） 2. 実習前学習 10% （事前学習課題レポート・演習及び演習レポート） 3. 実習のレポートに関してはルーブリックを用いない
課題に対する フィード バック	・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言、個別面談を行います ・実習終了後（記録提出時）に個別で面談しフィードバックを行います
指定図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院
参考図書	参考書等は、随時紹介します
事前・ 事後学修	事前課題は別紙配布し、実習オリエンテーションで説明します。 (約 320 分) 実習前学内演習は、高齢者体験装具を着用し疑似体験しその学びをレポートにまとめます。 (約 120 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	野崎玲子：看護学部 研究室：2704 研究室 e-mail: reiko-n@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があるので、領域の 初回オリエンテーション時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	母性看護援助論演習
科目責任者	黒野 智子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の母子の異常に陥るメカニズムとその母子および家族に対する看護について学修する。また、母子の正常からの逸脱を予防する具体的な看護の方法や母親および家族の意志決定を支える援助について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の異常と看護援助(正常からの逸脱を予防する援助を含む)について理解できる。 2. 母子の健康が、母親とそのパートナーの『親になること』に与える影響を考察できる。 3. 妊産婦に関わる看護師、助産師、保健師の役割および多職種との連携を含めた看護援助が理解できる。 4. 母性看護援助を系統的に行うために、看護過程を用いた看護の展開方法を理解できる。 5. 母性看護に特有な看護技術を習得し、対象にとって優しいケアとは何か、どのように実践に応用するかを考察できる。
授業計画	<p>第1回：母性看護援助論演習オリエンテーション 母性における看護過程～産褥1日目れいさんの場合～ 黒野智子、神崎江利子</p> <p>第2回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護(1) ハイリスク妊娠～妊娠高血圧症候群と関連する合併症～ 黒野智子</p> <p>第3回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護(2) ハイリスク妊娠～多胎と関連する合併症～ 黒野智子</p> <p>第4回：分娩期におこる危険な出来事とその看護 神崎江利子、黒野智子</p> <p>第5回：ハイリスク新生児～早産児の特徴～ 大木茂</p> <p>第6回：ハイリスク新生児とその家族の看護(1) ～母乳育児支援、Developmental Care、Family centered Care～ 室加千佳、黒野智子</p> <p>第7回：帝王切開および産褥期の辛い出来事と看護 黒野智子</p> <p>第8回：蔵井佳子さんの看護過程(演習①)</p> <p>第9回：母性看護の技 リラクゼーションの支援(演習②) 村松美恵</p> <p>第10回：早産児への優しいケア(演習③) 室加千佳</p> <p>第11回：退院後の生活をイメージする ～赤ちゃんのいる生活～開業助産師の話(演習④) ゲストスピーカー：濱角由美子</p> <p>第12回：周産期の異常 成瀬寛夫</p> <p>第13回：産褥期の異常 成瀬寛夫</p> <p>第14回：ハイリスク新生児とその家族の看護(2)～早産児の看護の特徴～ 室加千佳</p> <p>第15回：母性看護技術の実践への応用 母性看護援助論演習のまとめ 村松美恵、室加千佳、黒野智子</p> <p>※授業進度の順序は、変わることがある。 特に演習①、④は2グループ、②、③は4グループに分かれて実施するため、進度の順序が変わることがある。 詳細は、第1回オリエンテーションで説明する。</p>

アクティブラーニング	第9回は、妊産婦にとってリラクゼーションに繋がるケアについて学生同士で実践し、その効果について考察する。また、第10回は、早産児シミュレータおよび360度カメラ等を用い、早産児や新生児にとって「優しいケア」とは何かをグループ・ディスカッションを通して考え、発表する。その他、事前学修を元に、ディスカッションを通して、学生同士の学びを深める。
授業内のICT活用	教員が作成したDVDを視聴して、学修を深める。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（筆記試験）80%、事前・事後学修（課題レポート、ミニテストを含む）20% ・不可の場合は1回の再試験をおこなう。 ・課題レポートについては、ループリックを用いて評価をおこなうものもある。
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に答えるか、リアクションシートで質問に答える。また、リアクションシートの質問内容で多いものや大事だと思う内容については、次回の授業またはWebClass上で回答することもある。
指定図書	『系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院
参考図書	『病気がみえる vol.10 産科 第3版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第4版』仁志田博司、医学書院 ※その他の参図書については、随時、講義にてお知らせいたします。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClass上または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する。 ・事前課題の内容についてのミニテストを授業の開始後におこなうこともある。 ・事後学修は、授業の最後またはWebClass上で授業内容を問う回答期限付きミニテストまたは課題を提示する。 <p>※事前・事後学修は、それぞれ40分程度分程度の時間を要する。 ※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明する。</p>
オープンエデュケーションの活用	NHKハートネットテーマ別情報HP https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/ などで抗議に関係するテーマの情報を見ておくと良い。
オフィスアワー	看護学部 1709 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽にe-mail等で連絡ください。 黒野 智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp)、神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、 村松 美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、室加 千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp)
実務経験に関する記述	本科目は、「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点の踏まえて教授する科目です。

科目名	母性看護学実習
科目責任者	村松 美恵
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	妊婦（胎児を含む）・産婦・褥婦と夫（パートナー）、夫および家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護過程を用いて、親となって（あるいは新たな役割を引き受けて）新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。また、低出生体重児（何らかの疾患を持った児を含む）に接してその特徴を知り、児とその家族に対する看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）の特徴を理解できる。 2. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）、夫および家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護の展開ができる。 3. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）の理解に基づき、現在の健康状態を明らかにし、経過に適したニーズの特定、看護計画の立案、実施、評価することができる。 4. 妊産婦と胎児もしくは新生児（低出生体重児を含む）と夫、およびその家族の権利を擁護し、看護者としての倫理を実践できる。 5. 母性看護に特有な看護技術を適切に実践できる。 6. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）、夫および家族に必要な関係職種との専門性を生かした連携・協同、看護職に期待されている役割が理解できる。 7. 自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、看護の概念の理解を深めることができる。 8. 学生間でメンバー・リーダーの役割を担うだけでなく、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と責任が自覚できる。 9. 緊急時の看護職の果たす役割を理解できる。 10. 自己の健康管理を行い、看護専門職となるため自己を律して責任ある実習態度をとることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 村松美恵、黒野智子、神崎江利子、室加千佳、藤本栄子</p> <p>実習方法：実習場所は、聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の2つの施設と地域での子育て支援ひろば等を使用して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を1～2名の学生で、継続して受け持つ。 2. 産婦看護実習：選択実習で、事前に課題レポートを提出すること。WebClassで、選択の有無の調査および課題内容の提示を行う。帝王切開分娩を受け持つこともある。 3. 産婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に、看護者と関連職種との連携についても学習する。 4. 低出生体重児看護実習：聖隷浜松病院NICU・GCUにて、シャドウイング実習を行う。 5. ハイリスク妊産婦実習：聖隷浜松病院MFICUにて、シャドウイング実習を行う。 6. 妊産婦の栄養について具体的な献立・調理を通して、保健指導案を作成する。 7. 緊急時（災害も含む）における妊産婦への支援について考えることができる。 <p>※実習スケジュールの詳細は、WebClassに掲載された日程にg-mail配信します。また、実習に関する様々な情報は、WebClassまたはg-mailで配信しますので、必ず確認して下さい。</p>

アクティブ ラーニング	自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、学ぶ実習科目である。
授業内の ICT 活用	教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキストを使用します。
評価方法	実習姿勢・実習記録・レポートをもとに実習目標達成度についてルーブリック（自己評価表に記載された項目参照）を用いて評価する（100%）
課題に対する フィード バック	学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスや実習のまとめ、個別面談にてフィードバックする。
指定図書	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習（2・3年次）で使用した教科書
参考図書	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習（2・3年次）で提示した書籍 その他、実習中に随時紹介
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「母性看護学 学修ノート」、「母性看護実習 事前学習ワークブック」の設問は実習までに全て完成させておくこと。講義時の配布資料も活用すること。 ・母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備している。使用希望時間を予約表に記載し、使用手順をよく読み、実習前までに必ず練習すること。使用方法、後片付けの方法は、WebClass に掲示している。 ・実習期間中に各自 1 冊ずつ実習に関するファイルを貸し出す。また、事前に実習でどのようなことをするのか確認したい場合は、実習室の中で閲覧できます。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧めます。 NursingSkill www.nursingskills.jp MNN-009 産褥の退院指導
オフィス アワー	看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示する。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児看護援助論Ⅱ
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法が理解できる。 2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響が理解できる。 3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術が理解できる。 4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。
授業計画	<p>第1回： 腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第2回： 循環器に障害をもつ子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回： 悪性新生物の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第4回： 心身障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第5回： 障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第6回： 周手術期の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第7回： 検査・処置を受ける子どもの看護① 小出扶美子 (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第8回： 検査・処置を受ける子どもの看護② 小出扶美子 (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第9回： 小児の看護過程① (看護過程の基本と看護診断) 市江和子</p> <p>第10回： 小児の看護過程② 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第11回： 小児の看護過程③ 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第12回： 子どものフィジカル・アセスメント① 山本智子 (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第13回： 子どものフィジカル・アセスメント② 山本智子 (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第14回： 小児看護技術演習① (オリエンテーション) 宮谷 恵</p> <p>第15回： 小児看護技術演習② (実技演習) 宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p>

アクティブ ラーニング	第15回目に小児モデル人形・バイタルサインシミュレーターを用いた実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClassで返答する。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	筆記試験 95%、実技演習のルーブリック評価5%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	ワークシートへの回答は、授業時に提示する。
指定図書	市江和子編：『看護系標準教科書 小児看護学』、オーム社、2017 奈良間美保編：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②』、医学書院
参考図書	必要時に提示する。
事前・ 事後学修	事前学習としては、その日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノートが提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1コマあたりの時間の目安は事前学習20分、事後学習20分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、以下の視聴を勧めます。 朝日新聞記事データベース 聞蔵Ⅱ http://database.asahi.com/index.shtml (大学図書館ホームページより 学内閲覧可) 患者を生きる：慢性腎臓病、子に希望を
オフィス アワー	宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子：月曜日午後（1218 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児看護学実習
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	健康な乳幼児の保育活動に参加し、子どもとの関わり方や成長・発達に適した日常生活の援助の方法を学修する。病院や医療型障害児入所施設で健康を障害した子どもや発達に障害をもつ子どもを受け持ち、生命の尊厳と隣人愛を基盤として、看護過程を展開しながら子どもとその家族を総合的に理解し、子どもとその家族への看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども園実習 I <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴を理解するための観察の仕方を学ぶことができる。 2) 子どもとの関わり方を学ぶことができる。 2. こども園実習 II (保育園含む) <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当するクラスの小児の成長・発達の特徴について理解する。 2) 家庭・地域社会など小児をとりまく状況を理解する。 3) 担当するクラスの小児の成長発達に適した生活援助を実践することができる。 3. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち児の成長・発達の特徴について理解する。 2) 受け持ち児の現在の健康レベルについて理解する。 3) 受け持ち児の健康障害・発達障害
授業計画	<p><担当教員名>小出扶美子、宮谷 恵、市江和子、山本智子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習 I は、聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園、聖隷こども園わかば、和光こども園で行う。 ・こども園実習 II (保育園含む) は、浜松市内の聖隷こども園わかば、聖隷こども園桜ヶ丘、聖隷こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、ひばり保育園のうち、いずれか一ヶ所で行う。 ・病院実習は、聖隷浜松病院の小児病棟、聖隷三方原病院の小児病棟 (病棟の状況によって小児科外来または PICU の見学を含む)、聖隷浜松病院小児科外来、聖隷おおぞら療育センター (医療型障害児入所施設) のうち、いずれか一ヶ所で行う。 2. 実習期間：臨地実習は2週間行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学内実習日 (実習オリエンテーション、記録の整理等) 2日間 ・こども園実習 I 1日間 ・こども園実習 II (保育園含む) 2日間 ・病院実習 5日間 3. 実習計画 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習 I は、小児看護学実習の導入実習である。こども園実習 II (保育園含む) と病院実習に先行した時期の10月から11月、2月から3月のいずれかで行う。 ・こども園実習 II (保育園含む) と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。 4. 実習内容 <p>それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、実習記録 E-2 (自己学習)、E-3 (受け持ち患児の観察項目・内容) を学修する。
評価方法	実習記録や実習に取り組む姿勢から各実習目標の達成度を実習評価表の評価基準にそって評価をする。こども園実習Ⅱはルーブリックを用いて評価を行う。
課題に対する フィード バック	事前学習課題及び実習中の課題はその都度確認し、個々にフィードバックを行う。
指定図書	なし。
参考図書	実習中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	WebClass 内にある小児看護学実習のこども園実習Ⅰ・Ⅱ事前学習課題と小児看護学実習事前学習課題を行い、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。 実習中の学修は教員の指示に沿って、実習記録を進めていく。 実習用事前学習課題は 4 時間程度、実習中の日々の事前学習 1 時間、事後学習(実習の振り返り、看護過程の展開)は 1~2 時間程度とする。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	小出扶美子：月曜日午後 (2713 研究室) fumiko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後 (1713 研究室) megumi-m@seirei.ac.jp 市江 和子：金曜日午前 (1712 研究室) kazuko-i@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後 (1218 研究室) tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神看護援助論Ⅱ	
科目責任者	式守 晴子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について整理し、理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療の歴史および関連法規が説明でき、臨床の場での活用方法を学ぶ。 2. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明でき、対象の課題を理解できる。 3. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。 4. 精神疾患により入院治療中の対象者を理解し、看護過程の展開方法を説明できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校） <式守></p> <p>第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者） <式守></p> <p>第3回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺） <式守></p> <p>第4回：精神保健関連法規・地域精神保健活動Ⅰ（退院支援他） <式守></p> <p>第5回：地域精神保健活動Ⅱ（就労支援など地域の資源） <式守></p> <p>第6回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限） <清水></p> <p>第7回：精神看護における看護診断・看護計画の立て方 <式守></p> <p>第8回：精神看護におけるアセスメント技法 <入江></p> <p>第9回：精神看護過程の展開と患者・看護師の関係（プロセスレコード） <式守></p> <p>第10回：精神看護における全人的理解のための試み <入江></p> <p>第11回：精神看護実習における情報の整理と活用 <清水></p> <p>第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習） <清水></p> <p>第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法） <清水></p> <p>第14回：プロセスレコード・看護過程の評価（実習にむけて） <式守></p> <p>第15回：まとめ <式守></p>	

アクティブラーニング	地域精神保健活動における課題、プロセスレコードなどグループワークで課題をまとめ発表します。学生と質疑応答しながら講義を進めるため、事前学習・事後学習の課題を出します。
授業内のICT活用	地域精神保健活動における課題ではICTを使います。事前に必要なICTを伝えます。
評価方法	定期試験 80% レポート・小テスト 20%を基本としますが、授業時の演習への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価します。 ルーブリックは用いません。
課題に対するフィードバック	演習及び課題レポートについては、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	川野雅資：精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版、Nouvelle HIROKAWA, 川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」（改定第4版）上島国利・立山萬里・三村将. 南江堂（2017）
参考図書	中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第2版（2004） 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
事前・事後学修	事前学習：各回に事前学習として教科書で読んでおく箇所を指定します。第2回、第4回は小テストをします。事後学習は第7回（グループワークの担当箇所および、地域特性と社会資源に関する課題）、第9回プロセスレコードに課題レポートを提出します。 なお、他の教員の事前課題、事後課題などは別途お伝えします。
オープンエデュケーションの活用	活用しません。
オフィスアワー	式守は看護学部の所属（3411 研究室 haruko-s@seirei.ac.jp ）です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。
実務経験に関する記述	本科目は精神科看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神看護学実習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライアント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。 2. 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。 3. 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象者に対応した援助計画を立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。 4. 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力動に留意しながら看護計画に基づいた日常生活の援助を実施することができる。 5. 得られた結果から看護の評価、修正を行うことができる。ISOAP で看護過程を記載することにより、柔軟に情報の補充・修正、看護計画の修正を行うことができる。 6. 治療的環境としての自己活用ができる。ペプロウの理論を参照しながら、出会いから別れまでを丁寧に営み、治療的な対人関係の基本を体験学習するとともに治療的環境としての看護師のあり方を下記を通じ学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の内面にある偏見や価値観との葛藤を、学生のカンファレンスや教員との面接で言語化することができる。 2) 必要時、プロセスレコードを利用し治療的態度や距離を吟味しながら、対象者へ看護を行うことができる。 7. 記録の記述、整理および活用ができる。 8. 対象者の体験、語りを尊重した対人理解ができる。
授業計画	<p>担当教員／清水隆裕、式守晴子、入江拓、小平朋江</p> <p>実習場所は聖隷三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6病棟)、精神科身体合併症閉鎖病棟(C5病棟)朝山病院一般病床閉鎖病棟(3病棟)、精神一般病床準開放病棟(4病棟)精神一般病床閉鎖病棟(5病棟)の5箇所のうち1箇所にて2週間おこなう。詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など) 実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア) 実習記録 20% (提出期限や内容)
課題に対する フィード バック	日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション
指定図書	精神看護学概論・精神看護援助論Ⅰ・精神看護援助論Ⅱで使用した教科書。
参考図書	実習の進行状況に合わせて、随時連絡します。
事前・ 事後学修	授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	在宅看護学概論	
科目責任者	酒井 昌子	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 5セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	在宅看護を必要とする社会的背景のを踏まえ、在宅看護の基本理念や目的、対象や活動の特徴、さらに在宅看護を支える法制度について学びます。また、在宅看護の対象である家族について基本的な理論と支援方法を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護を必要とする背景を理解し在宅看護の目的、特徴を説明できる 2. 在宅看護の対象者の特徴について概説することができる 3. 在宅看護を支える法制度や訪問看護の制度と機能の概要を説明できる 4. 在宅療養支援の基本となるケアマネジメントや連携について理解し説明できる 5. 基本的な家族看護論を学び家族アセスメントの視点を説明することができる 	
授業計画	<p>第1回：在宅看護が必要となる背景 ・人口構造の動向、・健康に関する動向 ・在宅ケア推進の必要性</p> <p>第2回：在宅看護の目的と特徴 ・在宅看護の目的と位置づけ、・在宅看護の機能と提供機関 ・在宅看護の基本理念（エンパメント、エンドオブライフ EOL・ヘルスプロモーション）</p> <p>第3回：在宅看護の対象者の特徴 ・年齢・疾患・障害から対象者の特徴、・在宅療養状態別にみた対象者の特徴 ・対象を理解するためのモデル（ICF）</p> <p>第4回：在宅看護を支える法制度 ・医療制度、介護保険制度、 ・障害者支援に関する制度、高齢者虐待防止に関する制度</p> <p>第5回：訪問看護の制度と機能 ・訪問看護に関する制度（医療保険、介護保険、精神科訪問看護、公費負担制度） ・訪問看護ステーションの設置基準と現状</p> <p>第6回：家族看護論① 家族を支援するための理論（家族発達、家族システム）</p> <p>第7回：家族看護論② 家族を支援するための理論（家族ストレス対処）</p> <p>第8回：家族看護論③ 家族アセスメントと家族支援のための要点</p> <p>第9回：在宅療養の支援（1） ・在宅ケアにおける社会資源 ・ケアマネジメントの定義と目的及びその展開 ・チームケアと多職種連携</p> <p>第10回：訪問看護ステーションにおける在宅看護の実際</p> <p>第11回：在宅療養の支援（2） 意思決定支援 ・意思決定支援と論理的課題 ・アドバンスケアプランニング（ACP）</p> <p>第12回：在宅療養の支援（3） 在宅看護におけるリスクマネジメント ・リスクマネジメントの概念とアクシデント防止対策 ・災害時の在宅看護</p> <p>第13回：継続看護のための入退院支援 ・退院支援とは ・退院支援の方法と看護の役割</p> <p>第14回：地域包括ケアシステムと看護の役割 ・地域包括ケアシステムの機能と構成 ・地域包括支援センターの機能 ・地域包括ケアシステムづくり</p> <p>第15回：在宅看護のまとめ</p>	<p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>酒井昌子</p> <p>訪問看護 ST 所長</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>聖隷三方原病院 大木純子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッションを取り入れていきます。
授業内の ICT 活用	IC 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 70%、レポート 10%、小テスト 10%、課題提出（リアクションペーパー） 10%、 計 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示、小テストの解説、リアクションペーパーのコメントや、講義の進行 に合わせたワークブックの返却によってフィードバックします。
指定図書	河原加代子著者代表（2019）. 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第 6 版、医学書院
参考図書	国民衛生の動向 2019 平成 30 年度看護白書、その他、授業中に随時提示します
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（2～5 回、） ・9 回、12 回の授業後に WebClass 内の小テストに回答すること ・レポート課題「在宅療養生活を継続させるために必要な看護は何か、あなたが一番理解した こと」を作成する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動することが多く なるのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 酒井 昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp 小池 武嗣（1214 研究室） takeshi-k@seirei.ac.jp 山村江美子（3412 研究室） emiko-y@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅看護、臨床看護（成人・高齢者）」の実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。

科目名	在宅看護援助論	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 5セメスター	
DP番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	在宅という生活の場において実践される在宅看護の特性を理解するために、在宅看護の知識および具体的な訪問看護技術を学び、事例演習を通して在宅看護過程の展開を理解する。在宅看護の対象である、療養者と家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を理解し、説明することができる。 2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し、説明することができる。 3. 療養者・家族の健康段階に合わせた看護職の支援のあり方と役割について理解し説明できる。 4. 終末期にある療養者と看取る家族の体験を理解し、看護援助方法について説明できる。 5. 事例演習を通して、根拠に基づいた在宅看護過程の展開を理解し、その学びを説明できる。 	
授業計画	<p>第1回：在宅看護過程の展開 ・展開方法 情報収集の項目・アセスメントの側面・目標計画立案展開のポイント ・展開の時期別の特徴（移行期、導入期、安定期、終末期）</p> <p>第2回：在宅における高齢者の日常生活援助① ・脳梗塞後遺症療養者と家族 ・生活行為のアセスメントと支援 ・介護体制、介護者への支援と指導</p> <p>第3回：在宅における高齢者の日常生活援助② ・独居高齢者、認知症高齢者とその家族 ・療養者の心理と行動を理解 ・療養者の日常生活への支援のあり方 ・地域で安全に生活を継続するための方法 ・家族への援助</p> <p>第4回：在宅リハビリテーション ・目的、基本的な考え方 ・具体的な支援（移動動作の援助、移動補助用具の種類と選択方法、チームケア）</p> <p>第5回：在宅における医療ケア 在宅看護技術 ・在宅中心静脈栄養法 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸療法 ・医療事故防止、感染予防 ・基本的な訪問技術</p> <p>第6回：在宅における難病療養者への支援（ALS療養者とその家族の事例） ・難病療養者の訪問看護に必要なアセスメントの視点 ・医療依存度が高い療養者への支援、家族への支援 ・災害時の対応 人工呼吸器装着療養者</p> <p>第7回：在宅における終末期看護の展開 ・在宅医療、ターミナルケア、疼痛コントロール、在宅での看取りの看護</p> <p>第8回：在宅における小児看護の実際</p> <p>第9回：事例演習オリエンテーション ・5～6人のグループ編成 グループ学習開始</p> <p>第10～11回：事例演習 ①グループワークによる事例分析 ・事例のアセスメント 情報を4つの側面の視点で分析</p>	<p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>竹田拓未</p> <p>小池 武嗣</p> <p>山村江美子</p> <p>木村幸子</p> <p>宮谷 恵</p> <p>小池 武嗣</p> <p>小池・山村・酒井</p>

	<p>・家族構成図作成 ・関連図の作成により全体像の把握</p> <p>第12～13回：事例演習 ②グループワークによる事例展開 小池・山村・酒井</p> <p>・療養者、家族の意思を尊重した看護計画の立案</p> <p>第14回：事例演習 ③グループワークによる事例展開まとめ 小池・山村・酒井</p> <p>・計画した看護計画を掲示して、グループ間で協議</p> <p>・事例演習を通してのグループでの学び、個人の学びを記述</p> <p>第15回：事例演習講評 在宅看護援助論まとめ 山村江美子</p> <p>・事例に対する在宅看護過程展開の視点 ・生活の場での看護実践について</p>
アクティブラーニング	<p>第9回～第13回は、事例による看護過程の展開を、5～6人編成のグループ学修として取り組みます。ジェノグラムの作成、事例のアセスメント、関連図作成、看護計画の作成を行います。第14回では、看護計画をグループごとにポスター掲示を行い、グループ間での討議を行います。</p>
授業内のICT活用	なし
評価方法	<p>◆定期試験 70%</p> <p>◆事例演習 30% (第9回～第14回) :</p> <p>(事前事後学修 10%、グループワーク取り組み 10%、課題提出 10%)</p> <p>事例演習のレポートの評価は、ルーブリックを用いて評価を行います。</p> <p>ルーブリックの内容は、演習オリエンテーションで提示します。</p>
課題に対するフィードバック	<p>第1回～第8回の事前事後学修およびリアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。第9回～第14回については、担当教員がグループ活動を支援しますので、その場で質問をしてください。</p>
指定図書	河原加代子著者代表 (2017). 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第5版、医学書院
参考図書	授業中に随時提示します。
事前・事後学修	<p>第2回、3回、6回は、講義の事前学修項目をWebClasに掲載します。あらかじめ事前学修を行い講義に臨んで下さい。第9回～第14回は、グループワークに臨むため、WebClassに個人事前事後学修項目を掲載します。事前事後学修を行い、積極的にグループワークに参加しましょう (事前・事後学修 40分程度になります)。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は在宅看護学実習指導のため実習施設へ移動することが多くあります。</p> <p>メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。</p> <p>山村江美子 (3412 研究室) emiko-y@seirei.ac.jp 酒井昌子 (3410 研究室) masako-s@seirei.ac.jp 小池武嗣 (1214 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	在宅看護学実習
科目責任者	山村 江美子
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種連携・協働を学ぶ実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉え理解する。 2. 療養者・家族の療養生活のアセスメントを行い、課題解決に向けての援助方法を理解する。 3. 訪問看護の実際を学び、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種の連携の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について理解する。 5. 看護学生としての礼節を重んじ専門職種としての態度・姿勢・行動を行うことができる。
授業計画	<p>担当教員名：山村江美子 酒井昌子 豊島由樹子 小池武嗣</p> <p>実習期間：2 週間 実習施設：訪問看護ステーション住吉、住吉第2、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原坂の上訪問看護ステーションあずきもち 聖隷ケアプランセンター和、浜松、いなさ、いなさ南部、浜北、細江、三方原坂の上在宅医療支援医院</p> <p>実習方法：実習時間は8:30～16:45 である。 現地実習 6 日間（1 日約 2 件 スタッフとともに同行訪問を行う）</p> <p>学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問場面のロールプレイを通して、訪問看護の実際を体験する。 療養者・家族の思いを体験し対象の理解を深め、看護実践の援助内容を考察する。 ・訪問宅 1 件を選択し関連図の作成、在宅看護計画の立案 <p>カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニカンファレンス毎日 16:15～16:45（現地にて学生間） ・最終カンファレンス（現地指導者、学生、教員） ・学内のまとめ（最終日 9:00～12:00 学びの共有） <p>課題レポート 2 週間の実習を通し、2 点について論じる（1200 文字以上 A4 用紙 2 枚まで）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の対象である療養者とその家族に対する理解 ②「生活の場」における看護実践の特性と看護師の専門性

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習目標の達成度 20% 日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 60% 実習に取り組む姿勢や態度、記録物提出の状況 20%
課題に対する フィード バック	「毎日の記録」2枚は、担当教員に提出しフィードバックを受けた後、同行訪問スタッフに提出しコメント欄の記載によってフィードバックを受ける。関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の個人指導によりフィードバックを受けて提出用に完成をさせる。
指定図書	河原加代子（著者代表、2017）：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論第5版 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	学年全体実習オリエンテーション時に、実習を履修するにあたっての事前課題を提示します。実習記録の「学習記録用紙」に事前課題をまとめ、実習中に資料として活用します。毎日毎回違うお宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となります。疾患や内服薬の学修、利用している社会サービスなどです。毎日の事後学修も、「学習記録用紙」に記述します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：山村江美子（3412 研究室）emiko-y@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をいただければこちらから返信いたします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護倫理	
科目責任者	大石 ふみ子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP6 専門	
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。	
科目概要	生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。 2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。 3. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。 4. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。 5. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。 	
授業計画	<p>第1回 看護倫理と倫理の基本原則</p> <p>看護倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護と倫理 ・看護専門職と職業倫理（日本看護協会倫理綱領） <p>生命倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理の研究領域 <p>倫理上の基本原則</p> <p>看護における倫理的問題・ジレンマ</p> <p>第2回 倫理的意思決定のプロセス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的判断のよりどころ 2. 倫理的意思決定のプロセス 3. 看護師の倫理的責務 <p>第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念とその移り変わり</p> <p>患者の権利に関するリスボン宣言</p> <p>倫理に関する基本概念</p> <p>アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持</p> <p>第4回 母性看護における倫理的課題</p> <p>第6回 小児看護における倫理的課題</p> <p>第5回 精神看護における倫理的課題</p> <p>第7回 老年看護における倫理的課題</p> <p>第8回 成人看護における倫理的課題</p>	<p>大石 ふみ子</p> <p>大石 ふみ子</p> <p>大石 ふみ子</p> <p>藤本 栄子</p> <p>市江 和子</p> <p>入江 拓</p> <p>齋藤 直志</p> <p>大石 ふみ子</p>

アクティブ ラーニング	事例の活用、授業内での演習、webclass 等による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	最終課題レポート 40%、毎回のレポート 60% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、Moodle を用いて回答し、共有する。
指定図書	なし
参考図書	日本看護協会監修(2013). 新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会. 他、授業中に随時連絡します。
事前・ 事後学修	webclass または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する (事前・事後学修 40 分程度)。最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。また、授業終了時のレポートにおいて看護倫理について考えを深めて提出する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 大石ふみ子(1219)研究室: fumiko-o@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00~13:00 藤本栄子 (1714 研究室: eiko-f@seirei.ac.jp)、入江拓(3403 研究室: taku-i@seirei.ac.jp)、 市江和子(1712 研究室: kazuko-i@seirei.ac.jp)、 斎藤直志(1614 研究室: tadashi-s@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護管理論
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	看護の対象者となる人々に、有限な資源を有効に活用して最善で良質な看護を提供するための「しくみ」について学び、その内容や方法について理解を深める。看護師としてのメンバーシップとリーダーシップを理解するとともに、看護をマネジメントできる基礎能力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職が提供するサービスの特徴を理解する。 2. リーダーシップとマネジメントが管理に重要な基礎であることを理解する。 3. 組織について基礎的な知識を理解する。 4. 看護管理の思考プロセスの基礎となる看護管理プロセスの一連の流れについて理解する。 5. 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解する。 6. 看護における人的資源管理の基礎について理解する。 7. 社会人になって組織の一員として、自覚と責任ある行動をとり、自らの役割を果たす重要性を理解する。 8. 看護の質向上に向けて看護師として専門を発揮させていく重要性を理解する。 9. 看護管理におけるリーダー像を理解する。
授業計画	<p>第 1 回： 看護サービス管理</p> <p>第 2 回： 看護組織と管理</p> <p>第 3 回： 看護管理プロセス</p> <p>第 4 回： 看護のリスクマネジメント <特別講師 鎌田裕子></p> <p>第 5 回： 人的資源管理</p> <p>第 6 回： 自己管理、アウトカムマネジメント</p> <p>第 7 回： 看護管理の展望</p> <p>第 8 回： フォーラム 「看護管理論で学びを踏まえた看護実践への抱負」</p>

アクティブラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
授業内のICT活用	
評価方法	授業への取り組み50%、課題レポート50%
課題に対するフィードバック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 手島恵 藤本幸三編集：看護学テキストNICE 看護管理学、南江堂、2019.
参考図書	なし
事前・事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00 から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「保健師・助産師・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	災害看護論
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	災害看護とは、災害が人々のいのち・健康と生活に及ぼす影響を可能な限り少なくする看護活動である。具体的には平常時の減災・予防活動、発災時の緊急対応、さらに発災後の復旧復興における中・長期活動等である。高齢化社会の今、各々の「時間軸」および「場」における看護活動は益々、期待されている。授業では看護活動の特性に焦点をあて、災害看護の基礎知識と技術および多職種との連携・協働について具体的に理解し学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の歴史の変遷および災害・災害看護の定義を理解し、災害の種類による健康問題の特性を理解できる。 2. 災害各期（準備期・発災時・発災後急性期・復旧復興・長期）における看護活動について理解できる。 3. 災害時における「場」における看護の特徴 避難所・救護所・仮設住宅等での看護活動や要配慮者に対する支援について理解できる。 4. 災害時における被災者および救援者の心身の反応を理解し、健康管理およびケアを深める。 5. 災害対応に関する法的側面および行政の役割について理解できる。 6. 災害時における地域の対応のシステム・要配慮者の理解と対応の実際を理解できる。
授業計画	<p>科目担当教員 白井千津、若杉早苗、小池武嗣</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・災害看護概論・災害の歴史的概観 白井 災害・災害看護の定義・災害看護の特性・災害の種類と健康問題・対応システム</p> <p>第 2 回：災害各期（準備期・発災時・急性期・慢性期・中・長期的）における活動 白井</p> <p>第 3 回：災害時における「場」における看護の特徴：現場・救護所・病院・避難所・福祉避難所・施設他 白井</p> <p>第 4 回：災害時における被災者および救援者の心身の反応の理解と健康管理の実際 予防から以後のケア。 減災・災害への備えに関する課題の検討 白井</p> <p>第 5 回：災害医療に関する国の政策と法律・活動根拠・国・都道府県町村の取り組みと現行の課題 若杉</p> <p>第 6 回：災害時における看護職（保健師・看護師等）の取り組み 若杉</p> <p>第 7 回：災害時の緊急支援活動／災害時に必要な基本的看護技術 小池</p> <p>第 8 回：災害時の緊急支援活動／災害対策および災害時の多職種連携 小池</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	試験(臼井分)50%、レポート 50% (災害時の保健師活動、災害時の緊急支援活動) 合計 100% 遅刻欠席は総合点から減点します。事前学習課題は評価に含むが、ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	事前学習課題については、課題提出週の授業内に解説する。
指定図書	酒井明子 長田恵子 三澤寿美(編) ,看護の統合と実践(3) 災害看護 第4版 メディカ出版 2017年
参考図書	授業時適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学習 授業内容と密接に関連する下記の項目について、授業進度に応じて学習してきてください。 ①災害に関する法律 ②災害サイクルとは ③CSCATT について ④災害時要配慮者について ⑤救護所・避難所・福祉避難所について ⑥ASD・PTSD・サバイバーズギルトについて ⑦災害に関連する感染症について ⑧災害時の多職種連携について 事後学習 授業終了時に、授業内容に応じた確認用のチェック問題を提示する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業終了後、臼井講師は非常勤講師控室にて 30 分待機しています。可能な限り、あらかじめメ ールにて面談の予約をお願いします。(usui-kobe-1951@docomo.ne.jp) 若杉 : sanae-w@seirei.ac.jp 小池 : takeshi-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師及び看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目 です。

科目名	高度実践看護論	
科目責任者	大山 末美	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP6 専門	
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。	
科目概要	様々な病期・病態の患者に対する卓越した看護実践に触れ、療養生活を送る人とその家族への理解を深め、人々を看護するために必要な関連職種との連携および看護専門職業人としての役割について学び、総合的学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療段階にある人、慢性的な健康障害を持つ人、終末期にある人とその家族の体験について説明できる。 2. 様々な病期・病態の人に対する看護の役割と、多職種との連携に基づく看護援助について説明できる。 3. 病とともに生活する人に必要なシステムや資源を活用した看護援助について説明できる。 4. 看護専門職人として自らの専門性を深めるための主体的・継続的な研鑽の見通しについて説明できる。 	
授業計画	<p><授業内容></p> <p>第1回：がん患者・家族を取り巻く現状と看護の基本 大山末美</p> <p>第2回：全人的アプローチと看護の実践 吉川陽子</p> <p>第3回：機能障害のある患者の急性期から在宅療養の関わりに携わる看護師の役割と実践 鈴木千佳代</p> <p>第4回：現場で活かす専門職になるための臨床経験からの学び方 本田彰子</p> <p>第5回：地域・在宅医療との連携に携わる看護師の役割と実践 宗像倫子</p> <p>第6回：終末期にある患者とその家族への看護 大石ふみ子</p> <p>第7回：がん集学的治療を受ける患者の看護 加藤亜沙代</p> <p>第8回：がん看護・慢性疾患看護における今後の課題 大石ふみ子、本田彰子、大山末美</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の看護のトピックス ・社会における専門職として看護職の取り組み ・看護に関連する情報源とその活用方法 	

アクティブラーニング	特定の専門分野において、認定看護師、専門看護師として最先端で活躍している講師を迎え、具体的な事例、実践についてご講義いただき、それに基づいて思考を深めます。
授業内のICT活用	リアクションペーパーはWEB上へ記載して提出してもらいます。
評価方法	授業中の提出物（リアクションペーパー）40%・課題レポート 60%、計100% ※評価にはルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、課題・提出物へのコメントの記載やWeb Class へのコメントの掲載、課題とその成果に対するフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	矢永 勝彦他：『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（健康障害論 I で購入済み） 小松 浩子他：『がん看護学』医学書院 鈴木志津枝他：『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』ヌーヴェルヒロカワ 鈴木 久美他：『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人々を支える』南江堂
事前・事後学修	・授業に先立ち、授業内容にかかわる基礎的知識の復習のために、各授業時間で取扱う領域の説明、予習内容について説明します。1回の講義に40分程度事前学修が必要です。 ・テーマを指定した課題レポートを課します。文献の活用を行い、学習を深めてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：大山末美（看護学部）1213 研究室 メールアドレス：suemi-o@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に水曜日Ⅲ限目としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールでご連絡ください。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師、認定看護師または専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護研究 I
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する看護研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を育成する。調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解するとともに、研究過程の概要を理解する。また、看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方、自分の設定した研究に適した研究方法について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解する。 2. 文献整理の方法を理解する。 3. 研究過程の概要（研究課題の明確化、研究計画の立案、データの収集・分析）理解する。 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解する。 5. 自分の設定した研究に適した研究方法を理解する。
授業計画	<p style="text-align: center;">担当：檜原理恵、佐久間佐織、宮谷恵</p> <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <p>第1回：看護における研究 檜原、佐久間、宮谷</p> <p>第2回：リサーチクエスチョンから研究課題へ 檜原</p> <p>第3回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方 檜原、佐久間、宮谷 課題：図書館を探索する *数グループに分かれる</p> <p>第4回：研究論文の読み方 檜原</p> <p>第5回：医学中央雑誌による文献検索 檜原、佐久間、宮谷 研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す</p> <p>第6回：看護研究における倫理 佐久間</p> <p>第7回：研究デザイン 檜原</p> <p>第8回：量的研究デザイン 檜原</p> <p>第9回：質的研究デザイン 宮谷</p> <p>第10回：文献の整理 –文献クリティーク 檜原</p> <p>第11回：テーマを決めて研究論文を探す 檜原、佐久間、宮谷</p> <p>第12回：クリティークした文献をまとめる 檜原、佐久間、宮谷</p> <p>第13・14回：クリティークした研究論文を発表する 檜原、佐久間、谷</p> <p>第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 檜原、佐久間、宮谷</p> <p>*詳細は第1回目に伝えます</p>

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。自分のテーマに合致する文献についてグループワークを行い、グループで成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	グループワークの発表は ppt を使用します
評価方法	授業中の提出物 40%、グループワークへの参加度 10%、課題レポート 50%、 提出物、課題レポートで評価するがルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	授業中の提出物について、次回の授業中に全体へのフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2016). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院
参考図書	南裕子編(2016). 看護における研究、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web
オフィス アワー	榎原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp (月：終日、水：午後、事前に連絡をいただければ調整します)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護研究Ⅱ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1単位(30時間) 選択 7・8セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を身につける。選択した看護学領域において、これまでの学修のなかで関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討し、研究課題を明確にし、現実的・具体的な研究計画書を作成する。
到達目標	1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探することができる。 関心を持った事象について、先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。 研究課題を明らかにするための研究計画書を作成することができる。
授業計画	<p>担当教員：檜原理恵、看護学領域教員</p> <p>これまでの看護学の学修において、関心をもった事柄やアイデアに関して、系統的で理論的な思考により、問題としてのように明確化する過程を学ぶ。 さらに、明確化された問題、研究課題についてどのような方法で明らかにするのか、目的と方法を学修する。</p> <p>4～7月 選択した研究領域において、これまで学習した看護学のなかで関心をもった事柄について、研究課題を明確化する。 必要時、関心のある対象やフィールドに関する情報収集、および研究課題に関する基礎的な学習を行う。</p> <p>7～11月 研究課題に関連した先行研究や関連文献を幅広く検索して文献検討を行い、研究課題の明確化のプロセスや研究の意義を記述することができる。</p> <p>11月第一週の金曜日 課題レポートの提出</p>

アクティブ ラーニング	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行い、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	文献検索でリポジトリ等を活用します
評価方法	看護研究への取り組み 20%、文献学習 40%、課題レポート 40%
課題に対する フィード バック	各領域で、ゼミ等により研究課題の進捗状況に合わせ担当教員からフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2016). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院
参考図書	南裕子編(2016). 看護における研究、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関し、文献を探しまとめたもの等をもとに、教員と学修を進めていきます。そのため、事前・事後学修については、担当教員と話し合いの上、行ってください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web
オフィス アワー	檜原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp (月：終日、水：午後、事前に連絡をいただければ調整します)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師・」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	統合演習
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	多様な看護の場面において看護師が対象に的確な看護ケアを遂行するためには、対象が訴える症状や身体所見に基づいた臨床推論能力が求められる。本科目では、多様な看護場面において重要な病態の変化を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることを目指して、これまでの学修を統合し、設定した場面の状況に適切な看護援助を実践するための身体面に関する情報収集と所見を解釈する視点を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状を呈する事例に必要な情報を挙げるができる。 2. 事例に必要な医療面接、フィジカルアセスメントを実施できる。 3. 医療面接・フィジカルアセスメント、臨床検査から得られたデータを整理し、事例の問題点を抽出できる。 4. 身体面に関する情報収集、アセスメントから、状況に応じた看護援助を判断することができる。 5. 場面の状況に応じた看護援助を実施することができる。
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、炭谷正太郎、檜原理恵、柴田めぐみ、早川ゆかり、〇〇〇〇、〇〇〇〇</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 授業ガイダンス、事例紹介 第 2 回 事例についてグループ学習① 第 3 回 事例についてグループ学習② 第 4 回 身体面に関する情報収集① 第 5 回 身体面に関する情報収集② 第 6 回 身体面に関するアセスメント① 第 7 回 身体面に関するアセスメント② 第 8 回 急変時の身体面に関する情報収集① 第 9 回 急変時の身体面に関する情報収集② 第 10 回 急変時のフィジカルアセスメント① 第 11 回 急変時のフィジカルアセスメント② 第 12 回 状況に応じた看護援助の実践① 第 13 回 状況に応じた看護援助の実践② 第 14 回 状況に応じた看護援助の実践③ 第 15 回 まとめ</p> <p>※授業の詳細な日程と内容は、第 1 回にガイダンス資料を配布して説明します。</p>

アクティブ ラーニング	グループ討議をとおして、主体的に問題解決に臨む姿勢を培います。 シミュレーション場面により臨床に近い環境における体験をし、学びを共有することで、実践力の向上を目指します。
授業内の ICT 活用	事前・事後学修、課題で e-learning 教材ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) を使用します。
評価方法	演習への取り組み 70% e-learning テスト 30%
課題に対する フィード バック	リアクションカードの回答、講評を次の授業 (または WebClass) にて行います。
指定図書	1 年次から 4 年次までに使用した図書 ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)
参考図書	なし 授業で適宜紹介します。
事前・ 事後学修	事前に事例の理解や確実な看護技術を実践するために必要な学習、セルフトレーニングを行い、授業に臨みます。 演習後自己の課題に応じてセルフトレーニングを実施します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	1 号館 6 階 1618 研究室、随時 不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	統合実習
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	2単位 (90時間) 必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	選択した看護学領域において、生命の尊厳と隣人愛を基盤として対象と適切な対人関係を築き、既修の知識・技能を活用し、看護実践現場の特性を踏まえて、問題解決的思考を展開しながら、看護における課題の解決に向けた実践に必要な基礎的能力を養う。また保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働の現状について理解を深め、そこで提供されている看護の実際を経験し、保健・医療・福祉チームの中で看護専門職としての役割を考えて行動することができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学んだ知識・技術を踏まえ、主体的に実習内容を調整し取り組むことができる。 2. ケアの優先順位を考え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 3. 体験する看護技術について自己の力量を見極め、その根拠と安全性・正確性を考慮しながら実践することができる。 4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、看護職としてのメンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる。 5. 統合実習で学んだことを通し、保健・医療・福祉の現状について理解を深め、看護職として自己の目標や課題を明確にできる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>学生は、7つの看護学領域から1看護学領域を選択して実習する。これまでの領域別看護学実習をふまえ、現場の看護師・保健師等の専門職者とともに、それぞれの場に応じた看護実践を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や施設の実習においては、1つの病棟（単位）に2～4人の学生を配置して2週間の実習を行う。病棟・施設の状況に応じて、複数患者・利用者あるいは大部屋の患者・利用者を受け持つ実習、一勤務帯を通した実習、夜勤帯の実習などを組み込む。 ・グループによっては、外来、NICUなどの特殊部門で実習を行う。 ・地域看護学（公衆衛生看護学、在宅看護学）領域の実習では、さまざまな看護が展開されている場で実習を行う。既修の知識・技術を基盤として、援助技術の向上、多職種や多機関との連携の理解を深める。 ・課題レポートをまとめ、8月に提出する。 <ul style="list-style-type: none"> *詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途示す。 *実習を行う領域や施設は調整により決定する。

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目です。 ・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20% で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)
課題に対する フィード バック	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
指定図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
参考図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
事前・ 事後学修	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際看護実習
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	2単位 (90時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	日本での事前学習やシンガポールのリハビリテーション病院を中心とした保健医療施設での看護実習を通して、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康のニーズ、保健・医療・看護の相違について学び、国際社会における看護専門職の役割と、専門職として貢献するための研鑽のしかた・将来の活動の方向性について考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とシンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度の相違点について説明できる。 2. 臨地におけるシャドーイングを通して、シンガポールの健康課題と看護専門職の役割、看護実践、人々の健康を支援するための健康教育等のアプローチについて理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護専門職として倫理的行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者のプライバシーを尊重し、得られた情報を守秘する。 ② 意欲的に学習に取り組み、謙虚に学ぶことができる。 ③ 問題解決のために積極的に行動し、報告・連絡
授業計画	<p><担当教員名> 小出扶美子、 ○○○○ <対象学生> 看護学部4年次生 2名</p> <p>【実習前課題学修】 4～8月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度についての文献学習・レポート作成 2. 関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書の作成 3. 上記2で取り上げたテーマに関する英語によるプレゼンテーション資料の作成 4. 語学学習 <ol style="list-style-type: none"> ① 英語教員による自主的英語学習への参加 (1回/2週) ② 国際交流センター主催の英語講習への参加 (1回/月) ③ TOEIC受験: Listening & Reading Test (実習までに1回受験) <p>【臨地実習 (2週間)】 9月 (シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義の受講 1日 2. 【事前課題】 3で作成した資料を用いた英語によるプレゼンテーション 3. shadowing 実習 (例) <ol style="list-style-type: none"> ① TTSH Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital (リハビリテーション病院): 4日間 ② Tan Tock Seng Hospital (タントクセン病院) Dover Park Hospice(ホスピス) Health Promotion Board (シンガポール健康省管轄 健康増進協会) 5日間 Home Nursing Foundation (訪問看護), Polyclinic 等 <p>※上記の施設で慢性看護、急性期看護、在宅看護、公衆衛生看護等の実習を行う。 学生の実習目標によっては、実習施設は変更になることもあります。</p> <p>【実習後課題学修】 9-11月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学びの振り返り <ol style="list-style-type: none"> ① 実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマをとりあげ、シンガポール看護実習における学びについて、考察を加えてレポートにまとめる。 ② 国際的な観点から看護専門職の役割を考え、その役割を担うために、専門性を深め主体的・継続的な研鑽の計画を具体的にまとめる。 2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	シンガポールの医療保障制度、健康指標データを調べる、現地でのプレゼンテーションの資料を作成するために ICT を活用する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む）40% ・臨地実習の目標達成度 40% ・事前・事後課題学修及び臨地実習に対する取り組み 20% <p style="text-align: right;">計 100%</p> <p>※実習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いません。</p>
課題に対する フィード バック	<p>実習前・後の課題学修では、個人または履修学生全体に対し、課題レポートへのコメントの記載やディスカッションでの意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバックを行います。</p> <p>臨地実習では、1週目の3日間、担当教員1名が実習をサポートしながら、課題とその成果に対するフィードバックを行います。またナンヤン理工学院看護教員による実習評価の内容について、担当教員がフィードバックを行います。</p>
指定図書	『知って考えて実践する国際看護』第2版, 近藤麻理著, 医学書院, 2018
参考図書	『目で見える国際看護 vol. 1 国際看護の現状/vol. 2 グローバルヘルス』西川まり子監修, 医学映像教育センター, 2012. その他、実習前の文献学習や語学学習に役立つ文献・情報源について授業で随時紹介します。
事前・ 事後学修	<p>【実習前課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習前の4～8月に、提示された課題について、各自、自己学習を行ってください。また語学学習①～③への参加・受講を必須とします。レポート作成等、時期により課題の量が異なりますが、週平均1～2時間の自己学習が必要です。そのほか、毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。 <p>【臨地実習中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習の内容の振り返りをまとめる。実習目標をふまえ、実習で学習したいことや質問したいことなどを英語で準備する。 毎日、1～2時間程度です。 <p>【実習後課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習後の10～11月に、提示された課題について、各自、レポートを作成してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・日本貿易振興機構 シンガポール事務所 (2014). 「シンガポールにおける医療・社会福祉サービスに関する調査報告書」 https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07001564/report.pdf ・日本貿易振興機構 サービス産業部 (2016). 「主要国・地域の健康長寿関連市場動向調査」 シンガポール P195-202 https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2016/995ecff75525fbb4/rp-health201603-1703.pdf ・厚生労働省. 統計情報・白書. http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/ ・世界保健機構. Global Health Observatory (GHO) data Singapore. http://www.who.int/gho/countries/sgp/en/
オフィス アワー	科目責任者：小出扶美子（看護学部）2713 研究室 メールアドレス：fumiko-k@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に月曜日午後としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールで連絡してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護活動展開論演習
科目責任者	伊藤 純子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	公衆衛生看護活動の基本的な理論・知識、特に「地域診断」に関する既修の知識・技術を統合して実践力を形成する。本演習では、公衆衛生看護学実習の実習地を対象として、実践的な地域アセスメントを行う。この演習で導き出された健康課題を仮説として、公衆衛生看護学実習の中で継続して検証し、健康課題を明確化するための調査計画並びに支援方法の立案を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康課題の明確化に必要な量的、質的データを多角的に収集することができる。 2. 基本的な知識・理論を体系的に理解し、根拠に基づいてデータをアセスメントできる。 3. 対象地域の地域特性を把握し、健康課題を予測することができる。 4. 予測される健康課題に対し、公衆衛生看護学実習で検証するための調査計画が立案できる。 5. 予測される健康課題に対し、対象特性と健康課題の特性に適った支援方法を計画できる。
授業計画	<p><担当教員名>伊藤純子、仲村秀子、若杉早苗</p> <p>調査計画の立案 第1回：オリエンテーション 第2回：演習計画の作成</p> <p>地域特性の把握と健康課題の検討 第3回：身体的・社会的・文化的側面からの客観的・主体的な情報収集とアセスメント 第4回：社会資源について情報収集とアセスメント 第5回：自然及び生活環境（気候・公害等）について情報収集とアセスメント 第6回：対象者及び対象者の属する集団を全体とした情報収集とアセスメント 第7回：健康問題を持つ当事者の視点を踏まえたアセスメント 第8回：収集した情報とアセスメント項目相互の関連性を検討 第9回：分析結果の統合および地域特性の予測、健康課題の明確化</p> <p>健康課題の明確化 第10回：健康課題の解決に必要な地域の人々が持つ力や資源の明確化 第11回：課題に対するアプローチとしての保健事業の概況の理解 第12回：健康課題の絞り込み 第13回：健康課題の再検討 第14回：公衆衛生看護学実習における調査計画の立案 第15回：調査発表会及びフィードバック</p>

アクティブ ラーニング	本授業はグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を利用して授業内・外での理解度を確認する双方向型授業を行う。 グループ発表のプレゼンテーション・フィードバックを ICT 機器を利用して行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 演習記録・プレゼンテーション資料等の記録物 70%、演習への取り組み 30%。 発表時には、ルーブリックを用いて評価を行う。内容は、オリエンテーション時に示す。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 実習担当教員が対面指導または webclass 上で課題へのフィードバックを行う。 調査発表会では、コメントカードを用いて対するフィードバックを学生相互に行う。
指定図書	<p>標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」, 医学書院, 2019. (購入済み)</p> <p>標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術」, 医学書院, 2016. (購入済み)</p> <p>標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動」, 医学書院, 2018. (購入済み)</p> <p>国民の介護と福祉の動向：厚生労働統計協会編 (購入済み)</p> <p>公衆衛生看護, 第 2 版, 中央法規出版, 2016. (購入済み)</p> <p>国民衛生の動向：厚生労働統計協会編 (最新版)</p> <p>公衆衛生がみえる：メディックメディア (最新版)</p>
参考図書	授業内で随時連絡
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に個人・グループごとに地域アセスメントを進めておく。担当教員から中間指導を受けられるよう記録をまとめ準備を行う。(第 2 回～13 回目、各 40 分) 授業後は指導を受けた点を修正する。(第 2 回～13 回目、各 40 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> e-Stat (政府統計ポータルサイト) 統計学習コンテンツ https://www.e-stat.go.jp/understand-statical-system-study-statics GIS 実習オープン教材 (科学研究費補助金 基盤研究 (A)) https://gis-oer.github.io/gitbook/book/
オフィス アワー	伊藤純子 (看護学部 1607 研究室: junko-it@seirei.ac.jp) 日時は初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護技術論
科目責任者	伊藤 純子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床場面で用いられる基礎看護技術を基として、生活の場で用いられる公衆衛生看護固有の技術に関連した理論やモデルと活用について理解する。また、成人期の発達課題と健康課題への理解を基盤として、公衆衛生看護活動を行う上での技術と方法について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基盤となる理論やモデルが理解できる。 2. 成人事例を基に公衆衛生看護の対象理解及び公衆衛生看護技術と活動方法が理解できる。 3. 成人期の人々を対象とした健康に関する法規と施策が理解できる。 4. 地域活動の様々な展開方法が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 伊藤純子、深江久代、仲村秀子、若杉早苗 <授業内容・テーマ等></p> <p>導入</p> <p>第1回 公衆衛生看護過程の展開 第2回 公衆衛生看護の基盤となる理論やモデル① 第3回 公衆衛生看護の基盤となる理論やモデル②</p> <p>成人事例の展開</p> <p>第4回 成人期の人々の理解と公衆衛生看護技術 第5回 成人期の健康課題に対応した主な法規、施策 第6回～9回 個人・家族への支援に必要な技術と方法： 家庭訪問、健康診査、健康相談</p> <p>第10～12回 地区／小地域への支援に必要な技術と方法： 地域診断</p> <p>第13～15回 住民組織／地域組織への支援に必要な技術と方法： 健康教育、セルフヘルプグループ、組織活動、連携調整、事業化</p>

アクティブ ラーニング	Think-Pair-Share 方式によるディスカッションを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて授業内の理解度確認を行う双方向型授業を行う。
評価方法	定期試験 80%、事前・事後学修 20%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に解説を行う。 ・リアクションペーパーへのコメントは全体またはWebclass で個別に行う。
指定図書	<p>標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 1年次に購入済み</p> <p>標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院</p> <p>標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院</p>
参考図書	授業内で随時連絡
事前・ 事後学修	授業前に WebClass 内の事前課題（第2回～15回）に回答する。所要時間は約 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>e-ヘルスネット（厚生労働省）保健指導者向けマニュアル教材</p> <p>https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/health-guidance</p>
オフィス アワー	<p>伊藤純子（1607 研究室: junko-it@seirei.ac.jp）</p> <p>日時は初回授業に提示する。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護技術論演習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	多様な対象者の健康問題を予測し、予防的に対処していくための、専門的な知識や技術の習得及び、課題解決の過程(アセスメント・分析・診断・計画・実施・評価)の6つの要素を理解し、理論に基づいた主体的に関与・支援ができる技能を身につける。さらに、公衆衛生看護活動を実践するための保健指導、健康相談、健診等に係る公衆衛生看護技術を習得する。
到達目標	<p>専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な対象者のセルフケア能力を高める保健指導計画の立案方法を理解できる。 2. 個人・家族に対する保健指導(個人・家族の健康支援)の展開ができる。 3. 集団に対する基本的な健康教育をおこなう方法を理解すると共に、地域支援(地域の健康課題)へとつながる保健指導の展開ができる。 4. 多様な対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 若杉早苗、仲村秀子、伊藤純子</p> <p>I. 導入 (2 コマ)</p> <p>第1回: オリエンテーション 若杉 第2回: 事業化に対する保健師の技術: 企画書作成のコツ・事業化・施策化について 伊藤</p> <p>II. 集団を対象とした公衆衛生看護技術 (4 コマ)</p> <p>第3回: 個別の特定健診結果・診療請求書(レセプト)から地域診断するテクニック(講義) 外部講師 第4~5回: 集団の保健指導技術(実習地域の地域診断計画の作成) 各教員 第6回: 集団の保健指導技術(実習地域の地域診断計画の共有: グループワーク) //</p> <p>III. 個人・家族を対象とした支援に必要な技術 (8 コマ)</p> <p>第7回: 個別の保健指導技術1(講義) 仲村 (効果的な保健指導のアセスメント・指導計画作成技術)</p> <p>第8回~9回: 保健指導の展開1 教員全員 (母子を対象としたアセスメント・訪問計画の作成)</p> <p>第10回~11回: 保健指導の相談技術1 //</p> <p>(新生児・乳幼児の相談技術: 実践(学生同士のロールプレイ等))</p> <p>第12回: 保健指導の展開2 //</p> <p>(成人を対象とした特定健診結果からアセスメント・指導計画の作成)</p> <p>第13回~14回: 保健指導・相談技術2 //</p> <p>(成人期の保健指導・相談技術: 実践(特定健診結果の説明、血圧測定技術チェック))</p> <p>IV. 地域全体を支援する事業化・施策化に必要な技術 (1 コマ)</p> <p>第15回: 健康危機管理の支援技術(感染症) 若杉</p> <p><u>個人・家族を対象とした相談・指導技術の実技試験をおこないます。(第1回目で内容を提示)</u></p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。集団を対象とした学修は、個人ワーク、プレゼンテーションをします。 個人・家族を対象とした学修では、保健師の実践技術をロールプレイにより習得していきます。
授業内の ICT 活用	家庭訪問(母子・成人)のロールプレイを iPad で撮影し、自分の指導の様子を可視化して振り返る。
評価方法	定期試験 50%、演習記録 30%、 演習への取り組み態度 20% *演習評価は、ルーブリックを用いない。演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。
課題に対する フィード バック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。 講義のコマではリアクション・ペーパーの記載から到達していない課題を確認し、次回の演習でフィードバックしていきます。
指定図書	乳幼児健診マニュアル 第5版 (医学書院) 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論：医学書院：購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術：医学書院：購入済み 国民衛生の動向：(厚生労働統計協会編)：購入済み 国民の福祉と介護の動向：(厚生労働統計協会編)：購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2018-2019：MEDICMEDIA ※この他必要に応じて随時紹介します
事前・ 事後学修	公衆衛生看護技術論の確認及演習のための事前課題を教員より提示します。 特定健診・特定保健指導、医療保健制度、保険診療の仕組み（診療請求書：レセプト）について (成人看護、国民衛生の動向、公衆衛生がみえる 2018 - 2019)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclass に掲載し活用を促す。 Google Scholar： https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja J-Stage： https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/ 学術機関ジポトリ： https://irdb.nii.ac.jp/
オフィス アワー	研究室：1号館2階1210研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール (sanae-w@seirei.ac.jp) でアポイントメントをお願いします。
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護総合演習
科目責任者	伊藤 純子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	公衆衛生看護活動展開論演習と公衆衛生看護学実習で行った地域の健康課題抽出、活動計画立案の過程より、地域の健康課題とその課題を解決するための施策を検討するための思考過程を整理する。整理された施策の内容から、対策を1つ絞って事業案を作成し、事業化のプロセスを学ぶ。その事業案を、実習市町に提案し、地域の健康課題解決に貢献することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの公衆衛生看護活動展開論演習や公衆衛生看護学実習において、公衆衛生看護活動は、PDCA サイクルによって展開されていることを再認識できる。 2. 今までの演習や実習で取り組んだ内容を、情報収集、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として再度整理できる。 3. 2で整理した過程から健康課題を明確化し、施策を検討できる。 4. 施策を実現するための事業化案の作成により、施策と事業の位置づけを理解できる。 5. 事業化のプロセスを述べることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 伊藤純子、仲村秀子、若杉早苗</p> <p>演習オリエンテーション</p> <p>第1回：事業化・事業の評価の視点（講義）</p> <p>情報の統合と再分析</p> <p>第2～3回：公衆衛生看護学実習で収集した健康問題関連情報を整理し、統合して分析する。 3年次の演習・4年次の実習で得た情報を統合し、分析する。</p> <p>第4回：今まで出ていた地域の健康課題を再度検討し、根拠を明らかにする。 課題解決のための既存事業の改善や社会資源の開発なども検討する。</p> <p>第5回：これまでの内容を、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として整理する。</p> <p>第6～7回：地域の健康課題解決のための事業案を作成する。 事業案は、事業の目的、裏付けとなる根拠、内容、評価、予算について提案する。 新規事業だけでなく、既存の事業の修正なども含み、提案する。</p> <p>プレゼンテーション</p> <p>第8～9回：プレゼンテーション準備 事業企画書作成、パワーポイント作成（事業の根拠となるデータや社会資源等）。</p> <p>第10～11回：事業案をグループ毎に発表し、市町単位で情報を共有する。</p> <p>第12～14回：地域の健康課題解決のための事業案を発表する。 市町・保健所の実習指導者より、提案した事業に対して、実現可能性に向けて、修正点や改善に関するフィードバックを受ける。</p> <p>演習のまとめ</p> <p>第15回：これまでの事業化プロセスを、個人・グループで振り返る。 教員から演習全体を通したフィードバックを受ける。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主導のグループ発表 / ディスカッション ・協働学習 / 問題解決型学習
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への取り組み (20%) ・演習全体 (資料内容、事前プレゼンテーション等 (40%) ・当日の発表内容 (20%) ・各自の振り返りレポート (20%) <p>発表時には、ルーブリックを用いて評価を行う。内容は、オリエンテーション時に示す。</p>
課題に対する フィード バック	フィードバックについては、各回ごとに担当教員と話し合い、目標達成状況や作成資料の状況等についてフィードバックを行う。
指定図書	<p>標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」 医学書院：(購入済み)</p> <p>標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術論」 医学書院：(購入済み)</p> <p>標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動論」 医学書院：(購入済み)</p>
参考図書	「公衆衛生がみえる」 メディックメディア
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護展開論演習、公衆衛生看護学実習で収集した地域アセスメントに関する情報を整理する。(第1回) ・今まで授業で学んだ地域アセスメント、公衆衛生看護活動の計画・実践・評価のプロセスをテキストや授業配布資料等を使い復習する。文献を収集する。(第2～7回) ・事後学修は、各回ごとに教員の助言を受け、不足する部分の内容を補う。 <p>いずれも所要時間は40分である。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Stat (政府統計ポータルサイト) 統計学習コンテンツ https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics ・GIS 実習オープン教材 (科学研究費補助金 基盤研究(A)) https://gis-oer.github.io/gitbook/book/
オフィス アワー	<p>各教員のオフィスアワーの時間が異なりますので、授業初日に提示します。</p> <p>伊藤純子 (1672 研究室:junko-it@seirei.ac.jp)</p> <p>仲村秀子 (1212 研究室:hideko-n@seirei.ac.jp)</p> <p>若杉早苗 (1220 研究室:sanae-w@seirei.ac.jp)</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護管理論
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、だれもが暮らしやすい地域になるように働きかけることであり、保健師の専門性そのものである。 この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。
到達目標	1. 公衆衛生看護管理がなぜ必要か、理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中で、公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 若杉早苗、仲村秀子、伊藤純子</p> <p>第 1 回：公衆衛生看護管理の目的と機能 若杉早苗</p> <p>第 2 回：公衆衛生看護における管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人事管理・人材育成、情報管理）、地域ケアの質の保証 若杉早苗</p> <p>第 3 回：公衆衛生看護管理の実際について ゲストスピーカー （事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人事管理：袋井市）</p> <p>第 4 回：公衆衛生看護活動の展開事例から、管理機能の分析 伊藤純子・若杉早苗 （事例管理、地区管理、人材育成、情報管理：発達上の問題が疑われる乳幼児の事例）</p> <p>第 5 回：健康危機管理（感染症） 感染症集団発生時の保健師活動、パンデミック事例の活動 仲村秀子 （疫学・保健統計の国家試験問題の傾向含む）</p> <p>第 6 回：健康危機管理の定義と要因、リスクマネジメント、リスク評価の視点 若杉早苗 公衆衛生看護学実習（保健所実習）で聞き取った保健師の健康危機管理活動の情報交換</p> <p>第 7 回：健康危機管理（災害） 災害の定義と保健活動の目的、制度とシステム (40) 若杉早苗</p> <p>第 8 回：平常時、災害応急対策期、災害復旧・復興対策期の実際の医療活動 (80) ゲストスピーカー 実際の医療活動事例から健康危機管理（災害）を考える (GD：30)</p>

アクティブラーニング	<p>毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。</p> <p>第4回：事前に課題として事例を提示し公衆衛生看護管理の視点で各自まとめる。それをもとに授業では、グループディスカッションをおこない、管理機能の視点をまとめていく。</p> <p>第5回：公衆衛生看護学実習で聞き取った健康危機管理事例の各保健所の活動を、グループで情報共有し、健康危機管理における保健師の支援の視点をまとめる。</p> <p>第8回：健康危機管理(災害)の実践活動事例を聞き、健康危機管理の視点を考えまとめていく。</p>
授業内のICT活用	<p>グループの意見をグーグルフォームの様式に入力し、他のグループの意見を可視化できるようにする。(公衆衛生看護領域で購入したパソコンを活用)</p>
評価方法	<p>提出物：授業後の提出物 (20%)</p> <p>レポート1：実際の活動より公衆衛生看護管理の機能をまとめる (20%)</p> <p>レポート2：保健師の活動展開事例より公衆衛生看護管理の機能を分析する (30%)</p> <p>レポート3：災害時の保健師活動事例を聞き、健康危機管理の視点をまとめる (30%)</p> <p>*レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。</p>
課題に対するフィードバック	<p>課題について、授業の中で、保健師の支援内容について要点のフィードバックを行う。</p>
指定図書	<p>標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 医学書院： (購入済み)</p> <p>標準保健師講座2 「公衆衛生看護技術論」 医学書院： (購入済み)</p> <p>標準保健師講座3 「対象別公衆衛生看護活動論」 医学書院： (購入済み)</p>
参考図書	<p>「公衆衛生がみえる」メディックメディア</p> <p>メディカル・フレンド社 「最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理」</p>
事前・事後学修	<p>事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書のページを指定する、または、課題を提示するので、その部分を読む、課題に取り組む等、40分以上の予習をして授業に臨むこと。</p> <p>事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>科目内で学習したP-Pスライドおよび事例検討におけるグループワークの意見をWebclassで閲覧できるように掲載していく。</p>
オフィスアワー	<p>若杉早苗 (1220 研究室:sanae-w@seirei.ac.jp)</p> <p>時間帯については初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	<p>公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、だれもが暮らしやすい地域になるように働きかけることであり、保健師の専門性そのものである。</p> <p>この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。</p>

科目名	公衆衛生看護学実習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	都道府県及び政令指定都市や市町の行政責任において実施されている公衆衛生看護活動の実際を理解し、地域で生活している全ての人々を対象とした予防的意義の高い保健活動の実際を学ぶ。さらに、地域で生活している人々が安心して暮らせるための地域ケアシステム構築のための公衆衛生活動（地区活動）のあり方を考察する。
到達目標	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、主体的に多職種と連携・協働することができる。 1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。 2. 事業の体系として施策が理解でき、施策の策定における地域ケアシステムの機能と運営について考えることができる。 3. 個人・家族・集団に対して健康課題解決のための公衆衛生看護技術の実践ができる。 4. 地域の住民や関係機関と連携して活動する意義が理解できる。
授業計画	<担当教員名> 若杉早苗、仲村秀子、伊藤純子 第 1 日目：公衆衛生看護学実習についてのオリエンテーション 実習のプロセス：家庭訪問（主体的実践）、健康教育、地域診断の 3 つの軸で実習をおこなう 第 2～20 日目 1. 家庭訪問：選定した対象者の主体的な保健指導実践 1) 家庭訪問事例の選定 2) 保健師の家庭訪問に同行・見学 3) 選定事例のアセスメント及び訪問計画・保健指導計画作成 4) 主体的訪問の実践（実施）及び評価 2. 健康教育：健康課題を解決するための教育計画の作成 1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に対する教育計画の作成 2) 健康教育対象者の選定 3) 保健師がおこなう健康教育の見学 4) 健康教育の準備（リハーサル） 5) 健康教育の実施及び評価 3. 地域診断：収集した健康問題の分析報告と関連する保健事業体系図の作成 1) 公衆衛生看護活動展開論演習で抽出した健康問題に関連する情報と収集する方法を検討し、地域診断計画を作成する 2) 地域診断計画に沿って質的・量的情報収集をおこなう 3) 収集した情報を分析し、健康問題を明確化する 4) 地域診断により抽出された健康問題に対し行われている保健事業、対策を把握する 4. 地域の予防活動に関連した地区組織や自主組織活動、地域レベルでの連絡会議等に参加し、活動の意義や地域の健康ニーズに対しどのように有効に機能しているか理解する <実習時の体験項目> 1. 保健師技術習得：家庭訪問及び健康教育の実践 2. 地域診断：地域課題の調査及び分析 3. 保健行政システムの理解：対象者を支援する地域ケアシステムを整理する 4. 健康危機管理における公衆衛生看護活動の理解：集団感染症発生時の活動の聞き取り

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	健康教育を実習場で行うにあたり、インターネットから得た情報を参考に活用しながら企画をおこなう。そのため、遠隔地において学生が共有できるパソコンの支給及びインターネット環境を確保する。
評価方法	実習記録 60%、課題レポート 20%、 実習に取り組む姿勢や態度 20%
課題に対する フィード バック	日々の実習日誌及び日々のミニカンファレンスでフィードバックをおこないます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第5版』(医学書院)：購入済み 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』：医学書院：購入済み 『国民衛生の動向』：(厚生労働統計協会編)：購入済み 『国民の福祉と介護の動向』：(厚生労働統計協会編)：購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2018-2019：MEDICMEDIA：購入済み この他については、随時紹介します
事前・ 事後学修	公衆衛生看護に関わる法律を基本としたワーク (2019年度公衆衛生看護実習・演習要項・記録冊子参照) 実習で参加する事業に係る事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclass に掲載し活用を促す。
オフィス アワー	研究室：1号館2階1210研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール (sanae-w@seirei.ac.jp) でアポイントメントをお願いします。(実習地域別担当教員のメールは2020年度 公衆衛生看護実習・演習要項・記録冊子参照)
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

アクティブ ラーニング	第3回はグループワークを行う。 第4回は演習、第5・6回はグループワークとプレゼンテーション、第10-11回はシミュレーション教育を行う。 第12回は環境衛生検査の演習を行う
授業内の ICT 活用	プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 学校保健管理ソフト演習では、ICT 機器を利用して理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	課題提出物 30%、筆記試験 70%
課題に対する フィード バック	レポート及びリアクションペーパーはコメントを添えて返却する。
指定図書	1. 三木とみ子編 『新訂 養護概説』（ぎょうせい）
参考図書	4. 津島ひろ江：「学校における養護活動の展開」ふくろう出版 5. 学校保健安全実務研究会編：「新訂版 学校保健実務必携」第一法規 6. 児童生徒の健康相談マニュアル 平成27年改訂（日本学校保健会）
事前・ 事後学修	1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 40 分とする。 ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（2～13 回目）。 ・授業前に、Webclass 内の事前課題に取り組むこと（2～12 回目） ・授業後に、Webclass 内の小テストを実施すること（6 回目、12 回目） ・レポート「養護教諭の教育活動に必要な能力と能力形成に向けた自身の課題」についてレポートを作成すること ・指示された「ほけんだより」を作成すること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/
オフィス アワー	科目責任者 津田 聡子（1619 研究室:satoko-t@seirei.ac.jp） 事前に予約を入れてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育制度論
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP(1) 教職
科目の位置付	教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	教育を「公的に制度化され、組織化されてきたもの」ととらえ、日本の教育制度はどのような原則と理論的枠組みで組織されているのか、社会においてどのような機能を果たしているかを理解する。教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みを理解し、その下で運営される学校経営の組織と人員配置について理解を深める。最後に、現在の教育制度改革の論議を取り上げ、今後の教育制度の創造へのあり方を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているか説明できるようにする。 2 教育制度を運営する教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みと学校経営について理解を深め、説明できるようにする。 3 今日の公教育制度の問題点と教育制度改革について理解し、説明できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：公教育・私教育とは何か？</p> <p>第 2 回：公教育の制度的原理</p> <p>第 3 回：日本の教育制度：我が国の学校教育体系と教育制度の類型</p> <p>第 4 回：日本の教育制度の歴史</p> <p>第 5 回：諸外国の教育制度</p> <p>第 6 回：教育行政の組織と活動 1：教育行政とは</p> <p>第 7 回：教育行政の組織と活動 2：文部科学省について</p> <p>第 8 回：教育行政の原則と活動 3：教育委員会の仕組み</p> <p>第 9 回：教育行政の組織と活動：教育委員会の組織と活動</p> <p>第 10 回：教育行政の組織と活動：教育委員会による教員採用</p> <p>第 11 回：学校経営：学校経営の組織と人員配置</p> <p>第 12 回：教育改革：学校選択と学校参加・チーム学校</p> <p>第 13 回：教育改革：コミュニティースクールの調査</p> <p>第 14 回：教育改革：コミュニティースクールのレポート作成</p> <p>第 15 回：プレゼンテーション</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、リサーチ・レポートの作成、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	リサーチレポートの作成を、ipad での検索で行います。
評価方法	授業内評価点 (60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%) + 最終テスト (40%) <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最後には、小テストを実施して評価します。 ・論述式のテストで評価するが、ループリックは用いない。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの解答例の提示、テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント、
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に適時提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して次の授業に臨んでください。(2 回～15 回目) ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。(2～15 回目) ・毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・なし

科目名	道徳及び特別活動の指導法
科目責任者	梅澤 収
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	<p>(担当：米原 優)</p> <p>これまでの道徳教育の歴史や現行の『学習指導要領』の内容の確認を通して、道徳教育の意義を考えていく。また、道徳性の発達に関する理論やそうした理論に従った道徳教育の妥当性も検討する。また、現代の道徳教育が取り組むべき課題についても紹介する。</p> <p>(担当：梅澤 収)</p> <p>学校教育における特別活動の位置づけについて理解し、その歴史を振り返りつつ、実際の特別活動の実践事例を検討し、そのうえに立って指導計画を構想する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における道徳（の時間）の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。 2. 学校教育における特別活動の意義や一般的な指導法などを学び、児童・生徒個人々の成長・自己実現や、対人関係・集団づくりに寄与する特別活動の実践について考察する。
授業計画	<p>第1回：道徳とは何か 米原 優</p> <p>第2回：道徳教育の歴史1（戦前） 米原 優</p> <p>第3回：道徳教育の歴史2（戦後） 米原 優</p> <p>第4回：道徳教育の現在（現行の『学習指導要領』について） 米原 優</p> <p>第5回：道徳教育の理論1（コールバーグの理論） 米原 優</p> <p>第6回：道徳教育の理論2（リップマンの理論） 米原 優</p> <p>第7回：道徳教育の課題1（いじめについて） 米原 優</p> <p>第8回：道徳教育の課題2（SDGsについて） 米原 優</p> <p>第9回：特別活動とは？～学習指導要領における特別活動～ 梅澤 収</p> <p>第10回：特別活動の理論 梅澤 収</p> <p>第11回：特別活動の前史と展開 梅澤 収</p> <p>第12回：特別活動の実践（1：学級活動を中心に） 梅澤 収</p> <p>第13回：特別活動の実践（2：学校行事を中心に） 梅澤 収</p> <p>第14回：特別活動の実践（3：地域社会との連携） 梅澤 収</p> <p>第15回：まとめ 梅澤 収</p>

アクティブラーニング	(道徳) なし (特別活動) 本授業は、ワークシート活動、集団討論、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	(道徳) なし
評価方法	(道徳) 小テスト(計三回)(100%)で評価する 授業の中間および最終レポート(計80%)に、授業への参加度等(20%)を加味して総合評価する。 (特別活動) 最終試験(計80%)に、授業への参加度等(20%)を加味して総合評価する。
課題に対するフィードバック	(道徳) 授業内で小テストへの解答例を提示する (特別活動) 授業中のワークシートや討論の概要・感想について返却する。最終試験の答案も返却する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前には、それぞれの小・中学校の「道徳」や「特別活動」について記憶をたどっておいて下さい。事後については授業中に連絡・指示します。
オープンエデュケーションの活用	(道徳) なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	

科目名	生徒指導の理論と方法
科目責任者	太田 正義
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	生徒指導は、学校教育において欠かすことのできない機能である。児童生徒を理解し、人格的成長を促す生徒指導のあり方について、基本的な知識を学ぶとともに、児童生徒一人一人のニーズを把握し、適切なアプローチができるための具体的な方法について、実際の事例をもとに体験的に学んでいく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義とその課題について正しく理解し、説明することができる。 2. 生徒指導の具体的な方法について、個別・集団の観点から説明することができる。 3. 児童生徒の問題とその問題への支援方法を理解し、説明することができる。 4. 児童生徒の成長を促す支援方法について、発達段階の観点から説明することができる。
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：生徒指導の意義と役割</p> <p>第3回：生徒指導の課題</p> <p>第4回：生徒指導における集団活動①（グループアプローチの理論）</p> <p>第5回：生徒指導における集団活動②（グループアプローチの実際）</p> <p>第6回：不登校問題の理解と対応①</p> <p>第7回：不登校問題の理解と対応②</p> <p>第8回：発達障害の理解と対応①</p> <p>第9回：発達障害の理解と対応②</p> <p>第10回：児童虐待の理解と対応①</p> <p>第11回：児童虐待の理解と対応②</p> <p>第12回：いじめ問題の理解と対応①</p> <p>第13回：いじめ問題の理解と対応②</p> <p>第14回：性的マイノリティーの理解と対応</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	課題レポート 30%, 授業への取り組み 20%, 定期試験 50%
課題に対するフィードバック	なし
指定図書	資料は授業中に配布します。
参考図書	なし
事前・事後学修	「生徒指導提要」に目を通し、生徒指導についての理解を深めた上で受講すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業中、またはメールにて受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(1)教職	
科目の位置付	教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。	
科目概要	学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング(傾聴)技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校(保健室登校)、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方(個別及び連携)について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	<p>1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題(不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など)について理解する。</p> <p>1の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。</p>	
授業計画	<p>第1回：学校教育における教育相談の意義</p> <p>第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法1 ：傾聴技法の基本</p> <p>第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法2 ：傾聴技法のロールプレイ</p> <p>第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法3 ：生徒対応のロールプレイ</p> <p>第5回：児童生徒への関わり方についての事例検討</p> <p>第6回：保護者への関わり方についての事例検討</p> <p>第7回：不登校児童生徒の理解と支援</p> <p>第8回：保健室登校の理解と支援</p> <p>第9回：いじめに関する理解とその対応1：講義</p> <p>第10回：いじめに関する理解とその対応2：演習</p> <p>第11回：児童虐待の理解と支援</p> <p>第12回：校内支援体制(チームによる援助)の実際</p> <p>第13回：模擬事例検討(グループワーク)1：不登校の事例</p> <p>第14回：模擬事例検討(グループワーク)2：保健室登校の事例</p> <p>第15回：模擬事例検討(グループワーク)3：心身症の事例</p>	<p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。
授業内のICT活用	なし。
評価方法	定期試験50％, 授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など)50％
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、全体場で回答・コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。また、授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	長峰伸治(看護学部)1708研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	養護実習事前事後指導
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (1) 教職
科目の位置付	教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。 3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、津田聡子</p> <p>◎養護実習 I (4 月実施) について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・健康診断の各検査・計測についての注意事項・実施方法の講義(練習) ・併設校での健康診断補助のお手伝い(聖隷クリストファー中・高等学校) ・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー：ソフト開発者) <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる学びの共有(グループ単位で発表会) <p>◎養護実習 II (9 月実施) について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育現場の現状について(ゲストスピーカー：飯田真也先生) ・学校保健の概要、応急処置シミュレーション ・指導案の書き方についての指導 ・発達障害児童生徒の理解 (ゲストスピーカー：大須賀優子先生) ・実習記録の書き方 <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り(個人面接) ・実習のまとめ(発表会) <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。 ・実習の振り返りの発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定。
評価方法	授業への取り組み態度 50%、振り返りのレポート 50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートに関しては教員がチェック・コメントをして返却する。 ・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>津田聡子(看護学部) 1619 研究室 satoko-t@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	養護実習 I
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (2) 教職
科目の位置付	教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学校での健康診断の補助または生徒や教職員との関わりを通して、学校保健活動や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営、養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、生徒の健康や生活実態を、実際の健康診断の補助を行うことを通して理解する。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、津田聡子</p> <p>実習時期・期間・場所</p> <p>4 年次 4 月 (1 週間) 聖隷クリストファー中・高等学校</p> <p>※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。 ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導につなげる。少なくとも40分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>津田聡子(看護学部) 1619 研究室 satoko-t@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	養護実習Ⅱ
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	3単位 (135時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	教DP(2)教職
科目の位置付	教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営(学校の組織、教育目標、教育課程)、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、津田聡子</p> <p>実習時期・期間・場所</p> <p>4年次9月(3週間) 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。 ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>津田聡子(看護学部) 1619 研究室 satoko-t@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教職実践演習（養護教諭）
科目責任者	津田 聡子
単位数他	2単位（30時間） 選択 8セメスター
DP番号と科目領域	教DP(2)教職
科目の位置付	教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	養護実習で学び体験したことを総合的に学習しながら、児童生徒の健康ニーズに対応できる養護教諭に必要な基礎的な実践力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭としての使命感や責任感に基づいた確かな実践力を身につける。 2. 養護実習での体験を振り返りながら、養護教諭として必要な基本的な資質（教員として使命感・責任感・教育的愛情、対人関係能力、児童生徒への理解・支援、学校保健活動、保健室経営、保健教育など）に関する自らの課題を自覚する。 3. 実践的な演習や学校現場でのフィールドワーク等を通して、不足している知識・技術を身につけ、理解力、実践力を高める。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、津田聡子</p> <p>第1回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成1：立案 第2回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成2：グループ討論とフィードバック 第3回 理想の保健室づくり（レイアウト、機能：グループワーク） 第4回 保健便り及び掲示物の発表・フィードバック 第5回 養護教諭の職務でのジレンマに関する事例検討1：グループ討論 第6回 養護教諭の職務でのジレンマに関する事例検討2：発表とフィードバック 第7回 保健室での対応（主に応急処置について）1：事例検討 第8回 保健室での対応（主に応急処置について）2：実践 第9回 模擬授業の実施（受講生全員一人ずつ行う） 第10回 模擬授業に対するフィードバック（グループに分かれて） 第11回 発達障害児童生徒の問題行動への支援について（担当教員：大須賀優子先生） 第12回 スクールソーシャルワーカーによるレクチャー（担当教員：夏目由起子先生） 第13回 学校現場体験（西部特別支援学校）1：参観 第14回 学校現場体験（西部特別支援学校）2：校長講話 第15回 学校現場体験（西部特別支援学校）3：養護教諭講話</p>

アクティブ ラーニング	第1～6回はグループワークを、第7回はロールプレイを行う。 第8回は模擬授業の発表を行い、9回にはディスカッションを実施する。 第13～15回はフィールドワークを行う。
授業内の ICT活用	第8回模擬授業発表時にプロジェクターを使用する場合がある。
評価方法	授業への取り組み態度（授業中の態度だけでなく、本科目前後に実施するルーブリックによる自己評価とそれを用いた面談も評価対象になる）50%、事前事後の課題（レポートなど）50%
課題に対する フィード バック	事前・事後に出される課題について授業中に全体の場でフィードバックする。また、履修カルテ（ルーブリック評価）を用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。
指定図書	なし 講義時に配布する
参考図書	なし
事前・ 事後学修	養護実習の振り返りをしながら事前課題にしっかり取り組む。事後においては本授業で行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/ 学校現場体験先ホームページ http://www.edu.pref.shizuoka.jp/seibu-sh/home.nsf/
オフィス アワー	津田聡子(看護学部) 1619 研究室 satoko-t@seirei.ac.jp 長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。